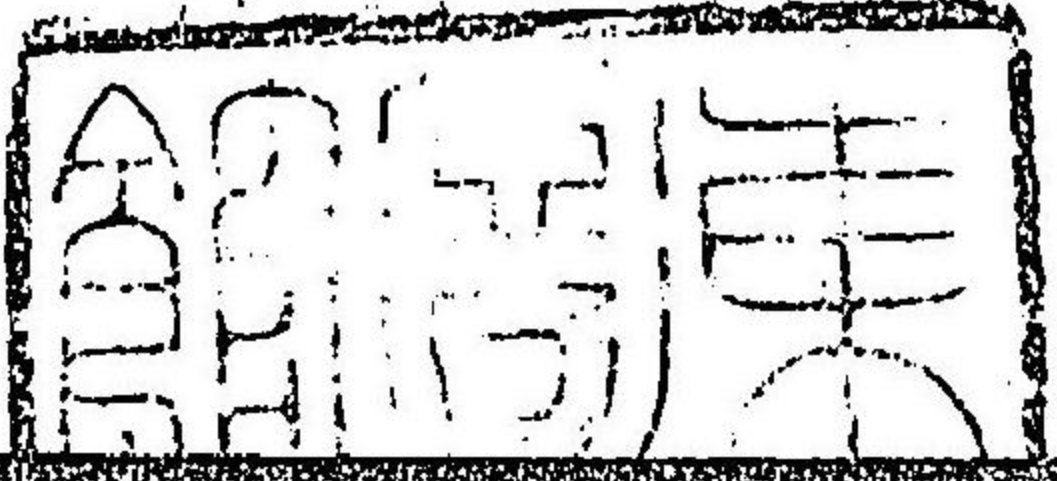


74-72



山田正賢著述

法華義疏

鷓鹿苑藏版



法學博士梅謙次郎君書簡

雖未得拜顔昨年茅蘆を叩かれ今春又辱
惠書奉拜謝候大著帝國憲法講義の批評
を試むへき旨専門家にもあらざる小生
には過分の名譽候へば自分研究の爲
旁一應拜見仕度存居候處法典調査會の
事務思の外多忙未得寸暇際不幸猩紅熱

に罹り病院よ大機に月餘療養のみに時
を費し法典調査會の事務も爲めに不尠
澁滯を來たし候仕合就ては五百餘頁の
大册容易よ一讀の餘暇も難得中々以批
評を試むるの場合よ至り兼候よ付責め
て序文よても一篇起稿仕度存候得共未
一讀著書よ對し序文を附するは小生の

屑とせざる所よ候間兎よ角右の情實申
述乍遺憾御來意御斷申上候外無之と奉
存候但憲法のみよ六年の研究を費した
る人は本邦には未無之と被存候間議論
の合はざる所あるは學者の免かれ難き
所よ候へ共兎よ角御上梓被成候は、其
後學よ裨補する所尠少よ非すと存候間

何卒速よ御上梓の程こそ望ましけれ尤
小生の所論よ對し御論評有し由一本教
授より拜承仕候よ付其點丈は致謹讀御
論評よ對し辨駁も致し度候へ共是は後
日得閑暇候時に譲り可申候右よ付御預
申上居候玉稿可致返納は其旨御申越被
下度直ちに御郵送可申候自然御入用無

之候は、永く書庫に保存時々拜讀可仕
候先は當用まで早々頓首

三月十四日夜

梅 謙次郎

山田正賢様

尙々自然御出京の御序も有之候は、
御來駕被下度不堪希望候也

帝國憲法講義序

立憲國臣民よして、其憲法を知らざるは、
猶ほ武門に生れて、武道を知らざるが如
し。然るに我が帝國の如きは、憲法發布の
日、尙ほ淺く、臣民中其明文だも知らざる
者多し。况や其眞義と運用とに於てをや。
是よ於て乎世の近眼好利の徒、動もすれ

ば之を曲解し之を濫用し以て一身一時の利便を謀り曾て弊毒を天下後世に流傳すること顧慮せざるに至る。豈に慨歎に堪ゆ可んや。聞く著者山田正賢君は憲法發布後直ちに之が講究に着手し年を閲すること六稿を改むること五遂に此書を公行するに至れりと。其篤志勉強

寔に感するに堪へたり。之を彼の輕々筆を執て自ら信せず又自ら行はざるの言説を公けにする者に比すれば其差霄壤と云ふべし。世の當世に志ある者皆憲法を愛重し日夜之を講究すること山田君の如くふらば曲解濫用以て自ら爲めにする者必ず其迹を絶たん。而して憲政

の恩澤、始めて全國に普及せん。聊か言を
題して序文と爲す。

乙未初秋

學堂居士

例言

一明治二十二年二月下旬書肆ノ囑託ヲ受ケ本書ノ起稿ニ着手
シ先ツ國家ハ法人ニシテ君主ハ其代表者ナリ主權者ノ語ヲ
主權ヲ有スル者ノ意義ニ解スレハ國家ハ主權者ニシテ代
之ヲ行フモノ、意義ニ解スレハ君主ハ即チ主權者ナリト云
フニ筆ヲ起シ第一第二第三條ヲ終リ第四條ニ至リテ少シク
疑義アリシモ本條ハ天皇ノ大權ヲ制限シタルモノナリト無
造作ニ解釋シテ筆ヲ進メタリ然ルニ緊急命令ヲ規定シタル
第八條ニ至リテ意外ニモ疑問百出筆全ク動カスナリヌ爲ニ
始ニ立戻リテ立論ノ當否ヲ再考スルニ緒言モ非ナリ第一條
ノ解釋モ非ナリ第二條第三條モ非ナリ第四條ノ解釋ノ如キ

最モ非ナリ之ヲ改ムレハ改ムルニ從ヒ之ヲ正セハ正スニ從
ヒトシテ非ナラサルモノナク益々眞理ニ遠サカルカ如キ感
アリ依テ暫ラク筆ヲ止メテ諸種ノ書籍ヲ參考セシニ法學協
會雜誌第六十号ニ載スル所ノ帝國憲法法理ト題スル穗積博
士ノ講義ヲ讀ムニ及ンテ平常余カ信スル所ト反スルノ甚シ
キニ驚歎シタリ次テ有賀學士ノ穗積博士帝國憲法法理ヲ誤
ルト題スル憲法雜誌記載ノ論文ヲ讀ミ又穗積博士カ之ニ答
フル所ノ有賀學士ノ批評ニ對シ聊カ主權ノ本体ヲ明カニス
ト題スル論文ヲ讀ムニ至テハ孰レカ是ニシテ孰レカ非ナル
ヤ殆ント其斷定ニ苦メリ國家ハ即チ君主ニシテ君主ハ即チ
國家ナリトノ議論ノ如キハ余ノ常ニ嫌惡スル所ナルカ故ニ

穗積博士ノ說ニ反對セント欲シテ再三稿ヲ改ムルモ之ヲ破
ル丈ノ有力ナル論據ヲ發見スルコト能ハス苦心三月遂ニ書
肆ノ約ヲ破リ筆ヲ捨テ一意憲法ノ講究ニ從フコト殆ント三
年獨リ自ラ國家論ヲ編述シ稍得タル所アルヲ以テ二十五年
一月一筋に學の道とふみわけて死なば屍に花もさきなんナ
ドロスサミツ、更ニ筆ヲ執リテ本書ノ起稿ニ從事シ年ヲ重
ヌルコト再ヒ三年ノ今日ニ至リ稿漸ク成ル其間稿ヲ改メ訂
正ヲ加フル數十回始メ千頁以上ノモノ遂ニ此ノ小冊子トナ
レリ

一書中國家ニ關スル解説及ヒ既定歳出ノ法理ノ如キハ極力研
究ノ餘ニ出テタルモノニシテ何人ノ攻撃ヲ受タルモ敢テ破

レサルコトヲ確信スト雖モ緊急命令ニ關スル議論ニ至リテ
ハ必スシモ眞理トシテ之ヲ讀者ニ強ユルコト能ハス何トナ
レハ條文ノ解釋トシテハ數年ノ苦心ニ出テタルモノ余固ヨ
リ之ヲ確信スト雖モ然レトモ單ニ法理上ヨリスレハ少シク
不當ナルモノアルコト本文ニ述フル所ノ如クナレハナリ
一世間自己ノ持論ニ合セス若クハ其主義ニ違反スルモノアル
ヲ見ルヤ直ヤニ評シテ曲學阿世ト云フ余其當否ヲ知ラス只
余未タ官途ニ就カス政黨ニ入ラス人一度ヒハ死セサルヘカ
ラスシテ而シテ我ハ眞理ノ爲メニ死センコトヲ欲スル者豈
何ノ爲メニカ其信スル所ヲ曲テ世ニ阿子ルノ愚ヲナサンヤ
本書說ク所今世ニ容レラレサルモノアルカ故ニユ、ニ之ヲ

一言ス

一書中穂積博士曰クトアルモノハ穂積八東氏ノ帝國憲法法理
及ヒ法學協會雜誌ニ依リ一木學士曰クトアルモノハ一木喜
徳郎氏著法令豫算論ニ依ル其他ハコ、ニ畧ス
一書中穂積博士及ヒ一木學士ノ說ヲ駁シタル所多ク又二氏ノ
說ニ取ル所少ナカラスコ、ニ之ヲ証明シテ深ク両氏ニ謝ス
一明治二十二年本書ノ著述ヲ企テ、ヨリコ、ニ六年其間大阪
ノ紳商藤本一二氏ノ補助ヲ得タルモノ少ナカラス記シテ厚
ク同氏ニ謝ス

明治二十七年十月一日

正賢謹識

明治二十七年八月本書ノ稿成ルヤ思ヘラク憲法ハ國家ノ大典ナリ其解釋ノ當否大ニ國民ノ利害ニ關ス不敏余ノ如キモノ輕々異說ヲ立テ、之ヲ公ニスヘキニアラス宜シク朝野大家ノ批評ヲ求メ然ル後千思萬考又更ニ大ニ訂正ヲ加フヘシト依テ壁氏版ヲ求メテ自ラ印刷シ日ヲ重ヌル七十余日ニシテ四十五部ヲ得タリ印刷甚ク鮮明ナラサルモ亦如何トモ爲シ難キニヨリ之ヲ配付スルコト、シ先輩角田眞平、柿崎欽吾、伊藤德三、三氏ノ照會ヲ得法律家トシテハ穗積陳重、全八束、梅謙次郎、鳩山和夫、一木喜徳郎、有賀長雄、織田萬井、上密政治家トシテハ大隈重信、板垣退助、近衛篤磨、谷干城、楠本正隆、島田三郎、高田早苗、尾崎行雄、大井憲太郎、河野廣中、栗原亮一、三崎龜之助、鈴木重遠、重岡薰五郎、其他

數氏ニ依頼スルニ本書ノ批評ヲ以テシタリ然ルニ繁忙ナルノ故ヲ以テ謝絶セラレタルモノ四自己ノ門下生ニアラサルノ故ヲ以テ謝絶セラレタルモノ一、數回書狀ヲ發スルモ何等ノ回答ニ接セサルモノ二十一、一言其ノ通知ナクシテ外國ニ去ルモノ二、批評ヲ依頼シテヨリ今日ニ至ルマテ二年遂ニ一ノ批評ヲ得ス始メテ知ル余ニ教ユル者ハ今人ニアラスシテ古人ナルコトヲ依テ廣ク古人ヲ友トシ一意憲法ノ法理ヲ研究スル又殆ント一年訂正成リテ之ヲ公ニセント欲スルヤ成ラス梅高田両氏ノ厚情ナル書肆ニ談判ノ勞ヲトラレシモ不幸又成ラス爲メニ本書ノ出版ヲ數十年ノ後二期シ余カ終身ノ事業ノ一トナサント決心シタル折柄機アリ遂ニ非賣品トシテ印刷ニ附スルニ至レ

リ之レ實ニ藤本一二綴喜武五郎兩氏ノ盡力ニ出ツルモノナリ
大ニ感スル所アリコ、ニ其顛末ヲ記スルコト如斯

明治二十九年十二月十日

正賢再識

帝國憲法講義目次

緒言

第一章	國家	一
第二章	主權	一
第三章	政體	一六
第四章	憲法	一七
第五章	帝國憲法ノ起原	二〇
大日本帝國憲法		
第一章	天皇	二二九
第二章	臣民權利義務	二二九
第三章	帝國議會	二二〇
		二三三

第四章	國務大臣及樞密顧問	一八一
第五章	司法	一九三
第六章	會計	二一九
第七章	補則	二七二

帝國憲法講義目次終

帝國憲法講義

山田正賢著



緒言
第一章 國家ノ定義

行ハル、國家ノ定義ハ下ノ如シ曰ク國家トハ特定セル土地内ニ於
テ人民外團體ニシテ獨立政治的ノ統一機關ヲ有スル者ヲ云フト然レトモ余カ
見テ以テスレハ此ノ定義ハ單ニ事實ノ形容即チ國家外部ノ形狀ヲ學示スルモノ
ニシテ法理上ノ定義ニアラス少シク語ヲ換テ日本帝國トハ日本ノ境土内ニ於ケ
ル臣民ノ團體ニシテ獨立政治的ノ統一機關ヲ有スル者ヲ云フトイハレ或ハ以テ帝
國ノ定義トナスコトヲ得ヘシ未タ國家ノ定義トナスコトヲ得ス而モ上陳普通ニ

行ハル、定義ヲ以テ其ノ宜キヲ得タルモノトセンカ如何ナル國家ト雖モ總テ同
一種ナルヘクシテ其ノ間或ハ共和國タリ或ハ君主國タルノ別アル所以ヲ解スル
コト能ハス理想的國家ノ未ダ成立セテレサル今日ニ在テ共和國タリ君主國タル
ノ別アル所以ヲ定義中ニ包含セシメサルカ如キハ大ナル過失ナリ故ニ余ハ此ノ
定義ハ法理上ノ定義トシテ満足スルコト能ハサルノミナラス國家ノ種類ヲ空無
ニ屬セシメントスル謬説ナルコトヲ斷言ス

然ラハ國家トハ何ソヤ余カ見テ以テ解説ヲ下セハ左ノ如シ

國家ハ權力ノ集合スル所ニ存在ス故ニ權力集合シテ人民ヲ統御スルノ能力ヲ
有スル者之ヲ名ケテ國家ト云フ

故ニ權力集合シテ人民ヲ統御スルノ能力ヲ有スル者ハ凡テ國家ニシテ其ノ權力
集合ノ状態ニ依テ或ハ共和國タリ或ハ君主國タルノ別ヲ生スルモノトス

第二 國家ノ起原

一 民族若クハ結合セル數民族ガ他ノ民族ヲ征服シコトニ始メテ社會ナル
モノ發生シ社會發展進化シテ國家ト稱スル關係ヲ生スルニ至リタルモノナリ故
ニ國家ノ起原ハ征服ニ在リ而シテ其ノコトニ至リタル所以ハ人生單獨生存ヲ遂
クルコト能ハサルニ起因ス

右ハ國家ノ起原ヲ事實的即チ歷史上ヨリ説明シタルモノナリ然ルニ今更ニ法理
上ヨリ其ノ起原ヲ論定スレハ左ノ如シ

一人又ハ數人ノ權力ヲ以テ全人民ヲ威服スルコトヲ得ル場合ニ於テ始メテ國
家ト稱スル關係ヲ生スルモノトス

第三 國家ノ目的

三 權力ノ集合スル所則チ國家ナリ而シテ權力ノ集合ニ二箇ノ状態アリ一人
又ハ數人ノ力ヲ以テ強テ全國民ノ權力ヲ集合スルモノ及ヒ全國民任意ニ其ノ權
力ヲ或ル一点ニ集合スルモノ是レナリ前者ハ專制國ニ於テ之ヲ見ルヘク後
者ハ

立憲國ニ於テ之ヲ見ルヘシ而シテ兩者各其ノ目的ヲ同フセス然ルニ世ノ公法學者ハ國家ノ種類如何ヲ問ハス其ノ目的同一ナリト論定スルモ余ヲ以テスレハコハ甚シキ謬見ナリ蓋シ專制國家ノ目的ハ權力ノ維持及ヒ發達ニシテ人生ノ完全ヲ圖ルカ如キハ其ノ目的ニアラス只自己ノ權力維持上止ムナキ手段トシテ之ヲ行フノミ之ト反シテ立憲國家ハ人生ノ完全ヲ期スルヲ以テ其ノ目的トナスモノニシテ權力ノ維持發達ノ如キハ目的ヲ達スルカ爲止ムナキ手段トシテ之ヲ行フノミ其ノカク異ナル所以ハ威力ヲ以テ權力ヲ集合スルト任意ニ集合スルトノ別アルカ故ナリ

第四 國家ノ性質

普通ノ學者ハ國家ハ法人ナリト云フモ余カ見ト之ト反ス抑モ法人トハ法律ニ依テ人格ヲ得ル所ノ團體ヲ云フ故ニ國家ハ法律ヲ定ムルコトヲ得ヘク法律ニテ法人ヲ作ルコトヲ得ヘシ然レトモ法律ハ國家ニ人格ヲ與フルコトヲ得ス何トナ

レハ法律ハ國家ノ制定スル所ニシテ國家ハ法律ノ創造スル所ニアラサレハナリ斯ノ如ク法律ノ規定ニ依テ人格ヲ得ル所ノ團體ガ即チ法人ナル以上ハ國家ハ決シテ法人ニアラス

然ラハ國家ハ人格ヲ有セサルカ即チ權利ヲ有シ義務ヲ負フノ能力ナキカト云フニ國家ノ人格ヲ有スルコトハ事實ニシテ又識者ノ異論ナキ所ナリ國家ハ人格ヲ有ス故ニ權義ノ主体タルコトヲ得ヘシト云フ余豈ニ何等ノ異論アラシヤ然ラハ國家ハ有形人ナルカ將々無形人ナルカ曰ク無形人ナルコトアリ又有形人ナルコトアリ權力君主ノ一身ニ集合スル時即チ君主ガ統御ノ主体ナルトキハ國家ハ即チ有形人ナリ權力ガ君主及ヒ議會ニ集合シ二者相待テ始メテ國民統御ノ能力ヲ有スルトキ又ハ其ノ權力ガ議會ニノミ集合スルトキハ國家ハ即チ無形人ナリ形ナクシテ人格ヲ有スル者總テ法人ト云フコトヲ得ヘクシテハ二以上ノ複合ニ依テ成ル所ノ國家ハ總テ法人ナリ又法律ニ依テ人格ヲ得ルモノニアラサレハ法人ト稱スルコトヲ得ストセハカナル國家ハ無形人ニシテ法人ニアラス

憲法 緒言

若し自由國體ニシテハ其ノ國體ニ依リテ其ノ國民ハ其ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ルモノニアラス然レドモ其ノ國民ハ其ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ルモノニアラス然レドモ其ノ國民ハ其ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ルモノニアラス

コトヲ得ルモ十矢束子テ之ヲ折ルコト能ハス十矢折ルコトヲ得ルモ百矢千矢束子テ之ヲ折ルコト能ハサルト同シク僅少ノ力モ多ク集合スレハ最大ノ力ヲナスコトヲ得ヘシ又大陽ノ光線モ平時ニ在テハ器物ヲ燒燬スルノ力ナキモ理學的ノ作用ヲ以テ之ヲ或ル一点ニ集合セシムルトキハ以テ家屋ヲ燒燬スルコトヲ得ヘク以テ金鉄ヲ溶解スルコトヲ得ヘシ離散スル所ノ光線ニ集合スル所ノ光線ト同一ノ力ナキノ故ヲ以テ光線ニ器物ヲ燒燬スルノ力ヲシトナスコト能ハス國家ノ權力ノ強大ナル所以亦如斯國家ノ權力ヲ組成スル各一箇人ノ權力ハ甚々微弱ナルモ人民全体ノ權力ガ或ル一点ニ集合スルニ於テハ其ノ權力甚強大ナリ故ニ各一箇人ニ國家ト同一ノ權力ナキノ故ヲ以テ國家權力ノ源泉ニアラストナスコト能ハス又或ハ云ハシテ國家ト稱スル關係ハ土地ト人類ノ存在スル所ニ生スルモノナレトモ土地自身ハ法理上權義ノ關係ヲ有スルコト能ハサルヲ以テ暫ラク之ヲ除カンニ殘ル所ハ只人類ノ一アルノニ國家ハ則チ人類ノ集合ニヨリテ成ルモノナリ人類ノ集合ニヨリテ成ルモノナルカ故ニ各人ノ有スヘキ權力ニアラサルヨ

リハ國家之ヲ有スルコト能ハサルハ當然ナリ青色ノ集合ハ青色ニシテ赤色ノ集合ハ赤色ナレハ青赤相混セサル以上ハ異色ノモノ成立スルノ理ナシ人相寄り相集レハ人ノ集合ナリ人ノ團結ナリト云フベキモ相寄り相集リタルノ故ヲ以テ異質ノ者成立スルノ理ナク又爲ニ人ノ有スヘキ權力ヲ失ヒ人ノ有スヘカテサル權力ヲ生スルノ理ナシ故ニ人類ノ團體タル國家ハ各人ノ有シ得ヘカテサル權力ヲ有スルコト能ハス然ルニ國家ニ各人ノ有スル能ハサル權力アルハ何ソヤ例ヘハ刑罰權ノ如キ徵稅權ノ如キハ各一箇人ノ有スル權力ニアラス而モ國家之ヲ有スルハ何ソヤト之ニ答フルコト又難キニアラス國家權力ノ源泉ハ人民全体ノ意思ニアルカ故ニ人民ノ有セサル所ノ權力ガ國家ニ存在スルノ理ナシト雖モ然レトモ人民ノ總意ヲ以テ生セシムルヲ得ル所ノ權力ハ國家之ヲ有スルコトヲ得ヘシ即チ刑罰權ノ如キハ人民ノ權力ヨリ生シ徵稅權ノ如キハ人民ノ意思ヨリ生ス國家ノ成立ナキ時代ニ於テハ人民各自ニ刑罰ヲ行フヘキカ故ニ國家ノ刑罰權ハ人民全体ノ有スル權力ヲ集合セシメタルモノト云フコトヲ得ヘシ之ト反シテ徵稅

權ノ如キハ人民ノ意思ヲ以テ國家ニ與ヘタルモノト解セサルヘカラス何トナレハ各一箇人ニハ徵稅權ノ分子タモ存在セサレハナリ要スルニ國家ノ權力ハ人民ノ有スル權力ヲ集合シテ成ルモノアリ又ハ人民ノ有セサル權力ト雖モ人民全体ノ意思ヲ以テ之ヲ創造シ國家ニ附與シタルガ故ニ成ルモノアリ立憲國ニ在テハ決シテ此ノ二者以外ニ權力ノ源泉アルモノニアラサルナリ

第七 國家ノ代表者

國家ノ代表者ト云フ語ハ無形人ナル國家ニ必要ナルモ有形人ナル國家ニ必要ナシ何トナレハ國家ガ無形人ナルトキハ之ヲ代表スル者ナカルヘカラスモ有形人ナルトキハ別ニ之ガ代表者ヲ要セサレハナリ而シテ君主ト議會ト共同シテ統御ノ能力ヲ有スル國家ノ如キハ無形人ナルモ君主自身ガ統御ノ主体タル國家ハ有形人ナルガ故ニ代表者ノ語ハ君主ガ統御ノ主体タル國家ニ適用スヘキ法語ニアラス

國家ノ代表者又ハ君主ハ何人ガ何人ヲ以テ之ニ任スルカ即チ君主ノ資格ヲ得ル道如何

立憲國ニ於テ君主ノ資格ヲ得ルニ二アリ一ハ國民ノ總意ニ依テ定ムルモノニシテ一ハ前君主ノ意思ニ依テ定ムルモノナリ國民相議シテ甲チ一代ノ君主ト定メタル場合又ハ甲チ君主トシ其ノ血統ヲ承繼スル者チ次々ノ君主トナスヘシト定メタル場合ノ如キ其ノ甲君主ハ素ヨリ後ノ場合ニ在テ甲ノ位ヲ繼キタル乙君主モ亦國民ノ總意ニヨリ君主タル者ナリ之ト反シテ前君主ノ意思ニ依テ定メタル君主即チ國民ノ總意ニ依テ位ニ即キタルニアラサル君主ニ在テハ縱令立憲時代ノ今日ニ於テモ國民ノ總意ヲ以テ定メタルモノト解スルコト能ハス然ラハ國民ノ總意ヲ以テ定メタルニアラサル君主ハ今尙ホ實力ニ依テ君主タルモノトナスハキカ曰ク否立憲時代ノ今日ニ在テハ國民全体カ之レヲ認メテ正當トナシタルモノ即チ國民全体ガ君主タルコトヲ贊同シタルモノト解セサルヘカラス如何トナレハ甲君主位ニ即キ國民皆甲チ君主トシテ奉體シ敢テ革命其ノ他ノ方法ヲ以

テ反對ノ意思ヲ發表スルコトナケレハナリ但シ國民全体ガ君主甲ヲ廢セントスルニモカ、ハラス甲カ君主ノ位ヲ去ラサルトキハ其ノ間ハ即チ國民ガ甲ノ君主タルコトヲ贊同シタルニアラスシテ實力ヲ以テ自ラ君主タルモノトナスヘキハ當然ナリ

國民ノ總意ヲ以テ定メタル君主ハ又國民ノ總意ヲ以テ之ヲ廢スルコトヲ得ヘシ國民ノ總意ヲ以テ定メタルニアラサル君主ハ國民ノ總意ヲ以テ之ヲ廢スルコトヲ得ヘキカ此ノ問題ハコ、ニ必要ナキカ故ニ之ヲ詳説セス只法理ノ歸スル所ハ下ノ如シ國家ハ權力ノ集合スル所ニ存在ス故ニ若シ二箇ノ國家ガ同一境土内ニ成立セントスルトキハ實力ノ如何ニヨリ二者並ヒ立テ國土ノ分割ヲ來スコトアルヘク又其ノ一斃ル、コトアルヘシ

第二章 主權

第一 主權ノ定義及性質

九 主權トハ國家ノ有スル最強無比ノ權力ヲ云フ

一〇 主權ハ最強無比ノ權力ナルカ故ニ不羈獨立ノモノニシテ之ヲ運用スルカ爲ニハ何人ノ制肘ヲモ受ルモノニアラスコ、ヲ以テ國外ニ對シテハ他國ノ指揮ヲ受スシテ自國ヲ經理スルコトヲ得ヘク國內ニ於テハ箇人ノ干涉ヲ受スシテ國務ヲ處理スルコトヲ得ヘシ

主權ハ無制限ナリ制限セラルヘキハ主權ニアラス然ルニ主權ニ制限アリト説クモノアリ曰ク主權ハ不羈獨立ノ權利ナリト雖モ絶對無限ノモノニアラス之ヲ行フニ付テハ必スヤ制限ナカルヘカラス若シ主權即チ國家ノ有スル權力ヲシテ絶對無限ノモノトナサバ國家ノ欲スル所之ヲ求メテ得サルナク國家ノ望ム所之ヲ爲シテ成ラサルナキニヨリ全國民ノ總財産ヲ沒收セント欲セハコレヲ沒收スルコトヲ得ヘク全國民ヲ屠殺セント欲セハ之ヲ屠殺スルコトヲ得ヘシト論決セサルヘカラス又世界ニ存在スル總テノ國家ヲ統一セント欲セハ之ヲ統一スルノ權力アルモノト論決セサルヘカラス之レ豈法理ノ許ス所ナランヤ故ニ主權ハ外ニ

對シテハ其ノ國ノ主權ニ制限セラレ内ニ於テハ國民ノ自由能力ニ制限セラル、
 モノトスルヲ穩當トスト余ヲ以テスレハ此ノ説誤レリ主權ハ無制限ナリ制限セ
 ラルヘキハ主權ニアラス然レトモ熟考スヘシ制限トハ抑モ如何ナル事ゾト余ノ
 信ズル所ヲ以テスレハ制限トハ爲スコトヲ得ル所ノ權力ニ對シ制裁ヲ附シテ爲
 スコトヲ禁止スルコトヲ云フ例ヘハ國家ニ十箇ノ權力アリトセンカ國家ハ自由
 ニ其ノ十箇ノ權力ヲ運用スルコトヲ得ヘシ其ノ十箇ノ權力ヲ運用スルニ就テ制
 限ヲ受ルコトナキ之ヲ無制限ト云フ之ト反シテ其ノ十箇ノ權力中一又ハ二以上
 ナナスコトヲ禁止セラレタルトキハ即チ其ノ權力ノ運用ヲ制限セラレタルモノ
 ニシテ之ヲ有制限ト云フ全ク右ト反シテ十箇以外ノ權力ヲ有セサル國家ガ十箇
 以外ノ事項ヲ爲スコト能ハサルヲ指シテ有制限トナスモノアラシカ之レ大ナル
 誤謬ナリ十箇以外ノ事項ヲ爲スコト能ハサルハ十箇以外ニ權力ヲ有セサルヨリ
 生スル當然ノ結果ニシテ之ヲ爲スコト能ハサルノ故ヲ以テ制限ヲ受ルモノト解
 スルコト能ハス之レ尙ホ吾人ノ力ヲ以テ水ヲ高キニ逆流セシムルコト能ハサル

ノ故ヲ以テ吾人ノ權力ニ制限アリト解スルコト能ハサルト一般ナリ國家ノ權力
 ニ制限アリトスル論者ハ須ラク制限ノ何タルコトヲ研究スヘシ必ス思ヒ半ハニ
 過ルモノアラン

第二 主權ノ所在

一 主權ハ國家ノ有スル權力ナルカ故ニ其ノ所在ハ國家ナリ國家有形人ナ
 ルトキハ主權ハ其ノ有形人ニ存在スヘク無形人ナルトキハ其ノ無形人ニ存在ス
 ヘシ而シテ其ノ源泉ハ如何ト云ヘハ國民全体ノ權力及ヒ意思ニアルコト疑ニ論
 述シタル所ノ如シ

第三 主權ト國家

一 主權ト國家トヲ混同スヘカラス主權ハ國家權力ノ名稱ニシテ國家ハ主
 權ヲ有スル人ニ外ナラサレハナリ故ニ國家ニハ有形人ナルアリ又無形人ナルア
 ルモ主權ニハ此ノ區別ナシ

第四 主權者

一三 主權ヲ有スル者ハ國家ナリ故ニ主權者トハ國家ヲ指稱スルノ語ナリ而シテ有形人ナル國家ニ在テハ主權者ハ即チ有形人ニシテ無形人ナル國家ニ在テハ主權者ハ即チ無形人ナリ

第五 主權者ト代表者

一四 主權者ト代表者トヲ混同スヘカラス主權者ト云ヘハ常ニ國家ナレトモ代表者ト云ヘハ常ニ國家ニアラス又有形人ナル國家モ主權ヲ有スルカ故ニ主權者ナル語ハ此ノ國家ニモ必要ナリ之ト反シテ代表者ハ有形人ナル國家ニ存在スヘキモノニアラス

第三章 政体

一五 政体ハ之ヲ種々ニ區別スルコトヲ得レトモ我帝國ノ憲法法理ヲ講スルニ付キ必要ナキカ故ニ之ヲ云ハス只立憲君主政体ニ就テノ一言スル所アルヘ

立憲君主政体トハ憲法ニ依リテ國民ヲ統御スル所ノ君主政体ヲ云フ故ニ君主國ニシテ而シテ憲法ヲ有スルトキハ凡テ立憲君主政体ト云フコトヲ得ヘシ
法學博士穂積八束氏曰ク君主國ニ於ケル立憲政体ハ之ヲ君主立憲政体ト立憲君主政体トノ二ニ區別スヘシ君主立憲政体トハ君主ノ欽定ニ係ル憲法ヲ有スル政体ヲ云ヒ立憲君主政体トハ君民ノ協議ニ依テ成レル憲法ヲ有スル政体ヲ云フト
余ハ國家ニ有形無形ノ別アルコトヲ主張スルノ故ヲ以テ此ノ説ヲ是認ス蓋シ其ノ名稱ニ依テ有形人ナル所ノ國家ナルヤ否ヤヲ識別スルノ便益アルカ故ナリ

第四章 憲法

第一 憲法ノ定義

一六 我憲法ニヨリテ其ノ定義ヲ下セハ左ノ如シ
帝國憲法トハ帝國ノ國体統治權ノ所在其ノ運用機關等ヲ定メ臣民ノ權利義務

ヲ確定シタル七十六條ノ法規ヲ云フ

故ニ我國ニ於テ憲法ト云フトキハ七十六條ノ成典ヲ指スモノニシテ其ノ他ノ選舉法議院法ノ如キ法律ハ憲法ニアラス

世間或ハ我國ノ憲法ハ法律ナリヤ否ヤニ付テ喋々スルモノアリ然レトモ之ヲ法律トスルモ將テ法律ニアラストスルモ我憲法上何等其ノ結果ヲ異ニスル所ナキ机上ノ空論ニ過キサレカ故ニ深ク討議スルノ價值ナキモノトス但シ強テ問フモノアラハ我憲法ハ法律ナリト答フルニ躊躇セサルヘシ其ノ然ル所以ハ我憲法第十條ニ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ云々トアルカ故ナリ

第二 憲法ノ種類

憲法ハ其ノ体裁上成立上及ヒ變更上ヨリ之ヲ種々ニ類別スルコトヲ得ヘシ即チ左ノ如シ

一 体裁上ノ區別

甲 不文憲法

乙 成文憲法

二 成立上ノ區別

甲 欽定憲法

乙 國約憲法

丙 民定憲法

三 變更上ノ區別

甲 硬性憲法

乙 軟性憲法

成文憲法トハ憲法ニ關スル法則ヲ大成シテ一個完全ノ法典トナシタル者ヲ云ヒ不文憲法トハ一個特定ノ法典ヲ以テセス幾多法律ノ集合ニヨリテ成ルカ又ハ慣習ヨリ成ルモノヲ云フ例ヘハ日本ノ憲法ノ如キハ即チ成文憲法ニシテ英國ノ憲法ノ如キハ即チ不文憲法ナリ

今以日本憲法ノ改訂ニ関スル其旨ハ如何ニシヤ
二〇

欽定憲法トハ君主親ラ之ヲ制定シタルモノヲ云フ日本ノ憲法ノ如キ即チ然リ
國約憲法トハ君民ノ協議ヲ以テ制定シタルモノ即チ君主若クハ臣民ニ於テ起草
シ臣民ノ討議ヲ經タル後チ君主ノ裁可シタルモノヲ云フ白耳義憲法ノ如キ是レ
ナリ
民定憲法トハ人民合同シテ之ヲ制定シタルモノ即チ人民ノ總意ヨリナルモノヲ
云フ米國憲法ノ如キ是レナリ
硬性憲法トハ其改正廢止ノ方法他ノ一般ノ法律ヲ改正廢止スルト異ナル手續ヲ
要スルモノ即チ特別ノ手續ヲ以テスルニアラサレハ改廢スルコト能ハサルモノ
ヲ云フ日本憲法ノ如キ是レナリ
軟性憲法トハ通常立法ノ手續ニヨリテ之ヲ改廢スルコトヲ得ルモノヲ云フ英國
憲法ノ如キ是レナリ

第五章 帝國憲法ノ起原

一 王政復古ノ際我カ睿聖文武ナル 今上天皇陛下ハ神明ニ誓フニ左ノ五
事ヲ以テシ玉ヘリ

- 第一 廣ク會議ヲ起シ萬機公論ニ決スヘシ
- 第二 上下心ヲ一ニシ盛ニ經倫ヲ行フヘシ
- 第三 官民一途庶民ニ至ルマテ其志ヲ遂ケ人民ヲシテ倦マサラシメシコトヲ要ス

第四 舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基ツクヘシ
第五 智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ
今日ノ立憲ノ萌芽ハ既ニ此ノ時ニ發シタルモノナリ後明治七年五月議院憲法ヲ
頒チ詔シテ曰ク

朕踐祚ノ初神明ニ誓ヒシ旨趣ニ基キ漸次ニ之ヲ擴充シ全國人民ノ代議人ヲ召
集シ公議輿論ヲ以テ法律ヲ定メ上下協和民情暢達ノ路ヲ開キ全國人民ヲシテ
各其業ニ安ンシ以テ國家ノ重ヲ擔任スヘキノ義務アルコトヲ知ラシメシコト

ヲ期望ス故ニ先ツ地方ノ長官ヲ召集シ人民ニ代テ共同共議セシム乃チ議院憲法ヲ頒布ス各員其レ之ヲ遵守セヨ

明治八年四月元老院大審院ヲ置キ又地方官會議ヲ開キ詔シテ曰ク

朕即位ノ初首トシテ群臣ヲ會シ五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ求ム幸ニ祖宗ノ靈ト群臣ノ力トニ頼リ以テ今日ノ少康ヲ得タリ願フニ中興日淺ク内治ノ事當ニ振起皇張スヘキモノ少ナシトセス朕今誓文ノ意ヲ擴充シ茲ニ元老院ヲ設ケ以テ立法ノ源ヲ廣クシ大審院ヲ置キ以テ審判ノ權ヲ鞏クシ又地方官ヲ召集シ以テ民情ヲ通シ公益ヲ謀リ漸次ニ國家立憲ノ政體ヲ立テ汝衆庶ト俱ニ其度ニ頼ラントス汝衆庶或ハ舊ニ泥ニ慣ルコトナク其レ能ク朕カ旨ヲ體シテ翼贊スル所アレ

君主獨裁政治ヲ改メテ立憲政體トナシ民ト共ニ治ヲナサントノ宸意明カニシテ復タ掩フヘカラサルモノアリ然レトモ此ノ聖詔ノミニテハ何レノ時ニ立憲政體ヲ立テサセラルハヤ知ル能ハザリシガ明治十四年十月十二日ノ勅諭ニ於テ明治

二十三年ヲ期シ議員ヲ召集シ國會ヲ開カセラルヘキ旨ヲ天下ニ布告セラレタリ其ノ勅諭ハ左ノ如シ

朕祖宗二千五百有餘年ノ鴻緒ヲ嗣キ中古紐ヲ解クノ乾綱ヲ振張シ大政ノ統一ヲ總攬シ又夙ニ立憲ノ政體ヲ建テ後世子孫繼クヘキノ業ヲ爲サント期ス爾ニ明治八年ニ元老院ヲ設ケ十一年ニ府縣會ヲ開カシム此レ皆ヲ漸次基ヲ創メ序ニ循テ歩ヲ進ムルノ道ニ由ルニ非ラサレハ莫シ爾有衆亦朕カ心ヲ諒トセゾ願ミルニ立國ノ體國各宜シキヲ殊ニス非常ノ事業實ニ輕舉ニ便ナラス我祖我宗照臨シテ上ニ在リ遺烈ヲ揭ケ洪摸ヲ弘メ古今ヲ變通シ斷シテ之ヲ行フ責朕カ躬ニ在リ將ニ明治二十三年ヲ期シ議員ヲ召シ國會ヲ開キ以テ朕カ初志ヲ成サントス今在廷臣僚ニ命シ仮スニ時日ヲ以テシ經畫ノ責ニ當ラシム其組織權限ニ至リテハ朕親ヲ裁シ時ニ及テ公布スル所アラントス朕惟フニ人心進ムニ備シテ時會速ナルヲ競フ浮言相動カシ竟ニ大計ヲ遺ル是レ宜シク今ニ及テ謨訓ヲ明徴シ以テ朝野臣民ニ公示スヘシ若シ仍ホ故弊ヲニ躁急ヲ爭ヒ事變ヲ

煽シ國安ヲ害スル者アラハ處スルニ國典ヲ以スヘシ特ニ茲ニ言明シ爾有衆ニ
論ス

〇 後八年ヲ距テ、明治二十二年二月十二日帝國憲法ヲ頒布シ同二十三年
十一月初メテ國會ヲ開ケリ憲法頒布ニ付テノ告文及ヒ勅語ハ左ノ如シ

告文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ誥テ曰サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊
圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ願ミルニ世局ノ進運ニ膺リテ人文ノ發達
ニ隨ヒ宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシテ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ以テ子孫ノ率由スル
所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益々國家ノ丕基ヲ鞏

固ニシ八州民生ノ慶福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ
皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ胎シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス而シテ朕カ躬ニ
逮テ時ト俱ニ舉行スルコトヲ得ルハ詢ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ

皇祖

皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ
愆ヲサランコトヲ誓フ庶幾クハ
神靈此レヲ鑒ミタマヘ

勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此不磨ノ大典ヲ宣布ス
 惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シテ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト竝ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ徇ヒ以テ此光輝アル國史ノ成績ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同シ益我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ偉業ヲ永久ニ鞏固ナラシムル希望ヲ同クシ此負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ
 朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿徳良能ヲ發達セシメムコトヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ即チ明治十四年十月十四日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕

カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム
 國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ
 朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス
 帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムヘシ
 將來若シ此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼承ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ
 朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將

來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ
以上ハ即チ我帝國憲法起原ノ大畧ナリ若シ夫レ其ノ詳細ニ至テハ當時ノ歴史之
ヲ證明シテ餘リアラズ

大日本帝國憲法

第一章 天皇

各條ノ解釋ニ入ルノ前日本國家ト天皇トノ關係ヲ概論スヘシ

三四 日本ノ國家ハ有形人ナルカ將タ無形人ナルカ有形人ナルトキハ君主即
チ國家ニシテ國家即チ君主ナリ無形人ナルトキハ國家ト君主トハ全ク別體ニシ
テ君主ハ國家ノ代表者タルニ過キス日本國家ト天皇トノ關係ハ日本國家ハ無形
人ナルヤ將タ有形人ナルヤヲ決スレハ足レリ
余國家ニ有形人ト無形人トノ二種アリト論定セリ事甚タ新奇ニ屬ス世間大ニ怪
ムモノアラソ然レトモ余ハ徒ラニ世ヲ弄スルモノニアラス法理講究ノ結果實ニ
止ムヲ得サルモノアレハナリ余ハ曩ニ國家ノ何タルヲ解說シテ左ノ如ク云ヘリ
國家ハ權力ノ集合スル所ニ存在ス故ニ權力集合シテ人民ヲ統御スルノ能力ヲ
有スル者之ヲ名ケテ國家ト云フ

此ノ定義ニシテ誤リナカランカ有形無形ノ別ヲ生スルハ當然ノ結果ナリ權力ガ君主ノ一身ニ集合スル時ハ國家ハ君主ト稱スル有形人ナルヘク權力ガ二以上ノ複合ニ依テナル團體ニ集合スルトキハ國家ハ無形人ナルベシ然ルニ權力其ノ一身ニ集合スル所ノ君主ヲ指シテ國家ノ代表者ナリ君主ノ外ニ法人ナル國家存在スヘシト説クモノアリ曰ク國家ハ國土ニアラス國民ニアラス又國土ト國民トノ複合物ニモアラス一箇獨立ノ法人ニシテ君主ハ其ノ代表者ナリト然レトモ此ノ説ハ法理ヲ誤ルモノナリ權力君主ノ一身ニ集合スルトキハ君主以外ニ權力ノ集合点ナシ而モ君主ハ代表者ニシテ國家ニアラスト云フ之レ權力君主ノ一身ニ集合スルニモカハハラス君主以外ニ權力ノ集合点アルモノトスル妄論ニアラスシテ何ゾヤ若シ夫レ國家ハ國土ニアラス國民ニアラス又國土ト國民トノ複合物ニモアラスト云フニ至テハ人類以外ニ萬能ノ神アリテ國家ヲ創造シ國民ヲ統御スルト云フト一般學理上寸毫ノ價值ナキモノトス又國家ハ國土ニアラス君主ニアラス臣民ニアラス又是等ノ複合物ニモアラスナル一箇獨立ノ法人ナリト云フ説ヲ

改メテ國家ハ君主ト人民ト邦土ヨリ成立スル一箇ノ法人ナリト主張シ之ヲ以テ權力一身ニ集合スル所ノ君主國ヲ解セントスルモノアリ前説ニ比スレハ此ノ説少シク優ル所アルモ其ノ取ルニ足ラサルヤ一ナリ何トナレハ君主ノ一身ニ權力集合スルニモ拘ラス他ニ權力ノ集合点アルヘシト想像スルニ於テ二者ノ間異ナル所ナケレハナリ加之全ク性質ノ異ナル者即チ人類ト邦土ト相合シテ法人ヲ組成スト云フニ至テハ人類ト禽獸ト相合シテ法人ヲ組成スルコトヲ得ヘシト云フト異ナル所ナキ妄論ト云ハサルヘカラス又君主即チ國家ナリト云ヒナガテ國家ハ法人ナリト主張スル者アリ穂積博士ノ如キ然リ然レトモ余カ見ハ又之ト反ス一箇ノ自然人ハ決シテ無形人ヲ兼マルコトヲ得ス自然人ノ團體ハ或ハ無形人タリ或ハ法人タルコトヲ得ヘシ一人ニシテ自然人タリ又法人又ハ無形人タルコトヲ許サス蓋シ當然人格ヲ有スル者ニ對シ更ニ人格ヲ認ムルノ必要ナケレハナリ若シ夫レ博士ノ如ク君主ハ國家ニシテ國家ハ法人ナリト云ハハ國家ハ一面ヨリミレハ有形人ニシテ一面ヨリミレハ法人ナリト云ハサルヘカラス一人ニシテ自

然人タリ又法人タリト云フ法理豈之ヲ許サンヤ

二三 我國家ハ有形人ナルヤ否即チ天皇ハ國家ナルヤ否ヤヲ知ラシニハ我憲法ハ欽定憲法ナルヤ將々民定憲法又ハ國約憲法ナルヤヲ確ムルヲ以テ最モ其ノ宜キヲ得タルモノトス何トナレハ欽定憲法ヲ有スル君主國ハ君主即チ國家ニシテ民定憲法又ハ國約憲法ヲ有スル國家ハ君主國ト雖モ無形人ニシテ君主ハ其ノ代表者ニ外ナラサレハナリ

欽定憲法ヲ有スル君主國ハ何故ニ君主即チ國家ナルヤ其ノ所以ハ下ニ述ブル所ノ如シ憲法ハ其ノ定義トシテハ兎ニ角一國ノ組織ヲ規定スル根基大本ノ法律ナルコト何人モ異論ナキ所ニシテ欽定憲法トハ君主親ヲ制定シタル所ノ憲法ヲ云フコト亦何人モ異論ナキ所ナリ憲法ハ一國ノ組織ヲ規定スル根本法ニシテ君主親ヲ制定シタルルキハ名クテ欽定憲法ト云フトイフニ就テ何人モ異論ナシトモンカ憲法ヲ定ムル者ヲ以テ最強無比ノ權力ヲ有スル者ナリ主權者ナリ將々國家ナリト云フニ就テ亦異論ナシトナサトルヘカラス何トナレハ最強無比ノ權力ヲ有

下ニ述ブル所ノ如シ憲法ハ其ノ定義トシテハ兎ニ角一國ノ組織ヲ規定スル根基大本ノ法律ナルコト何人モ異論ナキ所ニシテ欽定憲法トハ君主親ヲ制定シタル所ノ憲法ヲ云フコト亦何人モ異論ナキ所ナリ憲法ハ一國ノ組織ヲ規定スル根本法ニシテ君主親ヲ制定シタルルキハ名クテ欽定憲法ト云フトイフニ就テ何人モ異論ナシトモンカ憲法ヲ定ムル者ヲ以テ最強無比ノ權力ヲ有スル者ナリ主權者ナリ將々國家ナリト云フニ就テ亦異論ナシトナサトルヘカラス何トナレハ最強無比ノ權力ヲ有

法ハ君主ト人民ト合同シテ定ムル所ナリ故ニ之ヲ定メタル者ハ人民ノ全体又ハ人民ト君主トニ依リテ成ル所ノ無形人ニシテ有形ノ一箇人ニアラス換言スレハ最強無比ノ權力ヲ有スルモノハ有形ノ一箇人ニアラスシテ數多有形人ノ團體タル無形人ナリ此ノ無形人ノ定ムル所ニ依テ權力ヲ有スルモノハ君主ナリ故ニ曰ク斯ノ如キ憲法ヲ有スル國家ハ無形人ニシテ君主ハ其ノ代表者ナリト最強ノ權力ヲ有スルモノニアラサレハ憲法ヲ制定スルコト能ハス而シテ日本ノ憲法ハ君主之ヲ制定シタリ故ニ君主ハ最強ノ權力ヲ有ス權力集合シテ最強ノ權力ヲナスモノ之ヲ主權ト云ヒ之ヲ有スルモノヲ主權者又ハ國家ト云フ故ニ我國ニ於テ主權者ト云ヒ國家ト云フハ君主其ノ人ナリ以上ノ數語君主即チ國家ナル

コトヲ証明シテ餘リアラン
 今試ミニ國家ハ法人ニ君主ハ其ノ代表者ナリトスル普通ノ學說ニ從ハンカ此
 ノ論理ヲ貫カンニハ我憲法ハ國家ノ定メタルモノニ非スト云ハサルヘカラス換
 言スレハ人民ノ總意ヲ以テ又ハ人民ト君主トノ協議ニ依テ定メタルモノトスル
 カ將タ人民及君主以外ニ宗教家ノ所謂上帝ノ如キ萬能力ヲ有スル法人アリテ其
 ノ法人カ之ヲ定メタルモノトスルカ二者必ス其ノ一ヲ取ラサルヘカラス然ルニ
 我憲法ハ今上天皇陛下ノ制定シ給ヘル所ナリ然レトモ天皇ハ最強ノ權力ヲ有
 スル者即チ國家ニアラスト云フ或ハ以テ愚夫愚婦ヲ欺クコトヲ得ヘシ焉ソ識
 者ヲ欺クコトヲ得ンヤ

△或ハ云ハン權力ハ天皇ノ一身ニ集合スト云フト雖モ帝國議會亦權力ノ集合点タ
 ルニアラスヤト夫レ然リ豈夫レ然ランヤ帝國議會ニモ亦權力集合スヘシ然レト
 モ其ノ集合スル所ノ權力ハ君主ノ一身ニ集合スル所ノ權力ヨリ微弱ナリ換言ス
 レハ議會ノ權力ハ最強ノ權力ニアラス余ソ所謂權力ノ集合スル所トハ權力集合

シテ最強ノ權力ヲナス所ヲ云フ余豈二箇以上ノ權力集合スル所皆國家ナリト云
 ハンヤ

又或ハ云ハン君主ト國家ト同一ナルトキハ君主ヲ指稱スルニ常ニ國家ノ語ヲ用
 エルコトヲ得ルモノトナサドレヘカラス果シテ然ラハ天皇陛下トイハズシテ國
 家陛下トイフモ妨クル所ナキカ又或ハ天皇ト云ヒ或ハ國家ト云ヒ以テ一定スル
 コトナキ所以如何ト之レ國家ト稱スルハ統御ノ主体ヲ指ス法理上ノ術語ニシテ
 天皇ト稱スルハ法理上ノ術語ニアラサルコトヲ知ラサルモノニシテ何等ノ價値
 ナキ駁論トス

或ハ國家ト主權ト同一ニ解シ君主國ニ於テハ國家ト云ヒ主權ト云フハ君主其
 ノ人ナリト云フモノアリ穂積博士ノ如キ然リ然レトモ余カ見ハ之ト反ス主權ト
 ハ最強ノ權力ヲ指スノ名稱ニシテ國家ハ其ノ權力ヲ有スルモノ、稱ナリ故ニ國
 家ト主權者トハ同一ニシテ我國ニ於テハ國家ト稱シ主權者ト云フハ君主其ノ人
 ナリト云フコトヲ得ヘシ決シテ國家ト稱シ主權ト云フハ君主其ノ人ナリト云フ

コトヲ得ス若シ主權ト國家ト同一ナリトセハ君主ハ國家ヲ有スト云フコトヲ得
ヘシト論定セサルヘカラス君主ハ國家ヲ有スト云フ誰レカ首肯スルモノアラシ
ヤ
以上君主即チ國家ナル所以ヲ解説シタリ君主即チ國家ナルトキハ君主ノ崩御ト
同時ニ國家消滅スルモノトナスヘキカハ之ヲ皇位繼承ノ條下ニ讓リ以下將ニ帝
國憲法第一條ノ解釋ニ移ラン

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

二三 本條ハ我國體即チ統治スル人及ヒ統治セラル、モノヲ定メタルモノ
ナリ本條ニヨレハ我國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治スルモノニシテ純然タル君
主國ナリ而シテ條文ニ大日本帝國ハ云々天皇之ヲ統治ストアルカ故ニ天皇ハ
統治スル人即チ統御ノ主体ニシテ帝國ハ統治セラル、モノ即チ統御ノ客體ナ
リトス

二四 大日本帝國トハ境土ト臣民トヲ併セ指スノ稱ナリ大日本帝國ハ統治

ノ客體ナリ故ニ日本臣民ハ縱令日本ノ境土ヲ離ル、モ天皇統治ノ下ニ立ツヘ
ク又外國人ト雖トモ日本ノ境土ニ觸ル、モノハ總テ統治ノ下ニ立ツヘキモノ
トス

口説
帝國ト國家トヲ混同スヘカラス何トナレハ帝國ハ統御ノ客體ニシテ國家ハ統
御ノ主体ナレハナリ

二五 萬世一系ノ天皇トハ神武天皇以來其ノ血統ヲ受タル天皇ト云フノ意
ナリ故ニ神武天皇ノ血統ヲ受ケサル者ハ我國ノ皇位ニ即クコトヲ得ス

二六 統治トハ統御ト云フト同シク自己ノ意思ヲ表出シテ之ニ伴フニ權力
ノ制裁ヲ以テスルコト即チ命令ヲ下スコトヲ云フ

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承

二七 本條ハ皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リテ繼承スルコト及ヒ皇位ハ

皇男子孫之ヲ繼承スルコトヲ定メタルモノナリ
 皇位ハ云々皇男子孫之ヲ繼承ストアリ故ニ此ノ條ニ於テ二箇ノ重要ナル問題
 ナ決シタリ即チ女子モ亦皇位ヲ踐ムコトヲ得ルヤ將タ男子ニアラサレハ皇位
 ナ繼承クコトヲ得サルヤノ問題ニ對シ男子ニアラサレハ皇位ヲ繼承スルコト能
 ハサルモノトナシ又男子ハ如何ナル順序ニ由リ皇位ニ即クヘキヤノ問題ニ對
 シ皇子ヨリ皇孫ト父子ノ順序ニ由ルモノトナシタリ其ノ他詳細ノコトハ總テ
 皇室典範ノ規定スル所ニシテ立法ノ手續ヲ以テモ之ヲ侵スコトヲ得サルモノ
 トス

三九 皇位繼承ノ法理如何或ハ曰ク皇位ノ繼承ハ皇産ノ相続ナリ故ニ私法
 上ノ相続法ト同一ノ法理ヲ適用スヘキモノナリト或ハ曰ク皇位ノ繼承ハ皇權
 ノ繼承ニシテ皇産ノ相続ニアラス故ニ皇位ノ繼承ハ公法上ノ關係ニシテ私法
 上ノ關係ニアラスト而シテ後説ノ取ルヘクシテ前説ノ取ルヘカラサルハ殆ン
 ト辨明ヲ要セサルカ如シ何トナレハ皇位ノ繼承トハ帝國ヲ統治スル所ノ天皇

ノ位ヲ繼承スルノ義ナレハナリ

三九 君主ニ變更アルトキハ同時ニ國家ノ變更ヲ來スヘキヤ例ヘハ甲君主
 崩御シタル時ハ國家ハ一旦滅亡シタルモノニシテ乙君主登極シタル時ハ新々
 ニ國家ヲ創立シタルモノナルヤ曰ク否君主ノ變更ハ國家ノ變更ニアラス其ノ
 然ル所以ハ甲君主崩御スルトキハ乙君主直チニ登極スヘク甲乙共ニ君主ニシ
 テ前後何等ノ變更ヲ認メサレハナリ換言スレハ最強ノ權力ハ常ニ君主ニ存在
 スヘクシテ其ノ甲君主タルト乙君主タルトニ依テ變更ヲ來スコトナケレハナ
 リ奈斯ク云ハハ君主即チ國家ニシテ國家ハ法人ナリト主張スル論者或ハ云ハ
 シ甲君主崩御シテ乙君主登極スルモ國家ニ變更ヲ來サスト云フ之レ即チ國家
 法人ナルカ故ニアラスヤ氏ノ所謂君主ハ國家ナリトハ君主タル所ノ甲自身が
 國家ナリト云フニアラスシテ君主ト稱スル資格即チ國家ナリト云フニハアラ
 サルカ果シテ然ラハ甲ハ有形人ナリト云フコトヲ得ヘキモ國家ト云フ皇位其
 ノ者ヲ指シテ有形人ト云フコト能ハサルヘシ余ノ所謂法人トハ君主タル所ノ

甲自身ヲ指スニアラスシテ君主ト稱スル皇位ヲ指スナリコトヲ以テ甲君主崩御シテ乙君主登極スルモ君主ノ位ニ變更ヲ來スコトナシ氏ノ説若シ之ト反シテ君主タル所ノ甲自身ガ國家ナリト云ハシニハ君主ノ崩御即チ國家ノ滅亡ニアラスシテ何ツヤト余カ見ハ然ラス余ノ所謂君主即チ國家ナリトハ君主タル所ノ甲ト君主ノ資格トヲ併セ指スモノニシテ二者決シテ分離スヘカラスナルモノトスルナリ何トナレハ皇位アリト云ヒテ君主ナシト云ヒテ君主アリト云ヒテ皇位ナシト云フ共ニ法理ノ見解ニアラサレハナリ而シテ皇位繼承ノ場合ニ於テ國家ノ變更ニアラスト云フ何ノ妨クル所ナシ何トナレハ前ニモ述フルカ如ク甲君主崩御シテ乙君主登極スルモ皇位アリテ之ヲ有スル者アルハ前後何ノ異ナル所ナケレハナリ若シ論者ノ説ニ從ヒ君主ノ資格ト其ノ資格ヲ有スル甲トヲ分離シ君主即チ國家ナリト云フ所謂君主トハ其ノ位ニアル甲ヲ指スニアラスシテ單ニ皇位ヲノミ指スモノナリコトヲ以テ國家ハ有形人ニアラスシテ法人ナリトセンカ人類自然ニ有スル所ノ資格ノ外ニ於テ或ル特別ノ資格ヲ有

スル者ハ總テ一面有形人ニシテ一面無形人ナリト云ハサルヘカラス又第三條ノ天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラストノ條文ノ如キ君主タルノ資格即チ皇位ハ之ヲ侵スコトヲ得サルモ其ノ資格ヲ有スル甲即チ君主甲ヲ侵スコトハ該條ノ禁スル所ニアラスト云ハサルヘカラス然レトモ斯ノ如キ論決ハ法理ノ許サル所ナリ

三〇 甲君主崩御スルモ之ト同時ニ乙君主登極スルカ故ニ國家ニ何等ノ變更ヲ來サハルコトハ前陳ノ如シ然ラハ甲君主崩御スルモ乙君主直ニ登極セサル時ハ如何國家ハ一旦滅亡スルモノナルカ曰ク否法理上ニ於テハ皇位ノ空虛ヲ認ムルコトナシ故ニ甲君主崩御スルトキハ其ノ瞬間ニ於テ皇太子直チニ君主タルヘクシテ皇位ニ空虛アル場合ハ決シテ生セサルモノトス或ハ甲君主崩御後皇太子即位ノ禮ヲ行フノ前若干ノ日數アルノ故ヲ以テ皇位ニ空虛ヲ生スルコトアリト云フモノアラシモ然ラス皇位ノ繼承ハ即位ヲ待テ生ズルモノニアラサルコト皇室典範第十條ニ明カナリ曰ク天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚

孫ニ先ダツコトヲ得ルモノナレハナリ 皇室典範第五條第六條及第七條參看

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

三二 本條ハ天皇ハ他者ノ權力ノ下ニ立タサルコトヲ明示シタルモノナリ

三三 神聖トハ何ソヤ或ハ君主ハ神ノ子孫ナリトノ意即チ神統ナリトノ意ニ解スルモノアレトモ余ハ之ニ同意スルコト能ハス何トナレハ學理上人間以外ニ神ナキコト又ハ君主ハ神ノ子孫ニアラサルコトヲ證明シ得ラルコトアラハ之ト同時ニ君主ハ神聖ニアラス故ニ必スシモ侵スヘカラスルモノニアラストノ不當ノ論決ヲ生スレハナリ故ニ余ハ本條ハ神聖ノ文字其ノ主眼ニアラスシテ法理上只天皇ハ侵スヘカラストノ意義ヲ明示シタルモノト解セント欲ス

三四 侵スヘカラストハ何人モ于犯スヘカラスルコト即チ他者ノ權力ノ下ニ立ツコトナシトノ意ナリ君主ハ他者ノ權力ノ下ニ立タス故ニ何人モ君主ニ對シテ責任ヲ負ハシムルコト能ハス然レトモ神聖ニシテ侵スヘカラスト云フ

コト、無責任ナリト云フコト、ハ同一ナリト解スヘカラス神聖ニシテ侵スヘカラストノ語中ニハ無責任ナルコトヲ含蓄スルモ無責任ナリト云フ語中ニハ神聖ニシテ侵スヘカラストノ意義ヲ含蓄セサレハナリ

三五 君主ハ何故ニ無責任ナルヤ曰ク神聖ニシテ侵スヘカラスルカ故ナリ君主ハ何故ニ神聖ニシテ侵スヘカラスルヤ曰ク君主ハ即チ國家ニシテ最強ノ權力ヲ有スルモノナレハナリ君主ハ最強ノ權力ヲ有ス焉ソ他者ノ命令ノ下ニ立テ其ノ責ニ任スルノ理アラシヤ以上ノ數語君主ニ責任ナキ所以ヲ證明スルニ餘リアラン

人或ハ云ハソ「君主ニ責任ナキ所以ハ之ヲ國家ノ意思ニ歸セサルヘカラス法律ハ國家法人ノ意思ナルヲ以テ如何ナル法律ヲ設クルモ國家ノ自由ナリ故ニ國家ニシテ君主ニ法律違反ノ責任ヲ負ハシムヘシトナサハ之ヲ負ハシムルコトヲ得ヘク無責任トナサント欲セハ又能ク無責任トナスコトヲ得ヘシ即チ利害得失ヲ考究シテ或ハ有責任トナスヘク或ハ無責任トナスヘシ而シテ如何ナル

法律ヲ以テ責任ノ有無ヲ定ムヘキヤト云フニ論スルマテモナク憲法ニ於テ之ヲ規定スヘキモノトス故ニ憲法ニ於テ責任ナキモノト定メタルトキハ國家ハ君主ニ責任ヲ負ハシムルヲ不利ナリトシテ之ヲ無責任トナシタルモノナレハ君主ハ法律違反ノ責ニ任セサルヘク之ト反對ノ場合ニ於テハ其ノ責ニ任スヘキモノトス若シ又憲法ニ何等ノ規定ナキトキハ法律ニ違背シタル者ノ其ノ責ニ任スヘキコト當然ナルヲ以テ君主モ亦責任アルモノト決定スヘシ要スルニ君主ニ責任ナキハ國家カ君主ニ責任ヲ負ハシメサルカ故ナリト所論無形人ナル所ノ國家即チ君主ハ國家ノ代表者ニシテ主權者ニアラス國家ニアラサル所ノ邦國ニ適用スルコトヲ得ヘシ之ヲ以テ我憲法ノ規定ヲ解セントスルハ非ナリ何トナレハ我國ニ於テハ天皇即チ國家ナルカ故ニシテ他ニ何等ノ理由アルニアラサレハナリ

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條

規ニ依リ之ヲ行フ

三六 本條ハ天皇ハ國ノ元首ナルコト統治權ハ天皇之ヲ總攬スルコト及ヒ統治權ハ憲法ノ條規ニ依リテ行フコトヲ定メタルモノナリ換言スレハ統治ノ本体作用共ニ君主ノ一身ニ在ルコトヲ明言シ而シテ其ノ作用ハ憲法ノ條規ニ依ルノ意ヲ示シタルモノナリ

三七 一條文ニ天皇ハ國ノ元首ニシテ云々トアリ其ノ所謂國ノ元首トハ何ソヤ世間之カ解釋ヲ試ムル者少カラス然レトモ未ダ正當ノ解釋ヲ下シタルモノアルヲ聞カス其ノ普通ニ行ハルハ説ニ曰ク天皇ハ國ノ元首ナリトハ天皇ハ國家ノ頭腦ナリトノ意ナリ天皇ハ國家ノ頭腦ナリ故ニ國家ト天皇トハ別体ニシテ天皇即チ國家ニアラス國家即チ天皇ニアラス條文天皇ハ國ノ元首ニシテ云々トイフハ即チ天皇ト國家トハ別物ニシテ同一体ニアラサルコトヲ明示シタルモノナリト余カ見ヲ以テスレハコハ大ナル謬論ナリ何トナレハ國ト國家トヲ混同シ國ノ元首ノ語ヲ直ニ國家ノ元首ト誤解シタルカ故ナリ

我憲法ヲ通讀スルニ帝國議會國務大臣國務國債國庫等ノ外ニ於テ國テフ文字
ヲ使用シタル箇條本條ノ他ニ尙ホ四ヶ條アリ左ノ如シ

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大
權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

第六十四條第一項 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經
ヘシ

第七十二條第一項 國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政
府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

右ノ各條ニ照シテ考フレハ本條ノ國ノ元首云々ノ國テフ文字ハ第三十一條以
下二條ニアル所ノ國家ノ語ト同意義ニアラサルコト多言ヲ要セスシテ明カナ
リ何トナレハ我憲法ニ於テ國家ヲ指稱スルトキハ明カニ國家ト云ヒテ單ニ國
テフ語ヲ使用セザレハナリ而モ國ノ元首ヲ解シテ國家ノ元首ト云フ謬見ニア

ラスシテ何ソヤ然レトモ一步ヲ讓リテ國ノ元首ハ國家ノ元首ナリトセシカ論
者ハ國家ハ君主ニアラス人民ニアラス一箇獨立ノ法人ナリト云ヒ國家ノ元首
ハ國家ノ頭腦ノ意ナリト云フ果シテ然ラハ國家法人ハ頭腦ハ有形ノ君主ニシ
テ胸部以下ハ無形ノ團體ナル怪物ナリト云ハサルヘカラス或ハ云ハン天皇ハ
國家ノ頭腦ナリトハ國家ヲ以テ頭腦ヲ有シテ活動スル所ノ人類ニ喩ヘ吾人ノ
頭腦ガ吾人ノ行爲ヲ指揮命令スルカ如ク國家ニ君主アリ之カ頭腦トナリテ國
家ノ行爲ヲ統括スルノ意ナリト之レ憲法ヲ學校ノ教科書法律ノ講義録ノ如ク
思ヒテ片言隻辭苟モスヘカラサル我國ノ大典ナルコトヲ遺忘シタルノ言ノミ
憲法ノ條文ニ比喩ヲ記載シタリト云フカ如キ妄言誰レカ之ヲ信スルモノアラ
シヤ然ラハ少シク語ヲ換テ國ノ元首トハ國家ノ長ナリトノ意ナリトセシカ君
主ハ國家法人ノ上ニ位スルモノニシテ國家法人ハ君主ノ下位ニ立ツモノトナ
サレルヘカラサルヲ如何セシ要スルニ國ノ元首ナル語ヲ國家ノ元首ト解スル
ハ謬見ナリ

國ト國家ト同一ナラサルコトハ實ニ法理ノ認ムル所ナルノミナラス我憲法ニ於テモ認ムル所ナリ然ラハ本條ノ所謂國トハ何ソヤ余カ見テ以テスレハ帝國ト云フト何ノ異ナル所ナシ即チ國ノ元首トハ帝國ノ元首ノ意ナリ人或ハ第一條ニ於テ大日本帝國ト云ヒ本條ニ於テ單ニ國ト云フ二者同シカラサルコト猶ホ國ト國家ト同シカラサルカ如シト云ハソモ然ラス國ト云ヒ帝國ト云フ法律上ニ於テハ共ニ境土ト人民トヲ併セ指スモノニ外ナラサルナリ其ノ國ト云ヒテ大日本帝國ト云ハサル所以ハ第一條ニ大日本帝國トアルカ故ニ單ニ國ト云フモ大日本帝國ヲ指スモノナルコト明カナレハナリ

要スルニ國ノ元首トハ國家ノ元首ノ意ニアラスシテ帝國ノ元首即チ帝國ノ長ナリトノ意ナリ若シ夫レ本條ニ天皇ハ國ノ元首ニシテ云々トアルカ故ニ天皇ト國家トハ別体ナリト主張スルカ如キハ狂愚ノコトノミ

三九 統治權ヲ總攬ストハ主權ノ体用共ニ君主ノ一身ニ在リトノ意ナリ蓋シ國家ノ有スル權力ニ三アリ立法ノ權ト云ヒ行政ノ權ト云ヒ司法ノ權ト云フ

而シテ是等ノ權力一人ニ集ルトキ即チ一人ニシテ是等ノ權力ヲ統一總攬スルトキ之ヲ統治權ヲ總攬スト云フ故ニ天皇ハ統治權ヲ總攬ストハ主權ノ体用共ニ君主ノ一身ニ在リテ立法權ハ君主ニ在リ行政權ハ政府ニ在リ司法權ハ裁判所ニ在リトイフカ如キ區別ヲ立テストノ意ナリ

三九 憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フトハ何ソヤ曰ク統治權ハ憲法ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ行フモノニ憲法ノ條規ニ背キ之ヲ行フモノニアラストノ意ナリ然ラハ此ノ一句ハ天皇ノ大權ノ區域ヲ定メタルモノナルカ又ハ天皇ノ大權ヲ制限シタルモノナルカ即チ天皇ノ權力ト憲法トノ關係如何之レ大ニ講究ヲ要スルノ問題ニシテ學者間ニ異論アル所ナリ

○憲法ハ天皇ノ大權ヲ制限スルモノナルヤ否ヤニ就テ左ノ三說アリ

- 一 天皇ハ主權者ニシテ最高無限ノ權力ヲ有ス然レトモ天皇ハ國家ニアラス其ノ有スル大權ハ憲法ニ依テ制限セラル
- 二 天皇ハ最高無限ノ權力ヲ有ス故ニ主權ト云ヒ國家ト云フハ君主其ノ人

ニシテ君主ノ權ハ何者ノ制限ヲモ受ケス然レトモ統治權ハ憲法ノ條規ニ依テ行ハサルヘカラス其ノ憲法ニ衝突矛盾スル法律命令ハ法律命令ニアラス

三 國家ハ法人ニシテ天皇ハ其ノ代表者ナリ最高無限ノ權力ヲ有スルモノハ國家法人ニシテ君主ニアラス憲法ヲ定メタルモノモ亦國家法人ニシテ君主ニアラス而シテ君主ノ權ハ憲法ニ依テ制限セラル、モ國家法人ノ權力ハ之ト反ス

右第三ノ說ハ國約又ハ民定憲法ヲ有スル君主國ニ適用スルコトヲ得ヘキモ欽定憲法ヲ有スル我國ニ適用スルコト能ハス何トナレハ前ニモ屢述ヘタルカ如ク我國ハ天皇即チ國家ナルノ制ナレハナリ
第一第二ノ說ハ多少異ナル所アルモ天皇ハ最高無限ノ權力ヲ有スト云フニ於テ又天皇其ノ大權ヲ行フニハ憲法ノ條規ニ依テサルヘカラスト云フニ於テ異ナル所ナシ從テ天皇ハ無限ノ權ヲ有ス然レトモ憲法ノ條規ニ違背スル法令ヲ

發スルコトヲ得ス若シ其ノ條規ニ矛盾スル法律命令ヲ發スルトキハ其ノ法令ハ法令タルノ効力ヲ有セスト云フニ於テ二說同一ナリ然レトモ余ハ之ニ同意スルコト能ハス何トナレハ一方ニ於テハ君主ハ無限ノ權ヲ有スト云ヒ一方ニ於テハ君主自身ノ定メタル憲法ノ條規ニ違背スル法令ハ法令タルノ効力ヲ有セスト云フ前後其ノ論理ノ牴觸スルモノアレハナリ主權ハ無限ノ權力ニシテ君主ハ主權者ナリトセンカ憲法ニ違背スルト否トヲ問ハス君主ノ發スル法令ハ即チ主權ノ作用ナリト云ハサルヘカラス既ニ主權ノ作用ナリトセンカ法令ノ効力ヲ有スヘキハ當然ノ結果ナリト云フヘシ而モ法令ノ効力ヲ有セスト云フ論理ノ牴觸ニアラスシテ何ソヤ

泰西ノ學者主權ハ最高無限ナリト云ヒ初メテヨリ以來今日ニ至ルマテ異論ヲ唱フル者ナク殆ント學者間ノ定論トナレリ余思フニ上陳二說皆其ノ當ヲ得サルハ主權ハ無限ノ權力ナリト解スルヨリ生スル結果ナリ何トナレハ主權ハ無限ノ權力ニシテ君主ハ主權者ナリトナストキハ如何ニスルモ本條此ノ憲法ノ

條規ニ依リ之ヲ行フノ一句ヲ解スルコト能ハサレハナリ而モ天皇ハ無限ノ權力即チ萬能ノ權力ヲ有スト云ヒナガラ此ノ一句ヲ認メント欲ス論理ヲ貫徹スルコト能ハサルハ當然ナリト云フベシ

此ノ條規ニ依リ之ヲ行フノ一句ハ天皇ノ權利ヲ制限シタルモノニアラ

余ヲ以テスレハ主權ハ最強無比ノ權力ナリ又無制限ノ權力ナリ然レトモ無限ノ權力ニアラス天皇ハ主權者ナリ故ニ天皇ハ最強ノ權力ヲ有スルモ無限ノ權力ヲ有スルモノニアラス果シテ然ラハ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フノ一句ハ即チ天皇ニ無限ノ權力アルコトヲ認メサルコトヲ示スモノニシテ解釋上何等ノ困難アランヤ主權ハ無制限ナリ然レトモ無限ニアラスト論定シタル所以ハ

此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フノ一句ハ天皇ノ權利ヲ制限シタルモノニアラ

スシテ其ノ區域ヲ定メタルモノナリ換言スレハ天皇ハ憲法ノ規定以外ニ於テハ何等ノ權力ヲ有セサルコトヲ示シタルモノトス尙ホ云ハ法律命令ハ此ノ憲法ノ明文外ニ出テストノ意義ヲ有スルモノトス今其ノ原理ヲ解説セシニ憲

法制定前ニ在テハ君主ノ大權ヲ明示シタル法典ナキカ故ニ如何ナル点マテハ君主ノ權力ノ及フ所ナルヤヲ知ルコト能ハサリシ從テ君主ガ君主ノ資格ヲ以テナス所ハ凡テ主權ノ作用ナリト解セサルヲ得サリシ換言スレハ憲法制定前ニ在テハ國家權力ノ區域ヲ知ルコト能ハサリシナリ然レトモ今ハ即チ然テス

國家ノ權力ハ決シテ憲法以外ニ出ルコトヲ再言スレハ國家權力ノ及フ所即チ君主ノ權力ノ區域ハ憲法ノ明示スル所ニシテ其ノ以外ニ脱出スルコト能ハサルモノトス

人或ハ云ハシ國家ノ權力憲法ノ規定以外ニ存在セスト云ハハ憲法ハ國家ノ上位スルモノニアラスヤト曰ク否憲法ハ國家ノ制定スル所ナルカ故ニ國家ノ上位スルモノニアラス只國家ノ有スル限りノ權力ヲ明示シタルモノハ即チ憲法

大ナルヲ以テ憲法ニ規定シタルヨリ以外ノ權力國家ニ存在セスト知ルヘシト云フノミ

要スルニ主權ハ最強無比ノ權力ニシテ何等ノ制限ヲ受クルモノニアラス制限

セラルヘキハ主權ニアラサレハナリ故ニ本條此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
 ノ一句ハ天皇大權ノ制限ヲ定メタルモノニアラス主權ハ無制限ナリ然レトモ
 無限ノモノニアラス故ニ主權ノ及フヘキ範圍即チ區域アリト云フ何ノ妨クル
 所ナキモノトス例令ハ國家ノ權力ヲ以テ地球ノ運轉ヲ止メ人類ノ生死ヲ禁ス
 ルコト能ハス其ノ爲ス能ハサルハ他者ノ制限ヲ受クルニアラスシテ權力ノ當
 然コトニ及ハサルナリ故ニ本條ハ天皇ノ大權ヲ制限シタルモノニアラスシテ
 其ノ區域ヲ定メタルモノナリ主權即チ國家ノ有スル權力ニ區域アリテ無限ニ
 アラスト云フ毫モ最強無比ノ權力タルコトヲ妨ケサルモノトス

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ

四〇 本條ハ立法權ハ天皇專斷之ヲ行ハス之ヲ行フニハ帝國議會ノ協贊ヲ
 經ルコトヲ要スル旨ヲ定メタルモノナリ
 此ノ條ト第三十七條トヲ比照スルニ法律ヲ制定スルニハ必ス帝國議會ノ協贊
 ヲ經ルヲ要ス故ニ帝國議會ノ協贊ヲ經サルモノハ法律ニアラス

四一 協贊トハ協議又ハ同意ノ意ナレトモ議會ハ如何ニシテ協議同意スル
 ヤト云フニ議案ヲ議決スルニ外ナラサルカ故ニ之ヲ議決ト解スルモ妨ケナシ
 但シ議會ノ議決ニ二アリ一ハ第五十一條ニヨリ内部ノ整理ニ必要ナル諸規則
 ヲ定ムルカ如ク其ノ效力内部ニ止マルモノニシテ他ノ一ハ法律案ノ議決ノ如
 ク政府ノ命令處分ヲ組立ツルノ要件トナルモノナリ而シテ協贊ハ此ノ第二ノ
 議決ヲ云フモノトス又議決ニ可決ト否決トノ二種アレトモ協贊ヲ經タルモノ
 ト云ハシニハ必ス可決アルコトヲ要ス又コトニ所謂議決ハ法律案即チ法律ト
 ナサント欲シテ未タ法律トナラサル草案ニ對スルモノニシテ既ニ法律トナリ
 タルモノニ對スルノ議決ヲ云フニアラス故ニ本條協贊ヲ以テ立法權ヲ行フト
 ハ議會ノ可決ヲ經タル法律案ニアラサレハ法律トナスコト能ハストノ意ナリ
 ト解スルヲ以テ充分ナリトス

四二 立法トハ法律ヲ制定スルヲ云ヒ立法權トハ法律ヲ制定スルノ權力ヲ
 云フモノニシテ此ノ權力ハ君主ノ有スル所ナリ然ルニ協贊ノ法律ノ成立ニ必

要ナルハ裁可ノ必要ナルニ異ナルコトナク裁可ナクハ法律タルコト能ハス
協賛ヲ經サルモノモ亦法律タルコト能ハス換言スレハ協賛ノ權ハ議會ニアリ
裁可ノ權ハ君主ニアリテ二者合同スルニ非サレハ法律ヲ制定スルコト能ハサ
ルノ故ヲ以テ立法權ハ君主ト議會トノ共有ナリト主張スルモノアリ然レトモ
余カ見テ以テスレハ此ノ説誤レリ何トナレハ立法權ハ統治權ノ作用ノ一ニシ
テ立法權ト稱スル別種ノ權力アルニアラサルニモ拘ラス立法權ハ君主ト議會
トノ共有ナリトセハ統治權モ亦君主ト議會トノ共有ナリト論定セサルヘカラ
サルカ故ナリ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

四三 本條ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及ヒ執行ヲ命スルハ天皇ノ大權ニ屬ス
ル旨ヲ定メタルモノナリ
條文ニ天皇ハ法律ヲ裁可シ云々トアリ故ニ法律ヲ裁可スルハ天皇ノ權ニシテ
之ヲ裁可セサルモ亦天皇ノ權内ニアルモノトス

四四 裁可トハ議會ニ於テ議決シタル法律案ヲ認可シ御名ヲ署シ御璽ヲ鈴
シテ以テ法律ヲ確定スルコトヲ云フ

四五 法律公布前其ノ裁可ヲ取消スコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ニ對シ法律公
布前ニ在テハ君主ハ何時ニテモ其ノ一旦與ヘタル裁可ヲ取消スコトヲ得ヘシ
ト主張スルモノアリ曰ク裁可ハ國家ノ意思ヲ決定スルノ行爲ニシテ意思ノ宣
明ニアラス人民ニ向テ此ノ法律ヲ遵守セヨト命シタルモノニアラス故ニ此ノ
場合ニ於テハ法律ヲ以テ廢止スルコトヲ要セス君主自ラ之ヲ取消スコトヲ得
ヘシト然レトモ余カ見ハ之ト反ス
此ノ問題ヲ決スルニハ法律ハ何レノ時ニ人民カ之ヲ知リタリト看做スヘキヤ
否ヲ問フノ要ナシ只法律案ハ何レノ時ニ變シテ法律トナリタルヤ即チ法律確
定ノ時期如何ヲ決スレハ足レリ既ニ法律トナリタリトセシカ法律ノ改廢ハ必
ズ法律ヲ以テセサルヘカラサルニヨリ之ヲ廢止スルニハ議會ノ協賛ヲ經サル
ヘカラス未ダ法律トナラストセシカ法律タルノ効力ヲ與フルト否トハ君主ノ

自由ナルニヨリ君主任意ニ裁可ヲ取消スヲ得ヘシ而シテ法律確定ノ時期如何
 下云フニ法律ハ裁可ト同時ニ確定スルモノナリ人或ハ裁可ノミヲ以テハ法律
 タルコト能ハスト云ハシモ後ニ述フルカ如ク公布ハ決シテ法律ヲ確定スルモ
 ノニアラス最モ公布ナキ間ハ臣民未タ遵守ノ義務ヲ負ハサルカ故ニ法律ノ法
 律タル効用ヲシトスルハ當然ナルモ公布ナキ間ハ裁可アルモ未タ法律ニアラ
 ズトスルコトヲ得ス法律ハ國家ノ意思ニシテ裁可ハ國家意思ノ確定ナリ國家
 ノ意思既ニ確定シタリ焉ソノ國家ノ意思ナシト云フヲ得ンヤ故ニ曰ク法律案
 ヲ裁可シタルトキハ之ト同時ニ法律案變シテ法律トナルモノナリト果シテ然
 ラハ君主ハ既ニ與ヘタル裁可ヲ取消スコトヲ得サルヤ論ヲ俟タス其人民ニ遵
 守ノ義務ヲ負ハシメタルヤ否ヤハ法理ノ問フ所ニアラス

四六 裁可ヲ與フル時機如何憲法ニハ此ノ時機ニ關シ何等ノ規定ナシ故ニ
 憲法上ヨリスレハ協賛ヲ經タル議會ノ次會期前ナルト否トヲ問ハス之ヲ裁可
 スルコトヲ得ヘシ蓋シ彼ノ會期不連續ノ原則ハ既ニ議決シタル法律案ニ對シ

テ適用セラレヘキモノニアテサレバナリ然レトモ施政上其ノ時期ヲ定ムルナ
 宜シトス即チ議院法第三十二條ノ規定アル所以ナリ該條ニ曰ク兩議院ノ議決
 ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラルハモノハ次ノ會期マテニ公布セラル
 ヘシト

四七 裁可ニ因リ法律確定シタル後普ク國家ノ機關及ヒ臣民ニ布告スルノ
 作用ヲ公布ト云フ故ニ公布ハ其ノ形式上ヨリ云ヘハ立法作用ノ末段ナルモ實
 体上ヨリ云ヘハ立法ノ作用既ニ了リテ後其結果ヲ布宣スルモノニ過キス
 而シテ公布ハ單ニ人民ニ告知スルノ意ニアラスシテ之ニ法律上ノ檢束力ヲ與
 フルノ意ナリ故ニ人民ニ向テ此ノ法律ヲ遵守セヨト命スルモノハ公布ニシテ
 人民ハ之ニ依テ始メテ其ノ命令ニ服従スルノ義務ヲ負フモノトス
 然ルニ法律ハ裁可ニヨリテ完成スルモノニ非スシテ公布ニヨリ始メテ法律ト
 ナルモノナルカ故ニ公布ハ法律ノ成立ニ必要ナル一元素ナリト云フモノアリ
 然レトモ余ヲ見テ以テスレハ前既ニ述ヘタルカ如ク法律ハ裁可ト同時ニ完成

スルモノニシテ公布ヲ待テ後チ完成スルモノニアラス公布ハ只人民ニ遵守ノ義務ヲ負ハシムルニ過キサルノミ抑法律自身ト法律ノ効力トハ區別ナクシハアラス國家ノ確定セル意思ト其ノ意思ヲ人民行爲ノ規則ヲラシムル命令トハ同一ニアラス法律ハ即チ國家ノ意思ナリ其意思ヲ定ムルモノハ裁可ナリ其ノ意思ニ服從セシムルモノハ命令ナリ而シテ命令スルモノハ公布ナリ故ニ公布ナクシテ裁可ノミ存スル間ハ國家意思ノ確定ノミニシテ命令ハ未タ存セス從テ裁可ト公布ト具備セサル間ハ完全ナル法律ノ用ヲナサスト雖モ決シテ法律存在セスト云フコト能ハス

四六 執行トハ法律ヲ施行シ實際ニ處分スルノ義ナリ而シテ彼ノ公布ハ臣民ニ對シテノ命令ニシテ執行ハ行政各部ニ對シテノ命令ナリ即チ彼レハ臣民ヲシテ遵奉ノ義務ヲ負ハシムルモノニシテ是レハ其ノ義務ヲ果サシムル權力即チ強制ノ權力ヲ官府ニ委スルモノナリ

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院

ノ解散ヲ命ス

四九 本條ハ帝國議會ノ召集開會閉會停會及ヒ衆議院ノ解散ヲ命スルハ天皇ノ大權ニ屬スルコトヲ明示シタルモノナリ而シテ開會及ヒ閉會ハ帝國議會ノ成立ニ對スル處分ニシテ停會ハ其ノ議事ニ對スル處分解散ハ衆議院議員各箇ニ對スル處分ナリ其ノ貴族院ニ對スル解散ノコトヲ云ハサルハ貴族院ニハ停會ヲ命スルモ解散ヲ命スルモノニアラサレハナリ又如何ナル場合ニ停會ヲ命シ將テ解散ヲ命スヘキヤハ政治上ノ問題ニシテ憲法法理ノ關スル所ニアラス

五〇 第三十三條ニ曰ク帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立スト故ニ帝國議會トハ貴族院ト衆議院トヨリ成立スル所ノ一體ヲ指スモノニシテ帝國議會ト云ヘハ必ス兩院ヲ包含スルモノトス

五一 勅任又ハ撰舉ニヨリテ議員確定スルモ未タ帝國議會ヲ組織シタルモノニアラス其ノ既ニ定マリタル議員カ勅命ニ應シ集會シテ兩院ヲ組織シヨハ

ニ始メテ帝國議會ノ成立ヲ見ルモノトス故ニ議會ノ召集ハ次ニ述ル開會ト共ニ帝國議會成立ノ要件ナリ而シテ議會ヲ召集スルハ天皇ノ大權ニ屬スルモノニシテ議員自ラ集會スルモ憲法上議會ト何ノ關係ナキモノトス

條文天皇ハ帝國議會ヲ召集シ云々トアリ其ノ所謂帝國議會ノ召集トハ何ソヤ帝國議會ハ議會ノ議員ニアラス又貴族院ニアラス衆議院ニアラスシテ貴族院ト衆議院トヨリ成立スル一体ヲ指スノ名稱ナルカ故ニ世間或ハ召集ノ文字ニ付テ疑ヲ懷クモノアラテ何トナレハ議員又ハ議院ヲ召集スト云ハハ二箇以上ノ者ヲ召ヒ集ムルカ故ニ召集ノ文字適當ナルモ帝國議會ト稱スル唯一ノ議會ヲ召ヒ集ムルトキハ何等ノ意義ナルヤ不明ニシテ爲ニ召集ノ文字穩當ナラサルカ如キ感アレハナリ余ヲ以テスレハ此ノ疑ヒ理ナキニアラス然レトモ條文ノ所謂帝國議會ヲ召集ストハ帝國議會成立ノ要素タル貴衆兩院ヲ召集スルノ意ニシテ帝國議會其ノ者ヲ召ヒ集ムルトノ意ニアラサルヘシ但シ帝國議會ヲ召集ストノ一句ニ當然此ノ意義ヲ含蓄ルヤ否ヤハ文字ニ暗キ余ノヨク辨明シ

得ヘキ所ニアラス

五三 議會ハ勅命ニヨリテ開會スルモノニシテ開會ノ勅命ト同時ニ議會ハ完全ニ成立スルモノナリ而シテ開會トハ議會カ職務上ノ行爲ヲナシ得ル期ノ始メヲ指スモノニシテ其ノ開會ニハ天皇親ラ議會ニ臨ミ又ハ特命勅使ヲ派シテ勅語ヲ傳フルヲ式トス

五四 閉會トハ議會ヲ閉ツルヲ云フ故ニ閉會スレハ再ヒ開會アルマテハ帝國議會ハ全ク存在セサルモノトス

五五 停會トハ議會ノ議事ヲ中止スルヲ云フ之ヲ中止スルノミニシテ解散スルモノニアラサルカ故ニ議會ハ依然トシテ存在スヘク從テ議事ノ前後ノ繼續ヲ妨ケサルモノトス但シ衆議院ノ解散ニ伴フ所ノ貴族院ノ停會ノ場合ニ於テハ其ノ議事ハ次會ニ繼續セサルモノトス

五六 解散トハ議員ノ資格ヲ解キテ之ヲ失ハシムルヲ云フ議員ノ資格ヲ解クモノナルカ故ニ議會其ノ者ニ對スル處分ニアラスシテ議員各箇ニ對スル處

分ナリ

解散ノ命ニヨリ資格ノ消滅スル場合ト自然ニ消滅スル場合トヲ混同スヘカラス自然ニ消滅スルハ其ノ任期ノ満チタルカ爲ニシテ解散ノ爲ニ消滅スルハ任期未タ終ラサルモ其ノ資格ヲ失ヒタルカ故ナリ但シ資格ヲ失フノ点ニ就テハ二者同一ナリトス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲

緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

五六 本條ハ天皇ハ帝國議會閉會ノ場合ニ公共ノ安全ヲ保持スルノ上ニ於

テ又ハ其ノ災厄ヲ避クルノ上ニ於テ緊急ノ必要アルトキハ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發スルコト此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘキコト及ヒ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘキコトヲ定メタルモノナリ而シテ此ノ勅令ハ法律ニ代ハルヘキ効力アルカ故ニ法律ノ効力アル勅令トモ云ヒ又緊急ノ必要ニ應シテ發スルモノナルカ故ニ緊急勅令又ハ緊急命令トモ云フ

法律ノ制定改廢ハ必ス議會ノ協賛ヲ經ヘシ君主專斷之ヲ定ムルコトヲ得サルハ立憲ノ通義ニシテ第五條ノ明示スル所ナリ然ルニ本條ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發スルコトヲ認メタルハ何ソヤ曰ク法律ノ重キハ固ヨリナレトモ之ヲ以テ國家ノ生存公共ノ安全ニ代ヘ得ヘキモノニアラサレハナリ抑モ社會ハ常ニ活動變遷スルモノナレトモ國家ノ立法機關ハ社會ノ活動スルカ如クニ活動スルコト能ハサルモノナリ即チ運轉ノ遲緩ナルヲ常トス今夫レ如何ナル場合ニ於テモ立憲ノ通義ニ悖戾スルコト能ハストセハ公共ノ安全ヲ保

持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲ニ法律ヲ制定改廢スルノ緊急ナル必要アルトキハ如何ニスヘキヤ行政命令ヲ以テセンカ行政命令ハ法律ヲ制定改廢スルノ力ナキヲ如何セン然ラハ立法機關ノ參與ヲ經テ新タニ法律ヲ制定センカ議會ハ常ニ開會シツアルモノニアラサルヲ如何セン然ラハ君主ノ大權ヲ以テ議會ヲ召集センカ必要ノ時機ヲ失スルヲ如何セン此ノ時ニ當テハ緊急命令ヲ發シテ其ノ急ニ應スルノ外策ナキナリ而モ尙ホ立憲ノ通義ニ悖戾スルコトヲ得サルモノトナサハ國家ノ生存公共ノ安全ヲ維持センカ爲ニ制定シタル法律自身ノ爲ニ却テ國家ノ生存公共ノ安全ヲ妨クルモノト云フヘシ嗚呼誰レカ國家ノ生存公共ノ安全ニ代ヘ得ヘキ法律アリトナサンヤ立憲ノ通義ニ違フト國家ノ生存公共ノ安全ヲ害スルト其ノ利害孰レカ大ナル國家ノ生存公共ノ安全ヲ害スルモ尙ホ且ツ立憲ノ通義ヲ確守スヘキカ國家ノ危機切迫間髪ヲ入レス豈立憲ノ通義ヲ顧ミルノ暇アラシヤ之レ第五條ニ於テ法律ノ制定改廢ハ必ス議會ノ協賛ヲ經ヘシト定メ以テ臣民ノ權義ノ猥リニ變更スヘカラサル旨ヲ明ニシ

ルタニモ拘ラス本條ニ於テ其ノ變例ヲ設ケタル所以ナリ

人或ハ云ハン立憲ノ通義ヲ以テ國家ノ生存ニ代フルコト能ハサルハ當然ナリト雖モ憲法ニ於テ之ヲ認ムルハ不當ナルカ如シ何トナレハ憲法ニ於テ認ムルトキハ緊急命令ヲ發スルハ即チ適法ノ權利ナルカ故ニ之ヲ發スルモ議會ニ對シテ責任ヲ負フノ義務ナク爲ニ此ノ權利ヲ濫用スルノ恐レアレハナリ今夫レ憲法ノ規定ニ從ヘハ條件中ノ緊急ノ必要アルヤ否ヤハ君主ノ斷スル所ニシテ議會ヲ解散スルコト亦君主ノ任意ナルカ故ニ強テ此ノ命令ヲ發セント欲セハ何時ニテモ之ヲ發スルコトヲ得ヘシ之レ豈其ノ當チ得タルモノナラシヤ故ニ緊急命令ハ憲法ニ明定セスシテ之ヲ發スルノ必要アルトキハ政府自ラ憲法違反ノ責任ヲ負擔シテ之ヲ發シ次ノ議會ニ於テ必要ナリシ所以ヲ證明シ其ノ責ヲ解クノ決議ヲ求ムルヲ以テ宜キヲ得タルモノト信スト之レ憲法ニ於テ認メサル不法ノ命令ハ命令タルノ効力ナキコトヲ知ラサルノ妄論ナリ議會ノ協賛ヲ經サルモノハ法律トシテ之ヲ公布スルモ人民ニ遵守ノ義務ナキト同シク憲

法上法律ヲ以テスルニ非サレハ規定スルコト能ハサル事項ハ憲法ニ於テ認めサル緊急命令ヲ以テ之ヲ規定スルモ人民ニ遵守ノ義務ナキモノトス何トナレハ斯ノ如キ命令ハ君主私人ノ命令ニシテ統治權ノ作用ニ出ルモノニアラサレハナリ而モ尙ホ憲法ニ明定スルヲ不當ナリトセンカ千百ノ命令アルモ實力ヲ以テ強テ實行スルニアラサレハ何等ノ効用ナカルヘク爲ニ立憲ノ通義ヲ確守シテ國家ノ生存公共ノ安全ヲ顧ミサルニ至ルヘシ之レ本條ニ於テ緊急命令ヲ適法ノ命令トナシタル所以ナリ

五 緊急命令ヲ發スルニ必要ナル條件五アリ左ノ如シ

- 一 安全ヲ保持シ又ハ災厄ヲ避クル爲ナルコト
- 二 公共ノ爲ナルコト
- 三 緊急ノ必要アルコト
- 四 帝國議會閉會中ナルコト
- 五 尋常ノ勅令ヲ以テ命令シ得サル事項ナルコト

一 安全ヲ保持シ又ハ災厄ヲ避クル爲ナルコト
 條文ニ安全ヲ保持シ又ハ災厄ヲ避クル爲云々トアリ故ニ此ノ二箇ノ場合ノ外ハ緊急命令ヲ發スルコトヲ得ス即チ安全ニ對スル危險又ハ災厄ヲ除クノ消極ノ目的ヲ以テ發スルノ外憲法ハ之ヲ許サス公共ノ利益ヲ増進スルノ好機會アリテ迅速ナル處分ヲ爲スニアラサレハ其ノ機會ヲ失スルコトアルヘキ場合ト雖モ爲ニ緊急命令ヲ發スルコトヲ得ス故ニ緊急命令ハ消極ノ目的ヲ以テ發スヘクシテ積極ニ國利民福ヲ増進スルノ目的ヲ以テ發スルコトヲ得サルモノトス

如何ナル場合ガ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲ニ緊急ノ必要アル時ナルヤ否ハ獨リ君主ノ判定スル所ニシテ他者ノ干涉スヘキ所ニアラス故ニ事實緊急ノ場合ト雖モ君主認メテ緊急ノ場合トナサハルトキハ法律上所謂緊急ノ場合ニアラス又事實緊急ノ場合ニアラスト雖モ君主認メテ緊急ノ場合トナストキハ法律上所謂緊急ノ場合ナリ君主ノ認ムル所事實ト違フモ憲法上ニ於テ

ハ之ヲ批難スルコト能ハス何トナレハ本條ハ天皇ニ緊急命令ヲ發スルノ權アルコトヲ定ムルモ其ノ所謂公共ノ安全又ハ災厄トハ如何ナル場合ヲ指スモノナルヤチ規定セシテ其ノ判斷ヲ獨リ君主ニ委テタレハナリ

條文公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲メトアリ然レトモ法理上ヨリスレハ二者共ニ同一ナルカ如シ何トナレハ公共ノ災厄ヲ避クルハ公共ノ安全ヲ保持スル所以ニシテ公共ノ安全ヲ保持スト云ハハ其ノ中ニ公共ノ災厄ヲ避クルコトヲ包含スルカ故ナリ然レトモ條文之ヲ區別シタル以上ハ二者其ノ解釋ヲ異ニセサルヘカラス即チ公共ノ安全ヲ保持スルトノ語ハ未來ノ場合ヲ指スモノニシテ公共ノ災厄ヲ避クル爲メトノ語ハ現在ノ場合ヲ指スモノトス尙ホ云ハハ未タ災厄ハ起ラサレトモ將ニ來ラントスル場合ニ之ヲ防禦スルハ公共ノ安全ヲ保持スル爲メトノ第一ノ語ニ相當スルモノニシテ既ニ發生シタル災厄ヲ除去スルハ第二ノ語ニ相當スルモノトス

二、公共ノ爲ナルコト

條文ニ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲トアリ故ニ緊急命令ハ公共ノ爲ニ發スヘクナ特定シタル一私人ノ爲ニ發スルコトヲ得サルモノトス但シ公共ノ爲ト云フモ其ノ危險ハ必スシモ社會ノ全部ニ關スルコトヲ要セス又一私人ニ對スル危險ト雖モ間接ニ公共ノ安全ニ關スルモノナルトキハ素ヨリ之ヲ發スルコトヲ得ヘシ

三、緊急ノ必要アルコト

緊急命令ヲ發スルニハ普通立憲ノ通義ニヨルコト能ハサル緊急焦眉ノ場合ナラサルヘカラス故ニ次期ノ帝國議會開會ヲ待テ徐ニ其ノ方法ヲ定ムルコトヲ得ル場合ニハ此ノ命令ヲ發スルコトヲ得サルモノトス

四、帝國議會閉會中ナルコト

閉會中トハ前會閉會ノ時ヨリ次會開會迄ノ期間ヲ云フ故ニ議員召集ニ應シテ集會スルモ開會ノ命ナキ間ハ尙ホ閉會中トス但シ斯ノ如キ場合ニ於テハ直ニ之カ開會ノ手續ヲナシテ議會ノ協賛ヲ經ヘキヲ當然トス只君王此ノ手續ニ依

ラサルモ以テ憲法違反トナスコト能ハサルノミ
 又議會ノ閉會中ナルコトヲ要スルカ故ニ停會中ニハ此ノ勅令ヲ發スルコトヲ
 得ス何トナレハ停會ハ議事ヲ中止スルモノニシテ議會ヲ散セシムルモノニア
 ラサレハナリ
 又閉會ノ場合トハ現ニ閉會シツアルヲ指スモノニシテ其ノ閉會ノ原因ノ何
 タルハ固ヨリ問フ所ニアラス故ニ君主議會ノ協賛ヲ經スシテ法律ヲ變更セシ
 ト欲スル時ハ開會シツアル議會ヲ解散シ然ル後チ此ノ命令ヲ發スルコトヲ
 得ヘシ之レ固ヨリ政治上德義上萬有ルヘカラサル事ナレトモ然レトモ爲サシ
 ト欲スレハ爲スコトヲ得ヘク而モ敢テ違憲ノ處分トナスコトヲ得ス何トナレ
 ハ原因ノ如何ヲ問ハス解散アルトキハ閉會中ト云フニ何ノ妨ケナケレハナリ
 五尋常ノ勅令ヲ以テ命令シ得サル事件ナルコト
 尋常ノ勅令ヲ以テ命令シ得ル事件ナルトキハ尋常ノ勅令ヲ以テ之ヲ命令スヘ
 ク敢テ緊急命令ヲ發スルノ要ナシ緊急命令ハ現行ノ法律ヲ以テモ政府命令又

ハ行政命令ヲ以テモ之ヲ救済スルコト能ハサル場合ニ發スルモノナリ故ニ之
 ヲ發スルニハ現行ノ法律ヲ改廢スルカ又ハ法律ヲ以テノ外制定シ得ヘカラサ
 ル事件ナルコトヲ要スルハ當然ナリ
 以上五箇ノ條件ヲ具備スル時ニアラサレハ緊急命令ヲ發スルコトヲ得サルモ
 ノトス

五九 條文ニ所謂法律ニ代ルヘキ勅令トハ勅令ノ効力が法律ニ代ルトノ意
 ニシテ議會ノ協賛ヲ經スシテ天皇ガ法律ヲ作ルトノ意ニアラス又勅令ノ効力
 ガ法律ニ代ルトハ法律ト同一ノ効力ヲ有スルトノ意ニシテ現在施行セラルハ
 所ノ法律ノミニ代ルトノ意ニアラス故ニ法律ヲ變更スルコトヲ得ルノミナラ
 ス法律ヲ以テスルニアラサレハ規定スルコト能ハサル事項ヲモ緊急命令ヲ以
 テ定ムルコトヲ得ヘシ
 法律ニ代ルヘキ勅令トアリ故ニ緊急命令ハ一ノ勅令ニシテ決シテ法律ニアラ
 ス其ノ相異ナル要點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一 緊急命令ハ議會ノ協賛ヲ要セザレトモ法律ハ之ト反ス

二 緊急命令ハ次ノ議會ニ提出スルコトヲ要スルモ法律ハ之ト反ス

三 緊急命令ハ議會ノ承諾ヲ得ルモ法律トナラス法律ハ議會ノ協賛ヲ經君

主之ヲ裁可シタルトキハ完全ノ法律トナル

六〇 如何ナル事項ハ緊急命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ヘク又如何ナル

事項ハ緊急命令ヲ以テ定ムルコトヲ得サルカ即チ緊急命令權ノ限界ハ如何曰

ク緊急命令權ノ唯一ノ限界ハ憲法ノ規定ナリ條文ニ曰ク法律ニ代ルヘキ勅令

ヲ發スト故ニ憲法ノ範圍内ニ於テ法律ノ規定ヲ得ヘキモノハ如何ナル事項ト

雖モ緊急命令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得ヘシ但シ立法ノ材料ニ二種アリ第

一ハ法律ヲ以テ定ムルモ勅令ヲ以テ定ムルモ憲法ニ違背セサルモノニシテ第

二ハ勅令ヲ以テスルトキハ憲法ニ違ヒ法律ノミヲ以テ定ムヘキモノ之ナリ而

シテ緊急命令ヲ以テ第一種ノ事項ヲ規定スルコト能ハス何トナレハ緊急命令

ハ尋常ノ勅令ヲ以テ規定スルコトヲ得ヘキ事項ニ對シテ發スヘキモノニアラ

サレハナリ故ニ緊急命令ヲ以テ定ムヘキハ第二種ノ法律ヲ以テノミ規定スヘ

キ事項ニ限ルモノトス再言スレハ憲法上法律ヲ以テ規定スヘキ旨ヲ定メタル

モノハ其ノ事項ノ何タルヲ問ハス之ヲ緊急命令ヲ以テ定ムルコトヲ得ルモノ

トス

世間或ハ緊急命令ハ必ス法律ヲ停止スルノ方向ニノミ出ツヘキモノニシテ法

律ノ曠缺ヲ補充スルハ第九條ニ依ルヘシ又憲法ノ正條ニ故サテニ法律ニ依リ

ト明示シタルモノハ勅令ヲ以テ變更スルコトヲ得スト説クモノアリ文學士有

賀長雄氏ノ如キ然リ然レトモ余ヲ以テスレハ此ノ説誤レリ何トナレハ憲法ノ

正條ニ故サテニ法律ニ依リト明示シタルモノハ勅令ヲ以テ變更スルコトヲ得

スト云フモ條文法律ニ代ルヘキ勅令ト云ヒ一モ之カ例外ヲ設ケス又法律ノ曠

缺ヲ補充スルハ第九條ニ依ルヘシト云フモ行政命令ハ憲法ニ於テ法律ヲ以テ

定ムヘキ旨ヲ宣告シタル事項ヲ規定スルコト能ハス又法律ヲ停止スルノ方向

ニノミ出ツヘシト云フモ條文法律ニ代ルヘキ勅令ノ一句ヲ法律ヲ停止スルノ

勅令ト解スルコト能ハサレハナリ

六四 緊急命令發布後ノ處分如何曰ク緊急命令ハ普通立憲ノ通義ニ從フコト能ハサル緊急止ムナキ場合ニ發スルモノナルカ故ニ立憲ノ通義ニ從フコト夫得ヘキ時機授來シタルトキハ必ス其常法ニ從ハサルヘカラス之レ本條第二項ノ定メアル所以ナリ曰ク此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシト故ニ緊急命令ヲ發シタルトキハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘク若シ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘキモノトス

六五 承諾ノ法理ハ如何曰ク承諾ノ法理ハ緊急命令ヲ憲法ニ於テ認メタル邦國ト然ラサル邦國トニ依テ異ナリ即チ合法命令タルト違法命令タルトニ依テ其ノ法理ヲ同フセス 彼ノ英國ノ如キハ國法ニ於テ政府ニ緊急命令ヲ發スルノ權アルコトヲ認メス

即チ法律ト勅令トノ間ニ純然タル區別ヲ定メ如何ナル場合ニ於テモ勅令ヲ以テ法律ヲ動カスヘカラサルモノトシ絶テ之カ除外例ヲ設ケス故ニ英國ニ於テハ憲法上君主ハ決シテ緊急命令ヲ發スルコト能ハス之ヲ發セシカ即チ違憲ナリ夫レ然リ然レトモ國家一旦非常ノ事アルニ當テハ勢ヒ勅令ヲ以テ法律ヲ改廢スルノ政策ヲ取ラサルヘカラス何トナレハ法律ノ重キハ固ヨリナレトモ之ヲ國家ノ重キニ代フルコトヲ得サレハナリ之レ英國ノ如ク緊急命令ヲ認メサルノ邦國ニ在テモ尙ホ且ツ非常ノ場合ニハ之ヲ發スル所以ニシテ又歷史上ニ其ノ事實ノ散見スル所以ナリ然レトモ政界上之ヲ爲サレヘカラサル場合ト雖モ國法之ヲ許サレトキハ尙ホ違憲ノ所爲タルヲ免レスコトヲ以テ英國ノ如キ國法ヲ有スル邦國ニ於テ緊急命令ヲ發スルハ政府自ラ憲法違反ノ責任ヲ負擔シテ之ヲ爲スモノトス故ニ政府ハ次ノ國會ニ對シテ其ノ必要ナル所以ヲ證明シ其ノ責ヲ解クノ決議ヲ請ハサルヘカラス此ノ手續ヲ稱シテ責任解除ノ手續ト云ヒ之ニ對スル國會ノ承諾ヲ稱シテ解責ト云フ而シテ緊急命令ヲ議會

ニ提出シテ承諾ヲ求ムルハ將來ニ向テ此ノ命令ヲ廢スヘキヤ將タ存スヘキヤ
 ナ問フニアラスシテ政府カ爲シタル事實ノ判定ノ審査ヲ求ムルモノナリ換言
 スレハ必要ナリシヤ將タ不必要ナリシヤノ監査ヲ求メテ必要ナリシトノ決議
 ナ請フモノナリ故ニ必要不必要ノ決定ヲ與フルハ國會ノ權内ニ存スルモノニ
 シテ事實必要ナリシコトヲ認メタルトキ始メテ承諾ノ決議即チ解責ヲナスモ
 ノトス以上要スルニ英國ニ在テハ緊急命令ヲ發スルノ必要不必要ヲ認ムルノ
 權ハ政府ニ屬セスシテ國會ニ存ス故ニ政府カ國會ニ承諾ヲ求ムルハ必要不必
 要ノ判定ヲ受ケテ憲法違反ノ責ヲ解除セントスルニアリ

然ルニ我國ノ如キハ憲法ニ於テ明カニ緊急命令ヲ發スルノ權ヲ認メタルカ故
 ニ緊急命令ハ英國ノ如ク違法命令ニアラスシテ合法命令ナリ從テ其ノ之ヲ發
 スルノ必要不必要ハ君主ノ判定スル所ニシテ議會ハ何等ノ異議ヲ唱フルコト
 能ハス議會ニ承諾ヲ求ムルハ責任解除ノ爲ニアラスシテ將來ニ對スル存廢如
 何ヲ問フカ爲ナリ決シテ英國ニ於ケル責任解除ノ手續ト同一視スルコト能ハ

ス

然レトモ議會ハ政府カ緊急命令ヲ發シタルノ當時ニ遡リ果シテ此ノ命令ヲ發
 スルノ必要アリシヤ否ヲ審査スルコト能ハサルニアラス何トナレハ其ノ必要
 不必要ノ事實ヲ取調フルハ一箇人ト雖モ爲シ得ヘケレハナリ只必要不必要ヲ
 監査シテ法令ノ効力ヲ左右スルコト能ハサルノミ故ニ議會ハ發布ノ當時果シ
 テ必要アリシヤ否ヲ審査スルコトヲ得ルモ緊急必要ノ場合ニ發シタルモノニ
 アラストノ故ヲ以テ違憲ナリトスルコト能ハス尙ホ云ハハ議會ハ其ノ必要不
 必要ヲ論スルモ妨クナク又之ヲ議決スルモ可ナラン然レトモ其ノ結果ハ或ハ
 質問トナリ或ハ建議トナリ上奏トナリ以テ政府ニ反省ヲ與フルノ外憲法上一
 モ權義ノ關係ヲ生セサルモノトス

然ルニ議會ハ命令發布ノ當時果シテ必要ナリシヤ否ヲ審査シテ其ノ存廢ヲ決
 スヘシト説ク者アリ法學士一木喜徳郎氏ノ如キ然リ學士曰ク

議會カ緊急命令ヲ審査スルニ當テハ唯其ノ發布ノ當時果シテ必要ナリシヤ

否ヲ究ムルニ止リ審査ノ當時其ノ猶ホ存續ノ必要アルヤ否ヲ問フコトナシ
 抑モ緊急命令ノ承諾ハ政府ノ責任ヲ解除スルモノナリ若シ議會カ緊急命令
 ノ發布ノ當時ニ於テ極メテ必要ナリシコトヲ認メナカラ其ノ必要ノ既ニ消
 滅シタルノ理由ヲ以テ承諾ヲ拒マハ政府ハ其ノ當然ノ義務ヲ盡シタル場合
 ニ於テモ責任ノ解除ヲ得ル能ハサルナリ蓋シ緊急命令ヲ發シタルノ當時實
 ニ其ノ必要アリタルトキハ仮リニ當時議會ヲ開會中ニ際シ政府法律案ヲ提
 出シタリトスルモ議會必ス之ニ協賛シタルナルヘシ既ニ一タヒ法律ヲ發ス
 ルトキハ法律ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ廢止スヘカラサルコト辨テ待タス
 故ニ緊急命令ノ場合ニ於テモ議會ガ一タヒ其ノ發布ノ當時實際ニ必要アリ
 タルコトヲ認ムルトキハ先ツ緊急命令ニ對シテ其ノ承諾ヲ與ヘ若シ事情ノ
 變更シタルカ爲將來ニ之ヲ存續スルノ必要ナシト思惟スルトキハ別ニ法律
 案ヲ提出シテ其ノ廢止ヲ發議スルヲ當然トス
 緊急命令ヲ發スルコトヲ憲法ニ於テ認メサル時即チ英國ニ於ケルカ如ク違法

命令ナルトキハ一木學士ノ說適當ナルヘキモ之ヲ合法命令トナセル我國ニ於
 テハ學士ノ說不當ナリ議會ハ決シテ緊急命令發布ノ當時ニ其ノ果シテ緊急ノ
 必要アリシヤ否ヲ審査スルノ權ヲ有セス又議會ノ承諾ハ政府ノ責任ヲ解除ス
 ルモノニアラス何トナレハ緊急命令ハ權利ノ實行ナルカ故ニ政府ハ解除セラ
 ルヘキ責任ヲ有セサレハナリ若シ夫レ其ノ將來ニ存續スルノ必要ナキニ拘ハ
 ラス發布ノ當時必要ナリシ時ハ承諾ヲ與フヘシト云フニ至テハ我憲法法理ヲ
 誤ルノ甚シキニ驚カサルヲ得ス

六三 法律案ニ對スル協賛ト勅令ニ對スル承諾トハ混同スヘカラス今其ノ

重モナル異点ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 一 協賛ハ法律案ニ對スルモノニシテ承諾ハ勅令ニ對スルモノナリ
- 二 故ニ協賛ノ場合ニ於テハ法律案ニ修正ヲ加ヘテ議決スルコトヲ得レト
 モ承諾ノ場合ハ之ト反ス
- 三 協賛ヲ要スヘキ議案ハ議會モ之ヲ提出スルコトヲ得レトモ承諾ヲ要ス

ヘキ議案ハ之ヲ反ス

六四 條文ニ此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシトアリ故ニ政府ハ緊急命令ヲ次ノ會期ニ於テ議會ニ提出セサルニカラス而シテ其ノ提出ノ目的ハ緊急命令ノ存廢ヲ議會ニ問ハシカ爲ナリ然ルニ世間多數ノ學者ハ緊急命令ヲ議會ニ提出スルハ將來ニ有効ナルヘキノ議決即チ承諾ヲ求メンカ爲ナリト解セリ然レトモ余ハ之ニ同意スルコト能ハス何トナレハ政府ニ於テ緊急命令ヲ將來ニ無効ナラシメシコトヲ欲スル場合ニ於テモ尙ホ之ヲ議會ニ提出セサルヘカヲサレハナリ蓋シ緊急命令ハ後段ニ述フルカ如ク普通ノ命令ヲ以テ廢止スルコト能ハサルカ故ニ之ヲ廢止センニハ或ル場合ノ外議會ノ同意ヲ得ルヲ要ス從テ議會ニ提出スルハ將來ニ無効ナルノ議決ヲ求メンカ爲ナルコトアルナリ然レトモ政府ノ意向ハ法理ノ關スル所ニアラス將來ニ有効ナラシムコトヲ欲スルモ將タ無効ナラシムコトヲ欲スルモ之レ只政府ノ希望ニ止マルモノニシテ法理ハ之カ爲ニ左右セラルハコトナシ法理上ヨリスレハ勅令提出ノ

目的ハ承諾ヲ求ムルカ爲ニアラス又不承諾ヲ求ムルカ爲ニアラス承諾不承諾ノ兩様中孰レカノ議決ヲ得シカ爲メ即チ緊急命令ノ存廢ヲ問ハシカ爲ナリトス

六五 議會ハ緊急命令ニ修正ヲ加ヘテ之ヲ承諾スルコトヲ得ルカ曰ク修正ヲ加ヘテ承諾スルコトヲ得ス何トナレハ議會ノ承諾ハ勅令ニ對スルノ承諾ニシテ勅令草案ニ對スルノ承諾ニアラサレハナリ故ニ議會ハ全ク之ヲ承諾スルカ全ク之ヲ承諾セサルカノ二途ノ外ニ出ツルコトヲ得サルモノトス

六六 緊急命令ニ對スル承諾及ヒ不承諾ハ兩院ノ議決ヲ要スヘキヤ否尙ホ云ハレ一院ニ於テ承諾シタルトキハ他院ニ送附スルノ必要ナキヤ否又一院ニ於テ承諾セサルトキハ他院ニ送附スルノ必要ナキヤ否即チ一院ノ承諾アレハ緊急命令ハ將來ニ向テ有効ナルヘキヤ又一院承諾セサルトキハ其ノ命令ハ將來ニ向テ効力ヲ失フヘキヤ如何之レ實ニ困難ナル問題ナリ但シ余ノ意見ハ左ノ如シ

概して之を以て

之を以て之を以て

之を以て之を以て

之を以て之を以て

之を以て之を以て

之を以て之を以て

一院ニ於テ承諾シタルトキハ將來ニ向テ効力ヲ有ス故ニ他院ニ送附スルノ要ナシ何トナレハ他院之ニ承諾ヲ與ヘサルモ勅令ノ効力ニ何ノ關係ナケレハナリ

一院ニ於テ承諾セサルトキハ之ヲ他院ニ送附セサルヘカラス何トナレハ一院ノ不承諾ノミチ以テハ之ヲ無効トスルコト能ハサレハナリ

要スルニ將來ニ効力ヲ有セシムルノ議決ハ一院ニテ足ルヘク之ト反對ナル場合ハ兩院同一ニ無効ノ旨ヲ議決スルコトヲ要ス

緊急命令ハ第三者ニ對シテ効力ヲ有セサルモノ即チ法律ノ草案ニアラスシテ既ニ一ノ有効ナル命令トナリタルモノナレハ議會ニ於テ之ヲ廢止セントニハ兩院同一ニ廢止ノ旨即チ將來ニ向テ有効ナラシメサル旨ヲ議決セサルヘカラスシテ一院ノ議決ノミニテ之ヲ無効トナスコトヲ得ス故ニ一院ニ於テ廢止スヘシト議決シタルトキハ之ヲ他院ニ送附シテ同意ヲ求メサルヘカテサレトモ廢止スヘカラスト議決シタル時即チ將來ニ向テ効力ヲ存續セシムヘキ旨ヲ議

之を以て之を以て

之を以て之を以て

決シタルトキハ他院ニ送附スルノ要ナシ他院之ヲ廢止スヘシト議決スルモ一院ノ否決ヲ以テ之ヲ廢スルコト能ハサレハナリ之レ實ニ明々白々ノ法理ナリ

又條文ニ依ルモ議會ニ於テ承諾セサルトキハ云々トアリ而シテ議會トハ眞ニ解説シタルカ如ク衆議院ヲ云フニアラス貴族院ヲ云フニアラスシテ貴衆兩院ヨリ成立シタル帝國議會ト云ヘル一體ヲ云フモノナレハ議會ノ不承諾トハ兩院ノ不承諾ノコトニシテ一院之ヲ承諾セサルモ他院之ヲ承諾シタルトキハ以テ議會ノ承諾又ハ不承諾ト云フコトヲ得サルニテモ明カナラン若シ夫レ余ト反對ノ説ヲ取ラントスルモノアテハ先ツ帝國議會トハ貴衆兩院ヨリ成立スル一體ヲ指スモノニアラスシテ貴族院又ハ衆議院ノ一院ノミチ指スモノト解セ

ル上ナラテハ叶ハヌナリ

人或ハ云ハシ條文ニ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ云々トアル其ノ所謂議會ヲ解シテ貴族院又ハ衆議院ノ一院ヲ云フニアラスシテ貴衆兩院ヨリ成立スル帝國議會ヲ指スモノナルカ故ニ不承諾ハ必ス兩院ノ決議ヲ要スルモノトナサ

ハ條文ニ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシトアル其ノ所謂帝國議會モ亦
 貴衆兩院ヲ指スモノト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ政府ハ緊急命令ヲ同時
 ニ貴衆兩院ニ提出スヘク爲ニ一院ニミ提出シタルトキハ違憲ノ所爲ナリト
 云ハサルヘカラス加之同時ニ兩院ニ提出スルトキハ緊急命令ニ對スル議會ノ
 議決ハ承諾不承諾ノニアルノミニシテ修正シテ承諾スルコト能ハサルモノナ
 ルカ故ニ一院ニ於テ承諾又ハ不承諾ヲ議決シタルトキハ之ヲ他院ニ送附スヘ
 キヤト云フカ如キ問題ヲ生スノル理ナシト余ノ說ニ從ヘハ之レ必ス起ルヘキ
 疑問ナリ然レトモ之ヲ解スルコト難カラス即チ下ニ述フル所ノ如シ條文ニ若
 議會ニ於テ云々トアル其ノ所謂議會モ亦帝國議會ニ提出スヘシトアル其ノ所
 謂議會モ均シク貴衆兩院ヨリ成立スル一体ヲ指スモノニシテ決シテ一院ヲ指
 スモノニアラサルコト或者ノ詰問スル所ノ如シ第三十三條ニ曰ク帝國議會ハ
 貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立スト又憲法ノ用語ヲ案スルニ貴族院又ハ衆院
 院ノ一院ヲ指ストキハ單ニ貴族院又ハ衆議院ト云ヒ第七條第三十四條第三十五條ノ如キ然リ貴衆兩院

一院ヲ指スモノト云ハサルヘカラス
 二院ヲ指スモノト云ハサルヘカラス
 三院ヲ指スモノト云ハサルヘカラス
 四院ヲ指スモノト云ハサルヘカラス
 五院ヲ指スモノト云ハサルヘカラス

ヲ指ストキ即チ貴族院及ヒ衆議院ト云フヘキ場合ニハ之レヲ貴衆兩院ト云ヒ
 第三十八條第卅議會ト稱スル一体ヲ指ストキハ之レヲ議會又ハ帝國議會ト云フ
 第九條ノ如キ然リ然リ但シ單ニ議會ト云ヒ而シテ一モ之カ例外ナク用語嚴然ト
 第五條第三十三條ノ如キ然リ但シ單ニ議會ト云ヒ而シテ一モ之カ例外ナク用語嚴然ト
 帝國議會ト云ハサルハ本條第二項ノ一アルノミニシテ一モ之カ例外ナク用語嚴然ト
 シテ亂ルコトナシ而モ條文議會ニ於テ承諾セサルトキハ一何チ一院ニ於
 テ承諾セサルトキハト解スルカ如キハ甚シキ妄論ト云ハサルヘカラス然レト
 モ或者ノ如ク帝國議會ヲ解シテ貴衆兩院ヨリ成立スル一体ヲ指スモノトスル
 以上ハ政府ハ緊急命令ヲ同時ニ貴衆兩院ニ提出スヘク從テ一院ニミ提出ス
 ルハ違憲ナリト論決セサルヘカラスト云フハ皮想ノ見ナリ同時ニ兩院ニ提出
 スルコトヲ得ヘキハ當然ナルモ一院ニノミ提出スル敢テ違憲ニアラス何トナ
 レハ一院ハ是レ帝國議會ニ入ルノ門ナレハナリ又貴衆兩院ニ提出スルトキハ
 一院ヨリ他院ニ送付スヘヤ否ヤノ問題ヲ生スルコトナシト云フモ等シク皮想
 ノ見ナリ何トナレハ一院ニ於テ何等ノ議決ヲサハル前他ノ一院ニ於テ不承
 諾ノ議決ヲ與ヘタルトキハ當然他院ニ送付セサルヘカラスレハナリ

又或ハ云ハシ政府カ緊急命令ヲ帝國議會ニ提出スルハ承諾ヲ求ムルカ爲ナル
 カ故ニ議會ニ於テ之ヲ承諾シタルトキハ他院ニ送付スヘク承諾セサルトキハ
 他院ニ送付スルノ要ナシト余カ見ハ之ト反ス條文單ニ帝國議會ニ提出スヘシ
 ト云フモ提出シテ承諾ヲ求ムヘシト云ハス其ノ承諾ヲ求ムル場合ハ明カニ承
 諾ヲ求ムヘキ旨ヲ示スコト第六十四條及第七十條ニ依テ明カナリ此ノ兩條ハ
 財政上一時ノ處分ニシテ之ヲ將來ニ有効トシ據テ以テ再ヒ發生スルコトアル
 ベキ同一事實ヲ處分セントスルモノニアラサルカ故ニ既ニナシタル處分ニ對
 シ承諾ヲ求ムルヲ以テ充分ナリ之レ其ノ承諾ヲ求ムヘキコトヲ明示シタル所
 以ナリ之ト反シテ本條ハ將來ニ効力ヲ有セシムヘキヤ否ヤノ議決ヲ求ムルモ
 ノニシテ緊急命令ヲ發シタル所爲自身ニ對シテ承諾ヲ求ムルモノニアラス之
 レ條文承諾ヲ求ムヘシト云ハサル所以ナリ若シ之ト反シテ命令ヲ發シタル所
 爲自身ニ對シテ承諾ヲ求ムルモノトセメカ議會ニ命令發布ノ當時ニ於テ緊急
 ノ必要アリシヤ否ヤヲ判スルノ權アルモノ即チ其ノ當時ニ於ケル必要不必要

ヲ鑑査シテ諾否如何ヲ決スルノ權アルモノトナサザルヘカラス從テ議會ニ於
 テ事實必要アリシコトヲ認メタルトキハ將來ニ向テ効力ヲ有セシムルノ必要
 ナシトスル場合ニ於テモ承諾即チ將來ニ有効ナルヘキノ議決ヲナスヘシトノ
 不當ノ論決ヲ生セサルヲ得ス又其ノ當時ニ於テ事實必要ナシト認メタルトキ
 ハ將來ニ向テ効力ヲ有セシムルノ必要アリトスル場合ニ於テモ不承諾即チ將
 來ニ無効ナラシムヘキノ議決ヲナスヘシトノ不當ノ論決ヲ生セサルヲ得ス又
 命令ヲ發シタル所爲自身ニ對シテ承諾ヲ求ムルニアラスシテ將來ニ向テ有効
 ナルヘキノコトニ對シテ承諾ヲ求ムルモノトセシカ政府ニ於テ將來ニ無効ナル
 ヘキノコトヲ欲スル場合ニ於テモ有効ナルヘキノ議決ヲ求ムヘシトスル不當ノ
 論決ヲ生セサルヲ得ス要スルニ何レノ点ヨリスルモ政府カ緊急命令ヲ議會ニ
 提出スルハ承諾ヲ求ムルカ爲ニアラサルコト明カナリ從テ議會之ヲ承諾シタ
 ル場合ニ他院ニ送付スヘク承諾セサルトキハ送付スルノ要ナシトスルハ不當
 ナリ

又或ハ云ハソ一院ニ於テ承諾シタルトキハ何故ニ他院ニ送付スルヲ要セザル
 カ他院之ヲ承諾セザルトキハ以テ議會ノ承諾トナスコト能ハサルニアラスヤ
 而モ將來ニ向テ有効ナル所以如何ト之ニ答フルコト又難キニアラス今一院承
 諾シテ一院承諾セザルトキハ議會ノ意思ハ何レニ在リトスヘキカ不承諾トナ
 サンカ一院承諾シタルヲ如何セン承諾トナサンカ一院承諾セザルヲ如何セン
 然ラハ承諾ト不承諾ト二様ノ意思アルモノトナサンカ一ノ議會ニシテ二様ノ
 異ナリタル意思ヲ有スルモノトスルコト能ハサルヲ如何セン然ラハ承諾ヲ與
 ヘサル限リハ不承諾ナリトセンカ承諾ヲ與ヘサル限リハ不承諾ナリトイフコ
 トヲ得ヘクソソハ不承諾ヲ與ヘサル限リハ承諾ナリト云フコトヲ得ヘキヲ如何
 セン故ニ此ノ場合ニ於テハ議會ハ何等ノ議決ヲ與ヘサルモノトスルノ外ナシ
 即チ議會ハ緊急命令ノ將來ニ對スル存廢如何ニ付テハ何等ノ意思ヲ發表セザ
 レハナリ故ニ一院ニ於テ承諾シタルトキハ仮令他院之ヲ承諾セザルモ本條第
 二項ノ所謂承諾セザル場合ナリトスルコト能ハス從テ政府ハ將來ニ効力ヲ失

ハシムルノ義務ナシ効力ヲ失ハストセンカ既ニ有シツアル効力ヲ將來ニ保
 持スルハ當然ナリト云フヘシ但シ法理ハ一院承諾シテ一院承諾セザルトキハ
 之ヲ無効トシ兩院共ニ承諾シタルトキニ於テノミ有効トスルコト猶ホ新ニ法
 律ヲ制定スルトキノ如クスルヲ以テ其ノ當チ得タルモノトス只條文斯ノ如ク
 解スルコト能ハサルノミ

六七 次會期ノ議會開會前緊急命令ヲ廢止スルノ必要アルトキハ君主ハ之
 ヲ廢スルコトヲ得ヘキヤ余ヲ以テスレハ或ル場合ニ於テハ當然之ヲ廢スルコ
 トヲ得ヘシ然ラハ君主ハ如何ナル命令ヲ以テ之ヲ廢スヘキカ行政命令ヲ以テ
 センカ行政命令ハ法律ニ代ルノ力ナキモノナリ故ニ法律ニ代ルノ効力アル緊
 急命令ヲ廢止スルコト能ハス然ラハ政府命令ヲ以テ之ヲ廢止センカ政府命令
 ハ法律ト相對シテ効力ヲ有シ行政命令ノ上ニ位スルモノナレトモ法律ノ規定
 事項ヲ左右スルコトヲ得ス從テ法律ニ代ルノ命令ヲ廢止スルノ力ナシ且ツ政
 府命令ヲ規定シタル第十條以下ニ緊急命令ヲ廢止スルヲ得ルノ規定ナシ故ニ

緊急命令ハ政府命令ヲ以テモ之ヲ廢止スルコトヲ得ス然ラハ如何ナル命令ヲ以テ之ヲ廢スヘキカ曰ク緊急命令ヲ以テ之ヲ廢止スルノ外ナシ即チ緊急命令ハ緊急命令ヲ以テスルニアラサレハ之ヲ廢止スルコトヲ得ス故ニ緊急命令ヲ廢止スルカ爲ニ發スル緊急命令モ亦本條第一項ノ條件ヲ具備スルコトヲ要スルハ當然ナリ即チ緊急命令ヲ發シタルカ爲ニ公共ノ安全ヲ保持スルコトヲ得テ最早此ノ命令ヲ存在セシムルノ必要ナキノミナラス之アルカ爲ニ却テ公共ノ安全ヲ害スルカ如キコトアル場合又ハ緊急命令ヲ發シタルモ其ノ目的ヲ遂クルコト能ハスシテ之アルカ爲ニ公共ノ安全ヲ害スルカ如キコトアル場合ハ新ニ緊急命令ヲ發シテ前ノ緊急命令ヲ廢スルコトヲ得ベシ而シテ此ノ場合ニ於テハ此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシトアル條文ニ從ヒ後ニ發シタル緊急命令ヲ議會ニ提出スヘキモノトス

六八 緊急命令ハ其ノ効力ヲ保有スヘキ期限ヲ定メテ又ハ解除條件又ハ停止條件ヲ付シテ之ヲ發スルコトヲ得ルカ若シ發スルコトヲ得ヘシトナサハ次

議開會前ニ自ラ其ノ効力ヲ保有スヘキ期限ヲ定メタル場合ニ於テハ其ノ期限ノ到達シタルカ爲メ解除條件ヲ付シタル場合ニ於テハ其ノ條件ノ發生シタルカ爲メ又停止條件ヲ付シタル場合ニ於テハ其ノ條件タル事實ノ發生セサルカ爲メ廢止ニ歸シタルトキハ其ノ緊急命令ハ議會ニ提出スルノ要ナキカ將タ尙ホ議會ニ提出スヘキカ之レ大ニ講究ヲ要スル難問ナリ

先ツ次ノ議會開會前ニ到達スヘキ期限ヲ定メテ又ハ未必條件ヲ付シテ緊急命令ヲ發スルコトヲ得ヘキヤ否ヤノ問題ヲ研究セシニ命令ヲ次ノ議會ニ提出スルハ之ヲ發シタル所爲自身ニ就テ承諾ヲ求ムルカ爲即チ責任ノ解除ヲ求ムルカ爲ナリトスルトキハ命令ノ存廢如何ニ拘ラス次ノ議會ニ提出スヘク從テ本問ノ如キ命令ヲ發スルコトヲ得ヘキハ當然ナルモ議會ニ提出スルハ承諾ヲ求ムルカ爲ニアラスシテ將來ニ於ケル存廢如何ヲ問ハンカ爲ナリトスルトキハ既ニ廢止ニ歸シタルモノヲ提出スルノ要ナク從テ本問ノ如キ命令ヲ發スルコトヲ得サルカ如シ何トナレハ緊急命令ハ必ス次ノ會期ニ於テ議會ニ提出スヘ

キモノナルニモカ、ハラス次ノ議會ノ開會前ニ消滅ニ歸シタルトキハ之ヲ提出スルコト能ハサルニ至レハナリ然ラハ議會ノ開會前ニ消滅ニ歸スルカ如キ命令ハ之ヲ發スルコト能ハサルカ本條第一項ニ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ストアリテ何等ノ制限ナシ從テ斯ノ如キ命令ト雖モ之ヲ發スルコト能ハサルノ理ナキカ如シ然ラハ如何ニ決スヘキカ之レ大ニ困難ナル所ナリ

又前陳ノ如キ命令ヲ發スルコトヲ得ヘシトナサバ既ニ廢止ニ歸シタルモノヲ議會ニ提出スヘキヤ否若シ承諾ヲ求ムルカ爲ニ提出スヘキモノトナサバ此ノ場合ニ於テモ何等ノ疑ナシト雖モ其ノ存廢如何ヲ問ハシカ爲ニ提出スヘキモノトスルトキハ存廢如何ヲ問フヘキ目的物タル命令既ニ消滅シタルカ故ニ之ヲ提出スルコト能ハサルカ如シ果シテ能ハストセンカ條文此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシトアルヲ如何セン然ラハ如何ニ決スヘキカ之レ大ニ困難ナル所ナリ

承諾ヲ求ムルカ爲ニ議會ニ提出スルモノトナサバ命令ノ存廢如何ニ拘ラス議

會ニ提出スヘク爲ニ本問ニ對シテ何等ノ困難ヲ生セサルコト前陳ノ如シ然レトモ前再三述フルカ如ク余ハ決シテ承諾ヲ求ムルカ爲ニ議會ニ提出スルモノト解スルコト能ハス既ニ廢止ニ歸シタル場合ニ於テハ議會ニ提出スルノ要ナシト云フ或ハ許スコトヲ得レトモ承諾ヲ求ムルカ爲ニ議會ニ提出スヘシト云フニ至テハ斷シテ之ニ同意スルコト能ハス其ノ然ル所以ハ前既ニ詳述シタル所ナレトモ左ニ少シク先ニ言ハサル所ノモノヲ言ハン

本問ノ場合ニ於テ承諾ヲ求ムルカ爲ニ議會ニ提出スヘク從テ提出前自ラ廢止ニ歸スヘキ命令ヲ發スル何ノ妨ケナシト云フ其ノ所謂承諾ハ責任ノ解除ヲ求ムルモノト解セサルヘカラス何トナレハ既ニ廢止ニ歸シタル命令ニ對シテ將來ニ有効ナラシムルカ爲ニ又ハ無効ナラシムルカ爲ニ承諾ヲ求ムルモノトナスコト能ハサレハナリ果シテ責任ノ解除ヲ求ムルカ爲ニ議會ニ提出スルモノトセンカ再言スレハ條文此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ云々トアルハ次ノ議會ニ提出シテ責任ノ解除ヲ求ムヘキコトヲ命シタルモノトセンカ天皇ハ神聖ニシ

ヲ侵スヘカラサルコト第三條ノ明示スル所ニシテ緊急命令ヲ發スルハ天皇ノ
 大權ニ屬スルコト本條ノ明示スル所ナリ而モ尙ホ緊急命令ハ君主之カ責ヲ負
 フテ發スヘク從テ次ノ議會ニ提出シテ責任ノ解除ヲ求ムヘシト云フ之レ君主
 ノ大權ヲ侵スモノニアラスシテ何ソヤ第六十四條及ヒ第七十條ノ如キハ或ハ
 政府ノ責任ヲ解除スルカ爲ニ承諾ヲ求ムルモノトナスコトヲ得ヘシ本條ハ天
 皇大權ノ發動ヲ定メタルモノナルカ故ニ議會ニ提出スル決シテ天皇ノ責任ヲ
 解除スルモノトナスコト能ハス人或ハ云ハシ緊急命令ヲ發スルハ權利ノ實行
 ニシテ敢テ違法ニアラス然レトモ之ヲ實行セサルヘカラサル場合ニ於テ正當
 ニ實行シタルニアラサル以上ハ政府ハ其ノ責ヲ免カルヘコトヲ得ス故ニ之ヲ
 議會ニ提出シ己ムヲ得サル場合ニ於テ正當ニ實行シタルモノナリトノ議決ヲ
 求メ以テ政府ノ責任ヲ解除スルコトヲ要スト之レ或ハ政治上ノ責任論トナス
 コトヲ得シ憲法法理ニ取テハ一ノ戲言ノミ
 然ラハ本問ハ如何ニ決スヘキヤ本問ノ如キ命令ヲ發スルコトヲ得ヘク其ノ命

令ハ必ス議會ニ提出スヘシ但シ既ニ消滅シタル命令ヲ議會ニ提出スルハ提出
 スヘシトノ條文アルカ故ニシテ議會ニ於テ承諾不承諾ヲ議決スルモ何等ノ實
 用ナキモノト決定セシカ然レトモ既ニ消滅シタルモノニ對シテ將來ニ於ケル
 存廢ヲ議決セシムルコト能ハサルカ故ニ政府ハ法理上斯ノ如キ命令ヲ提出ス
 ルコト能ハス故ニ余ハ本問ニ對シテ左ノ如キ決定ヲ與ヘント欲ス

○ 本問ノ如キ命令ヲ發スルコトヲ得ヘシ但シ次期ノ議會開會前ニ自ラ消滅ニ
 歸シタルトキハ議會ニ提出スヘカラサルモノトス

本問ノ如キ命令ヲ發スルコトヲ得ル所以ハ條文ニ何等ノ制限ナキ故ニシテ
 次期ノ議會ニ提出スヘカラサル所以ハ既ニ消滅ニ歸シタルモノニ對シテ存廢
 ナ決スルノ理ナク又條文此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシト
 アルハ効力ヲ有シシアル命令ニ對スルノ語ニシテ既ニ消滅シタル命令マテ
 モ議會ニ提出セシムルノ意ニアラサルコト後文若シ議會ニ於テ承諾セサル
 キハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシトアルニ依テ明白ナ

六九 議會カ緊急命令ニ對シ承諾ヲ與フルヤ否ヤヲ議決セサル前ニ閉會シタルトキハ其ノ命令ノ効力如何議會ハ承諾ヲ與ヘサルモノナリ故ニ政府ハ將來ニ無効ナル旨ヲ公布セサルヘカラスト主張スルモノアレトモ余カ見ハ之ト反ス何トナレハ議決セスシテ閉會スルモ緊急命令ニ對シテ不承諾ヲ與ヘタルモノニアラサレハナリ然ラハ此ノ場合ニ於テハ再ヒ後ノ議會ニ提出スヘキヤト云フニコハ二箇ニ區別シテ答ヘサルヘカラス

一 議決スルコトヲ得ヘクシテ議決セサルトキハ次ノ議會ニ提出スルノ要ナシ何トナレハ之ヲ議決セサルハ任意ニ其ノ議決權ヲ拋棄シタルモノニシテ敢テ政府ノ關スル所ニアラサレハナリ

二 議決スルコト能ハサル場合例ヘハ會期ノ最終ノ日ニ提出シタルトキノ如キ又ハ解散ヲ命セラレタルトキノ如キ場合ニ於テハ政府ハ次ノ議會ニ之ヲ提出セサルヘカラス何トナレハ議會之ヲ議決セサルハ議決權ヲ拋棄シタルニアラ

スシテ政府ノ所爲之ヲ議決スルコト能ハサラシメタルモノナレハナリ

七〇 議會ハ何ノ理由ニヨリ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ヘキヤ曰ク緊急命令ニ對シ不承諾ヲ與フルト否トハ議會ノ自由ナリ故ニ之ヲ拒マントスレハ其ノ理由ノ如何ヲ問ハス之ヲ拒ムコトヲ得ヘシ但シ法理上ヨリスレハ左ノ二箇ノ場合ノ外之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

- 一 憲法ニ違背シタリトノ理由
- 二 將來ニ有効ナラシムルノ必要ナシトノ理由
- 七一** 緊急命令ニ對スル議會ノ不承諾アルトキハ其ノ効力ヲ失フ時機如何曰ク條文ニ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシトアリ故ニ緊急命令ノ効力ハ廢止ノ公布ト同時ニ之ヲ失フモノニシテ議會ノ不承諾アルカ爲ニ之ヲ失フモノニアラス
- 七二** 議會ニ於テ不承諾ヲ與ヘサルトキハ緊急命令ハ變シテ法律トナルヤ如何曰ク勅令ハ依然勅令トシテ効力ヲ有スルモノニシテ決シテ法律トナルモ

ニアラス何トナレハ條文議會ニ於テ承諾シタルトキハ法律トシテ効力ヲ有セシムヘシト云ハサレハナリ

三 緊急命令ノ爲ニ効力ヲ失ヒタル法律ハ緊急命令ノ廢止ト同時ニ其ノ効力ヲ回復スヘキヤ否議會ニ於テ承諾ノ議決ヲナサザルカ爲ニ將來ニ其ノ効力ヲ保有スル以後ニ他ノ緊急命令又ハ法律ヲ以テ之ヲ廢止シタル場合ニ於テハ此ノ命令ノ爲ニ効力ヲ失ヒタル法律ノ復活スルコトナキハ當然ナルモ議會ニ提出前緊急命令ヲ以テ前ノ緊急命令ヲ廢止シタルトキ又ハ議會ノ不承諾アルカ爲ニ將來ニ効力ヲ失フコトヲ公布シタルトキハ如何之レ大ニ研究ノ價値アル問題ナリ

議會ニ於テ承諾セザルトキハ緊急命令ノ爲ニ改廢セラレタル法律ハ凡テ舊ニ復スヘシトハ普通ノ說ナレトモ余カ見ハ之ト反ス但シ法理上ヨリスレハ緊急命令ハ非常ノ事變ニ際シ之ヲ救済スルコトヲ得ハ即チ其ノ目的ヲ達スルモノニシテ議會ノ議決前ニ法律ノ改廢ヲ確定セシムルノ要ナキハ當然ナルモ然レ

トモコハ立法論ニシテ條文決シテ斯ノ如ク解スルコト能ハス
先ツ緊急命令ハ法律ノ効力ヲ停止スルノミニアラスシテ之ヲ改廢スルノ力アルヤ否ヤヲ見シ前ニモ詳論シタルカ如ク緊急命令ハ法律ニ代ルノ力アル命令ナルカ故ニ法律ノナスコトヲ得ヘキノコトニシテ緊急命令ノナスコトヲ得サルノコトナシ條文法律ニ代ルヘキ勅令ノ一句ヲ解シテ法律ノ効力ヲ停止スル場合ニ於テノミ法律ニ代ルモノトナスコト能ハス故ニ法律ヲ以テ法律ヲ改廢スルコトヲ得ルト同シク緊急命令ヲ以テ法律ヲ改廢スルコトヲ得ルモノトス但シ政治論トシテハ之ヲ廢止スルノ必要ナキニヨリ廢止スヘキ場合ニ於テ停止スヘキコト當然ナルカ如シト雖モ然レトモ施政上廢止スルノ必要ナシトテ理由ヲ以テ本條ヲ解スルコト能ハス
前陳ノ如ク緊急命令ヲ以テ法律ヲ改廢スルコトヲ得ルモノトセシカ其ノ改廢ニ擬定ノモノナルヤ將テ確定ノモノナルヤ如何凡テ法律ノ解釋ハ其ノ正文ニ依ルヘク單ニ法理上然ラサルヲ得ストテ理由ヲ以テ若クハ政治家ノ常ニ口ニ

スル所ノ法律ハ死物ヲラシメスシテ活物ヲラシメサルヘカラスト云フカ如キ理由ヲ以テ正文ニ違背スルノ解釋ヲナスコトヲ許サザルカ故ニ本條ノ正文ニ依テ本問ヲ決センニ寸毫ノ疑モナク改廢ヲ確定スルノ効力アルモノトス條文法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ストハ法律ノ効力ニ代ルヘキ勅令ヲ發スルノ意ナルカ故ニ緊急命令ヲ以テ法律ヲ改廢スルハ法律ヲ以テ法律ヲ改廢スルト同様ノ効力結果ヲ生スルモノトス蓋シ他ノ事項ニ就テハ法律ヲ以テ處分シタルト同一ノ結果ヲ生スルモ獨リ法律ヲ改廢スル場合ニハ法律ヲ以テ改廢スルト同一ナル所ナレハナリ

一 上陳ノ如ク緊急命令ヲ以テ法律ヲ改廢スルコトヲ得ヘク而シテ其ノ改廢ハ確定ノ効力ヲ有スルモノトナストキハ緊急命令ノ改廢ハ前法律ノ復活ヲ來スコトナキカ如シ何トナレハ條文將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシトアルカ故ニ緊急命令ノ効力ハ既往ニ遡テ之ヲ失フモノニアラサレハナリ然レ

トモ余カ見ハ之ト反ス以下停止變更廢止ノ三箇ニ區別シテ之ヲ詳論スヘシ
 一 緊急命令ヲ以テ法律ノ全部又ハ一部ヲ停止シタル場合ニ於テ議會不承諾ノ議決ヲナシタルカ爲メ其ノ緊急命令ヲ廢止シタルトキハ法律ハ之ト同時ニ其ノ効力ヲ回復スルモノトス之レ何人モ異論ナキ所ナルヘシ何トナレハ緊急命令ハ法律ヲ廢止シタルニアラスシテ停止シタルモノナルカ故ニ其ノ停止ノ命令廢止セラレタルトキハ法律ハ自ラ再ヒ効力ヲ有スヘキヤ當然ナレハナリ然レトモ其ノ緊急命令ヲ議會不承諾アルカ故ニ廢止セスシテ議會ニ提出前他ノ緊急命令ヲ以テ廢止シタル場合ニ於テ後ノ命令ヲ議會ニ提出シ不承諾ノ議決ヲ得タルカ爲ニ其ノ命令ヲ廢止シタルトキハ法律ノ効力如何余ヲ以テスレハ此ノ場合ニ於テハ法律ヲ停止シタル所ノ緊急命令ヲ廢止セザルト同シク法律ハ永久其ノ効力ヲ停止セラルヘモノトス蓋シ法律ヲ停止シタル所ノ緊急命令ヲ後ノ命令ヲ以テ廢止シタルトキハ之ト同時ニ法律ハ自ラ復活スヘシ然ルニ法律ヲ復活セシメタル所ノ命令ヲ更ニ廢止シタリトセンカ法律ノ効力ヲ復活

セシメシカ爲ニ廢止シタルモノトスルコト能ハサルカ故ニ一旦復活シタル所
ノ法律ヲ再ヒ停止セシカ爲ニ後ノ命令ヲ廢止シタルモノトナサザルヘカラス
之レ余カ前ノ如キ論決ヲ與ヘタル所以ナリ

法律ヲ變更シタル場合ニ於テ議會ノ不承諾アルカ爲其ノ緊急命令ヲ廢止シタ
ルトキハ法律ノ効力如何此ノ場合ニ於テハ緊急命令ノ効力ヲ將來ニ失スルノ
ミニシテ變更セラレタル法律ノ以前ニ回復スルコトナキモノトス何トナレハ
緊急命令ハ法律ノ變更ヲ確定スルノ効力アルモノナレハナリ然ラハ法律ヲ變
更シタル所ノ緊急命令ヲ議會ニ提出前他ノ緊急命令ヲ以テ之ヲ廢止シ後ノ命
令ヲ議會ニ提出シ不承諾ノ議決ヲ得タルカ爲メ之ヲ廢止シタルトキハ法律ノ
効力如何此ノ場合ニ於テハ法律ヲ變更シタル所ノ緊急命令復活スルモノトス
何トナレハ後ノ命令ノ廢止ハ法律ノ規定モ變更シタル命令ノ規定モ共ニ之ヲ
廢止スルカ爲ナリトスルコト能ハサルカ故ニ前ノ命令ヲ復活セシメシカ爲ニ
後ノ命令ヲ廢止シタルモノトナサザルヘカラスレハナリ

法律ヲ廢止シタル場合ニ於テ議會ノ不承諾アルカ爲其ノ緊急命令ヲ廢止シタ
ルトキハ法律ノ効力如何此ノ場合ニ於テハ法律ハ再ヒ其ノ効力ヲ有スルモノ
トス何トナレハ廢止ノ確定シタルモノニ對シ再ヒ之ヲ廢止スルノ理ナキカ故
ニ法律ヲ復活セシムルカ爲ニ其ノ命令ヲ廢止シタルモノト解セサルヘカラス
レハナリ今試ミニ議會ノ協賛ヲ經テ廢娼法ヲ定メ又議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ廢
止シ三タヒ協賛ヲ經テ之ヲ廢止シタル法律ヲ廢止シタリトセンカ無効ニ解ス
ルヨリモ有効ニ解スヘシトノ解釋法ヲ知ルモノハ最後ノ法律ハ廢娼法ヲ廢止
シタル法律ヲ取消シテ廢娼法ヲ復活セシメタルモノトノ論決ヲ與フルニ躊躇
セサルヘシ本問ノ場合亦之レト其ノ法理ヲ同フス然ラハ本問ノ場合ニ於テ法
律ヲ廢止シタル緊急命令ヲ議會ニ提出前他ノ緊急命令ヲ以テ之ヲ廢止シ後ノ
命令ヲ議會ニ提出シ不承諾ノ議決ヲ得タルカ爲之ヲ廢止シタルトキハ如何此
ノ場合ニ於テハ法律ハ當然廢止セラレタルモノニシテ再ヒ効力ヲ生スルコト
ナキモノトス

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

七四 本條ハ行政命令權ノ區域ト効力トヲ定メタルモノナリ

七五 法律ヲ以テ社會事物ノ活動ヲ凡テ網羅スルコト能ハス何トナレハ立法ノ機關ハ遲緩ニシテ一々社會ノ活動ニ應スルコト能ハサレハナリ故ニ法律ハ恒久ノ狀態ヲ規定スルニ適スルモ一時ノ必要ニ應スルニ適セス又國家大局ノ利害ニ關スルノ事項ヲ定メテ普通ノ準繩ヲ示スニ適スルモ銷末ノ事項ヲ規定スルニ適セス之レ則チ行政命令ノ必要ナル所以ニシテ又憲法ノ認ムル所ナル所以ナリ而シテ行政命令ヲ分テ二トス執行命令及ヒ補充命令是レナリ

七六 條文天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシムトアルハ即チ執行命令ナリ

執行命令ハ法律ヲ執行スル爲ノミニ發スルモノナルカ故ニ執行命令ノ區域ハ一般ノ法律カ定メタルモノニアラスシテ或ル特定ノ法律ニ制限セラルモノナリコトヲ以テ或ル特定ノ法律ナキトキハ執行命令ノ存在スル理ナキモノトス而シテ執行命令ハ權利義務ヲ創造スルモノニアラスシテ既ニ法律ヲ以テ定メタル法律上ノ關係ヲ適用スルニ止マルモノナリ其ノ執行命令ノ必要ナル所以ハ法律ハ以テ其ノ大則ヲ定ムヘキモノ一々之カ細則ヲ定ムルコト能ハサルニアリ

七七 條文天皇ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシムトアルハ即チ補充命令ナリ
補充命令ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スルノ目的ヲ以テ法律ノ斷缺ヲ補フカ爲ニ發スルモノナリ而シテ如何ナル場合カ即チ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ又ハ臣民ノ幸福ヲ増進スルカ爲ニ命令ヲ發スルノ必要ナル場合ナルヤハ發令者ノ判定スヘキ所ニシテ他者ノ關スル所ニアラス故ニ事實命令

ヲ發スルノ必要ナキ場合ニ於テ之ヲ發シタルトキト雖モ違憲ノ命令トナスコトヲ得ス

七九 補充命令ト執行命令トノ差異ハ左ノ如シ

- 一、執行命令ハ或ル特定ノ法律ヲ執行スルヲ目的トスルモノニシテ補充命令ハ安寧秩序ノ保持及幸福増進ノ爲ニ法律ノ曠缺ヲ補フコトヲ以テ目的トスルモノナリ
- 二、執行命令ハ或ル特定ノ法律ノ爲ニ制限セラル、モ補充命令ハ一般ノ法律ニ制限セラル
- 三、或ル特定ノ法律消滅ニ歸シタルトキハ其ノ執行命令モ從テ消滅ス補充命令ハ法律ハ只其ノ限界タルノミニシテ原因タルニアラサルカ故ニ法律消滅スルモ爲ニ効力ヲ失フコトナシ

八〇 條文ニ天皇ハ云々命令ヲ發シ又ハ發セシムトアリ故ニ發令權ハ君主ニ屬スルモノニシテ君主之ヲ發スルコトアリ又君主カ他ニ委任シテ之ヲ發セシムルコトアリ君主之ヲ發スルトキハ勅令ト云ヒ之ヲ發セシムルトキハ其ノ委任ヲ受ケタルモノ、區別ニ從ヒ或ハ閣令ト云ヒ或ハ省令ト云ヒ府縣令ト云フ

八一 如何ナル事項ハ命令ヲ以テ定ムルコトヲ得ヘク如何ナル事項ハ命令ヲ以テ定ムルコトヲ得サルヤ即チ法律ト命令トノ分界如何曰ク命令權ノ制限ニ二アリ第一ハ命令ハ法律ヲ變更スルコトヲ得ス第二ハ法律ヲ以テノミ制定シ得ヘキ事項ニ侵シ入ルコトヲ得ス此ノ二個ノ制限外ハ法律ヲ以テ定ムルモ命令ヲ以テ定ムルモ妨ケサル法律ト命令トノ共有田地ナリ法律モ之ヲ耕スコトヲ得ヘク命令モ之ヲ耘ルコトヲ得ヘシ故ニ憲法ノ特定シタル事項ノ外ニ於テ法律ノ先占セサル區域内ニ在テハ命令ハ如何ナル事項ヲモ規定スルコトヲ得ルモノトス

八二 條文ニ但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ストアリ故ニ命令權ハ法律ノ爲ニ制限セラル、モノニシテ法律ヲ變更シ得ルノ力ナシ從テ法律ト

命令ト牴觸スルトキハ法律ハ常ニ命令ノ上ニアルモノトス

八三 行政命令モ緊急命令モ共ニ君主ノ大權ニ屬スルモノナレトモ二者決

シテ相同シキモノニアラス其ノ重モナル異点ヲ擧レハ左ノ如シ

一、行政命令ハ幸福ヲ増進スル爲ニモ之ヲ發スルコトヲ得レトモ緊急命令ハ

斯ノ如キ積極ノ目的ヲ以テ發スルコトヲ得ス

二、緊急命令ハ緊急ノ必要アルトキノ外之ヲ發スルコトヲ得サルモ行政命令

ハ只必要アレハ足ルヘク敢テ其ノ必要ノ緊急ナルコトヲ要セス

三、緊急命令ハ他ニ委任シテ發セシムルコトヲ得サルモ行政命令ハ之ト反ス

四、緊急命令ハ議會閉會ノ場合ニアラサレハ之ヲ發スルコトヲ得サルモ行政

命令ハ之ト反ス

五、緊急命令ヲ發シタルトキハ次期ノ議會ニ提出スルコトヲ要スルモ行政命

令ハ之ト反ス

六、緊急命令ハ非常ノ場合ニ發スルモノニシテ行政命令ハ普通ノ場合ニ發ス

ルモノナリ

七、緊急命令ハ法律ニ代ルノ効力ヲ有スルモノナルカ故ニ憲法ニ於テ法律ヲ

以テスヘキコトヲ特定シタル事項ト雖モ緊急命令ヲ以テ之ヲ規定スルコ

トヲ得ヘク又法律ヲ停止シ若クハ改廢スルコトヲ得ヘシ行政命令ハ之ト

反ス

右ノ如ク二者各異ナル方向ニ活動スルモノナルカ故ニ緊急命令ヲ以テ行政命

令ヲ以テ規定スヘキ事項ヲ規定スルコト能ハス又行政命令ヲ以テ緊急命令ヲ

以テ規定スヘキ事項ヲ規定スルコト能ハサルモノトス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武

官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモ

ノハ各々其ノ條項ニ依ル

八三 本條以下ハ政府事項ヲ定メタルモノニシテ本條ハ官制俸給及任免ノ

コトヲ規定ス

此四行政各部トハ廣ク官府ヲ指スモノニシテ官制トハ政務ノ分配規則ヲ云フモノナリ而シテ官制ニ二个ノ要件アリ一ハ權限ニシテ一ハ組織ナリ權限ハ外部ニ對シテ行フ職務ノ區域ヲ定メ組織ハ内部ニ於テ職務執行ノ手續ヲ定ムルモノトス

行政各部ノ官制ハ天皇之ヲ定ムルモノニシテ立法ノ手續外ニアルモノトス又文武官ノ俸給モ天皇之ヲ定ムルモノニシテ議會ノ協贊ヲ要セス故ニ勅令ヲ以テ定メタル俸給即チ官制ノ費用ハ政府ノ同意ナクシテ議會之ヲ廢除削減スルコトヲ得サルモノトス又文武官ヲ任免スルモ天皇ノ特權ナリ故ニ議會モ之ニ容喙スルコトヲ得ス

行政各部ノ權限ヲ定ムルハ天皇ノ大權ニ屬スルモノ之ヲ以テ憲法又ハ他ノ法律ニ於テ定メタル官府ノ權限ヲ破ルコトヲ得ス又文武官ヲ任免スルハ天皇ノ大權ニ屬スレトモ憲法又ハ他ノ法律ニ於テ特例ヲ定メタルモノハ其特例ニ依ラ

州ルヘカラス例ヘハ裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ定ムヘク裁判官ハ法律ニ依リ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任スヘキカ如キ即チ然リ

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

此五 本條及次條ハ兵馬ノ大權ヲ確定シタルモノニシテ本條ハ陸海軍ハ天皇之ヲ統帥スルコトヲ規定ス蓋シ兵馬ノ大權君主ニアルハ君主國普通ノ制度ナリトス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

此六 編制トハ兵力ノ分配軍隊ノ組織等ヲ云フモノニシテ軍隊艦隊ノ編制及管區方面ヨリ兵器ノ備用給與軍人ノ教育檢閲紀律禮式服制衛戍城塞及海防守港出帥準備等ノ類凡テヲ包含スルモノトス又常備兵額ヲ定ムト云フトキハ毎年徵兵ノ員數ヲ定ムルコトヲモ包含スルモノトス

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

外交上ノコトハ專ラ機密ヲ尊ヒ迅速ヲ要スルカ故ニ之ヲ多數ノ集合
体ニ委スルコトヲ得ス又條約ハ國家間ノ公約ナルカ故ニ主權者ニアラサレハ
之ヲ締結スルコトヲ得ス之レ本條ノ規定アル所以ナリ

②

條文戰ヲ宣シトハ外國トノ交戰ヲ宣告スルヲ云ヒ和ヲ講シトハ和親ヲ講盟ス
ルヲ云ヒ諸般ノ條約ヲ締結ストハ和親貿易及聯盟等ノ條約ヲ締結スルヲ云フ

凡

宣戰講和及條約締結ノ權ハ君主ニ屬スルモノニシテ立法ノ手續ヲ以

テ侵スコトヲ得サルモノトス然レトモ條文ニ所謂諸般ノ條約ヲ締結ストハ外
國ト條約ヲ締結スルハ君主ニシテ君主以外ノ者ニ條約締結權ナキ旨ヲ明カニ
シタルモノニシテ君主ハ條約ヲ以テスルトキハ如何ナル事項ト雖モ之ヲ締結
シ得ヘシトノ意ニアラス再言スレハ本條ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ
締結スルハ君主ノ特權ナルコトヲ定メタルモノニシテ條約締結ノ事項ニ就キ
君主ニ無限ノ權力アルコトヲ認メタルモノニアラス故ニ君主ハ外國人ヲシテ
日本ノ皇位ニ即カシムヘシト云フカ如キ又ハ議會ノ協贊ヲ經スシテ法律ヲ改

廢スヘシト云フカ如キ條約ヲ締結スルコトヲ得ス但シ法律ヲ以テ一々日本ノ
境土ヲ明示セサル以上ハ君主ハ單意ヲ以テ我日本帝國ノ境土ヲ他國ニ割讓ス
ルノ條約ヲ締結スルコトヲ得ヘシ何トナレハ憲法中斯ノ如キ場合ニ議會ノ協
贊ヲ經ヘキコトヲ規定シタル箇條ナケレハナリ

凡

條約トハ君主カ臣民ニ對スル命令ヲ云フニアラスシテ國ト國トノ約

束ヲ云フモノナリ故ニ之ヲ履行スル責アル者ハ双方ノ締結者ナリ條約ハ條約
自身が臣民ヲ檢束スルノ効力ナシ何トナレハ臣民ハ法律命令ヲ遵守スルノ義
務アルモ法律命令ニアラサルモノニ向テ服從スルノ義務ナク而シテ條約ハ法
律命令ニアラサレハナリ故ニ條約ヲ以テ定メタル事項ヲ臣民ニ遵守セシメン
トスルニハ別ニ命令ヲ發セサルヘカラス然ラサレハ臣民ハ之ニ服從スルノ義
務ナキモノトス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

憲法 第一章 天皇

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

九〇 本條ハ戒嚴ヲ宣告スルハ天皇ノ大權ニ屬スルコト及ヒ戒嚴ヲ宣告スルノ時機區畫及其ノ効力等ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘキコトヲ規定シタルモノナリ而シテ戒嚴トハ外敵内變ノ場合ニ於テ常法ヲ停止シ司法及行政ノ一部又ハ全部ヲ擧ケテ之ヲ軍時處分ニ委ヌルヲ云フ

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

九一 君主ハ榮譽ノ淵源ナルヲ以テ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與スルハ凡テ君主ノ大權ニ屬スルモノトス但シ爵位勳章等ヲ授與スルハ功ヲ賞シ勞ニ酬ヒ及卓行善舉ヲ表彰スルカ爲ノモノニシテ之ヲ以テ臣民ノ階級ヲ定ムルモノニアラス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

九二 大赦トハ或ル犯罪事件ニ對スル公訴權及刑罰執行權ヲ消滅セシムルモノヲ云ヒ特赦トハ特定ノ犯人ニ對シ刑罰執行權ノ全部又ハ一部ヲ取消スルヲ云ヒ減刑トハ既ニ確定シタル刑罰ノ幾分ヲ減スルヲ云ヒ復權トハ公權ヲ剝奪シタル者ヲ將來ニ向テ回復セシムルコトヲ云フ是等恩典ヲ得ヘキ手續ハ法律ハノ規定スル所ニシテ之ヲ與フルハ天皇ノ大權ニ屬ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

九三 攝政ヲ置クヘキ場合及何人ヲ以テ攝政トナスヘキヤハ皇室典範ノ定ムル所ナリ只憲法ハ攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フコトヲ定ムルノミ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ故ニ攝政ハ君主ニ代リテ君主ノ權ヲ行フモノニシテ攝政ノ名ヲ以テ之ヲ行フモノニアラス又大權ヲ行フト云フモ代リテ君臨スルノ意ニアラス

九四 法律ノ規定ト皇室典範ノ規定ト抵觸スルトキハ皇室典範ハ常ニ法律

ノ爲ニ破ラル、モノナレトモ本條ニ攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ルトアルカ故ニ此ノ点ニ就テハ法律ヲ以テ之ヲ侵スコトヲ得サルモノトス

第二章 臣民權利義務

九五 本章ニ所謂臣民トハ永久ニ日本國家權ニ隸屬スヘキ人民ノ全体ヲ云フモノニシテ土地ト共ニ帝國構成ノ一要素タリ而シテ臣民ハ其皇族タルト華士族平民タルトヲ問ハス皆一樣ニ在位ノ天皇ニ對シテ服從ノ義務アルモノトス

九六 臣民ハ國家ニ對シテ權利ヲ有スルヤ否今權利ヲ解シテ國家ノ與フル所ノ能力ナリト云フトキハ臣民ハ素國家ニ對シテ權利ヲ有スルモノニアラス何トナレハ之ヲ與奪スルハ一ニ國家ノ自由ナレハナリ然レトモ國家ハ絶對無限ノ權カヲ有スルモノニアラサルカ故ニ臣民ニ對シテ或ル爲シ得ヘカテサル所ノモノアリテ存ス其ノ國家ノ爲シ得ヘカテサル所ノモノヲ臣民ノ方ヨリ語ヲ立テ、臣民ノ權利ナリト云フコトヲ得ハ臣民ハ國家ニ對シテ或ル權利ヲ有スルモノナリ

例ヘハ國家ハ國家ノ目的上故ナクシテ臣民ノ生命自由ノ凡テヲ剝奪スルノ權カヲシテ而モ之ヲ成シ遂ケントスルトキハ臣民ハ法律ニ依リ又ハ實力ヲ以テ之ヲ拒ムコトヲ得ヘシ斯ノ如ク國家ノ干犯スヘカテサル所ノモノ名ケテ臣民ノ權利ト云フコトヲ得ヘクンハ臣民ハ國家ニ對シテ或ル權利ヲ有スルモノトス但シ臣民ハ如何ナル場合ト雖モ或ルコトヲナスヘキコトヲ國家ニ強ユルコト能ハサルカ故ニ其ノ所謂權利ハ常ニ消極的ノモノナルヘキハ當然ナリ

九七 本章ニ於テ認メタル臣民ノ權利ハ左ノ如シ

- 一、文武官ニ任セラレ及ヒ公務ニ就クノ權
- 二、居住及ヒ移轉ノ自由
- 三、法律ニ依ルニアラサレハ逮捕監禁審問處罰ヲ受ケサルノ權
- 四、法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權
- 五、住所ノ權
- 六、信書秘密ノ權

七、所有ノ權

八、信教ノ自由

九、言論、著作、印行、集會及ヒ結社ノ自由

十、請願ノ權

其ノ義務ハ左ノ如シ

一、兵役ノ義務

二、納税ノ義務

以上ノ權利義務中外國人モ之ヲ有スルコトヲ得ルモノアルカ故ニ此ノ章ニ掲ケ
タル權利義務ハ日本臣民タル資格ニ伴フノ特權ナリト解スヘカラス

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

九八

日本臣民ノ資格ヲ得ルニ二様ノ別アリ一ハ親屬法ノ結果ニヨリ出產
ト同時ニ臣民ノ資格ヲ得ルモノニシテ一ハ外國人歸化ニヨリテ臣民ノ資格ヲ
得ルモノナリ而シテ是等ノ要件ハ別ニ法律ヲ以テ規定スヘキモノトス

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク

文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

九九

往昔門地ヲ以テ品流ヲ差別セシ時ニ當テハ官ヲ以テ家ニ屬スルモノ
トナシ代々其ノ職ヲ世襲シ賤類ニ出ルモノハ才能アリト雖モ顯要ニ登用セラ
ルコトヲ得サリシモ權利ハ平等ナリトノ原理ニ基キ今ハ則チ此ノ弊習ヲ一
洗シ去レリ故ニ今日ニ於テハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ
任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得ルナリ

其ノ他ノ公務トハ帝國議會議員、府縣會議員、市町村會議員ニ撰舉セラレ、カ如
キ又ハ公證人トナルカ如キヲ云フ

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有

ス

一〇〇

兵役ノ義務ハ日本臣民ノ資格ニ伴フノ義務ニシテ外國人ハ日本ニ

住居スル時ト雖モ此ノ義務ヲ負擔スルコトナシ而シテ此ノ義務ヲ臣民ニ分配
負擔セシムル所ノ標目ハ別ニ法律ヲ以テ規定スヘキモノトス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ

有ス

一〇一 條文ニ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ストアリ故ニ國家ニ
租稅徵收ノ權アレトモ法律ニ依ルニアラサレハ之ヲ實行スルコト能ハス從テ
臣民ニ納稅ノ義務アルモ法律ニ依ルニアラサレハ強要セラルコトナキモノ
トス

一〇二 租稅ト公用徵收トヲ混同スヘガラズ二者共ニ國權ノ發動ニシテ臣
民トノ合意ニ基クモノニ非スト雖モ公用徵收ハ所有權又ハ其ノ他ノ物權ヲ強
要スルモノニシテ租稅ノ賦課ハ單ニ公法上ノ債權ヲ生スルニ過キサルモノト
ス故ニ公用徵收ハ必ス確定ノ物件アルコトヲ必要トシ又之ニ對スル相當ノ賠

償ヲ與フルコトヲ要スルナリ

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自

由ヲ有ス

一〇三 封建ノ時代ニ在テハ各藩國疆ヲ畫リ各關柵ヲ設ケ人民ヲシテ其ノ
本籍ノ外ニ居住スルコトヲ許サス又許可ナクシテ旅行及移轉スルコトヲ許サ
ハリシモ斯ノ如キハ人民交通ノ自由ヲ侵害スルモノナルヲ以テ維新ノ後廢藩
ノ舉ト俱ニ居住及移轉ノ自由ヲ認メタリ本條ハ則チ前ニ認メタル所ノモノヲ
確保シタルモノニシテ此ノ自由ハ法律ヲ以テ之ヲ制限スルノ外行政處分ヲ以
テ侵スコトヲ得サルモノトス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問

處罰ヲ受クルコトナシ

一〇四 本條ハ身體ノ自由ヲ確保シタルモノナリ則チ吾人臣民ハ法律ノ規

定ニヨリテナサル、ノ外逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナキモノトス

四〇五 條文ニ法律ニ依ルニ非シテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシトアリ皮想ノ見ヲ以テスレハ吾人ハ命令ノ定ムル所ニ依リテ審問處罰ヲ受クルコトナキカ如シト雖モ然ラス吾人ハ法律ノ委任ニ基ク命令ニ依リテ審問處罰ヲ受クルコトアルナリ而シテ法律ノ委任ニ基ク命令ニ依リテ審問處罰ヲ受クルコトアリトスルモ敢テ本條ニ牴觸スルモノニアラス何トナレハ法律ガ云々ノ事項ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ルヘシトノ規定ヲ有スルトキ又ハ法律ヲ以テ行政命令ニ或ル範圍内ニ於テ罰則ヲ規定スルコトヲ得セシメタルトキハ其ノ命令ノ定ムル所ニ依ルハ即チ法律ノ定ムル所ニ依ル所以ナレハナリ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルルノ權ヲ奪ハル、コトナシ

四〇六 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、

コトナキモノトス故ニ行政權ヲ以テ臨時ノ裁判所又ハ委員ヲ設ケ特別ノ裁判ヲナスコトヲ許サス凡テ法律ニ依テ構成セサル裁判所ノ裁判ハ無効ナリ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ヲクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セララル、コトナシ

四〇七 家宅ハ臣民各個安棲ノ地タリ故ニ猥リニ之ヲ侵スコトヲ得ス法律ニ定メタル場合ノ外ハ私人ハ勿論警察司法又ハ收税ノ官吏ト雖モ家主ノ承諾ヲクシテ住所ニ侵入シ又ハ搜索スルコトヲ得サルモノトス住所トハ居住ノ家屋ノミチ云フニアラスシテ之ニ附屬スル一定ノ地面ヲモ包含スルモノトス然レトモ家屋ト雖モ住所ニアラサルモノアリ公開ノ時間中ナル劇場寄席博物館等ノ如キ然リ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サル、コトナシ

四〇〇 信書トハ他人ニ托シテ往復スル封鎖セラレタル凡テノ文書類ヲ云フモノニシテ法律ニ定メタル場合ノ外其ノ秘密ヲ侵スコトヲ得サルモノトス

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナシ公益

ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

四〇一 公益ノ爲メ必要ナル處分トハ公益ノ爲メ土地又ハ其ノ他ノ物件ノ所有權ヲ強要スルコトヲ云フ而シテ法律ノ定ムル所ニ依リテ強要セラル、ノ外所有權ヲ侵サル、コトナキモノトス

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス臣民タルノ義務ニ

背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

四〇二 信教トハ或ル宗教ヲ信スルヲ云フ但シ信教ノ自由ト云フトキハ何等ノ宗教ヲ信セサルコトヲモ包含スヘシ

信教ノ自由ニ二アリ一ハ内部ノ自由ニシテ一ハ外部ノ自由ナリ國家ハ人ノ意

思テ支配スルコトヲ得サルカ故ニ内部ニ於テノ信仰歸依ハ法律ノ關スヘキ所ニアラス吾人ハ我國ノ安寧秩序ヲ妨クル所ノ宗教ト雖モ之ヲ信仰スルコトヲ得ヘシ内部ニ於ケル宗教ノ自由ハ絶對無限ニシテ何等ノ制限ナシ之ト反シテ更ニ外部ニ向テ禮拜儀式布教演説及結社集會等ヲ爲スニ至テハ固ヨリ安寧秩序ヲ維持スル爲ノ一般ノ制限ニ從ハサルヘカラス條文ニ安寧秩序ヲ妨ケス臣民タルノ義務ニ背カサル限リトアルハ即チ外部ニ於ケル宗教ノ自由ヲ制限シタルモノナリ

人ハ信教ノ自由ヲ有ス故ニ安寧秩序ヲ妨ケス臣民タルノ義務ニ背カサル限リハ政府ハ其ノ自由ヲ侵害スルコト能ハス又一個人ニ向テ一定ノ宗教ヲ信仰スヘキコトヲ命スルコト能ハス如何ナル之レ安寧秩序ヲ妨ケ臣民ノ義務ニ背キタルモノトナスヘキヤハ政府ノ判定スル所ナリ

四〇三 條文ニ臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テトアリ其ノ所謂臣民ノ義務トハ何ソヤ今憲法ニヨレハ臣民ノ義務ニ二アリ一ハ兵役ノ義務ニシテ一

ハ納税ノ義務ナリ然レトモ本條ノ所謂臣民ノ義務ハ此ノ二個ノ義務ノミヲ指シタルモノト解スルコト能ハス何トナレハ理論上兵役及納税ノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由アリトスルコト能ハサルノミナラス條文單ニ臣民タルノ義務ト云ヒテ此ノ憲法ニ規定シタル臣民ノ義務ト云ハサルカ故ナリ然ラハ兵役及納税ノ義務ノミナラス凡テ法律命令ニ依テ定メラレタル臣民ノ義務即チ法律上ノ義務ナリトセンカ或ハ云ハシ單ニ法律上ノ義務ヲ指スモノトスルトキハ法令ヲ以テ強行スルモノ、外チ包含セサルカ故ニ少シク狹隘ナルノ憾アリ例ヘハ法律ハ君主ニ對シテ不敬ノ所爲アルモノ其ノ他危害ヲ加ヘントスル者ヲ處罰スルモ然レトモ法律ハ臣民ニ君主ニ對シテ忠實ナルヘキコトヲ命スルコト能ハス蓋シ之ヲ命スルハ道德ノ職分ニシテ法律ノ範圍外ナレハナリ故ニ本條ノ所謂臣民タルノ義務トハ法律上ノ義務ハ固ヨリ君主ニ對スル道德上ノ義務ヲモ包含スルモノナリト余カ見ハ之ト反ス何トナレハ法律ノ正文中義務ナル文字ヲ使用シタルトキハ特ニ道德上ノ義務ナル旨ヲ明示セサル以上

ハ法律上ノ義務ナリト解スヘキハ當然ナレハナリ故ニ本條ノ所謂義務ハ法律上ノ義務ヲ指スモノニシテ道德上ノ義務即チ臣民ノ本分ノ如キハ條文安寧秩序ノ語中ニ包含スルモノトス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

一四三 本條ハ臣民自己ノ意見ヲ公ニシ或ハ數人結合シテ或ル目的ヲ達セシコトヲ計ルノ自由即チ思想交通ノ自由ヲ確保シタルモノナリ

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

一四四 本條ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從フトキハ請願ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ而シテ請願ヲ爲スヘキ事項ハ各箇人ノ利益ニ係ルト公益ニ係ルトヲ問ハサルモノトス

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合

ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

一四四 本章ニ掲ケタル規定ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナキモノトス其ノ大權ノ施行ヲ妨クルコトナシトハ憲法ニ於テ確保シタル臣民ノ自由權利ノ執行ヲ停止シ法律ニ定メタル區域外ニ於テ特別ノ處分ヲ施スコトナシ云フ法律ノ規定ニ反シテ臣民ヲ逮捕監禁スルカ如キ集會結社ヲ嚴禁スルカ如キ所有權ヲ侵シテ兵事ニ用ユルカ如キ即チ然リ而シテ本條ノ如キ規定アル所以ハ一人ノ權利ハ國家ノ生存ニ代ヘ得ヘキモノニアラサルカ故ナリ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ

牴觸セサルモノニ限り軍人ニ準行ス

一四五 本條ハ軍人ト此ノ憲法トノ關係ヲ定メタルモノニシテ本章ニ掲ケ

タル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り軍人ニ準行スルモノトス故ニ陸海軍ノ法令又ハ紀律ハ軍人ニ對シテハ通則ヲ示シ此ノ章ニ掲ケタル規定ハ軍律又ハ紀律ニ牴觸セサル限りニ於テ其ノ變例ヲ示スモノナリ本章ニ掲ケタルモノニシテ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノトハ所有ノ權ノ如キヲ云ヒ牴觸スルモノトハ集會結社ノ自由ノ如キヲ云フ

第三章 帝國議會

一四六 本章ハ帝國議會ノ組織及權限ニ關スル原則ヲ定メタルモノナリ

本章ニ於テ認メタル議會ノ權利ハ左ノ如シ

- 一、法律案ノ議決及提出ノ權
- 二、上奏及建議ノ權
- 三、請願ヲ受クルノ權
- 四、内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ設クルノ權

四七 議會ハ法律上如何ナル性質ヲ有スルヤニ付テハ種々ノ議論アリ其ノ重モナルモノ左ノ如シ

一 議會ハ主權者即チ統御ノ主体ナリ

二 議會ハ他ノ諸官府ト同ク主權者ノ命令ヲ受テ政務ヲ執リ行フ處ノ機關ナリ

三 議會ハ國民ヲ代表スルモノニシテ統御ノ客体ナリ

歐洲各國ノ議會ノ性質ハ暫ラク措キ我國ノ議會ハ法律上如何ナル性質ヲ有スルヤト云フニ右第一說ニ從フコト能ハサルハ勿論ナリ何トナレハ議會ハ立法若クハ行政ニ參與スルモ第三者ニ對シテ命令ヲ發スルコトヲ得ス從テ國民ヲ統御スルノ權力アルモノニアラサレハナリ然ラハ第二說ヲ可トスヘキカ穂積博士曰ク國會ハ凡テ他ノ官府ト同性質ナル一ノ官府ナリ其權限職務ノ他ノ官府ト異ナルカ故ニ各種ノ議論ヲ生スレトモ之レニヨリ毫モ法理上ノ差ヲ生スルコトナシ國會ハ政務執行便宜ノ爲メニ組織セル一ノ議會体ニシテ行政官ト差異アルノ点ハ第三者ニ對シ効力アル處分ヲ爲シ得ルト否ヲサルトニアリ故ニ帝國議會ハ行政官

ニモアラス亦立法官ニモアラス何トナレハ法律議案ヲ議スルニ止マリテ法律ヲ布クノ權利アラサレハナリ行政官ニアラス會議体ノ一官府ニシテ主權者カ便宜ノ爲メ設ケタルモノニ過キス他ノ議會体乃チ我國ノ樞密顧問ノ如キモノト其者自身ノ法律上ノ性質ヲ同フシ唯一定ノ政府事項ニ對シテハ協贊承諾ヲ要スルト云フノ規定ハ法律上其者自身ノ性質ヲ變セシムルノ理由タルヲ見スト然レトモ余ハ之ニ同意スルコト能ハス議會ハ凡テ他ノ官府ト同性質ナル一ノ官府ナリト云フモ官府ナルモノハ君主大權ノ下ニ於テ法律命令ヲ執行スルノ脉管タルニ過キスシテ其ノ之ヲ組織スルモノモ亦純然タル官撰官吏ニシテ長官ノ命惟レ從ヒ毫モ代議ノ性質ヲ有スルコトナキモノナリ然ルニ議會ハ法律ノ制定ニ參與スルモノニシテ之ヲ執行スルノ脉管タルモノニアラス之ヲ組織スルモノモ官吏ニアラス長官ノ命惟レ從ヒ毫モ代議ノ性質ヲ有セサルカ如キモノニアラス又博士ハ議會ハ樞密顧問ノ如キモノト法律上其ノ性質ヲ同フスト云フモ樞密院ノ如キハ君主ノ諮問ニ奉答スルモノ即チ君主ノ參考マテニ諮問セラレタル事件ニ付キ意

見テ述フルモノニ過キスシテ毫モ代議ノ性質ヲ有スルモノニアラス又博士ハ議會ノ權限職務ノ他ノ官府ト異ナルカ爲ニ各種ノ議論ヲ生スレトモ之ニヨリ毫モ法律上ノ差ヲ生スルコトナシト云ヘリ然レトモ議會ト官府トハ其ノ組織權限職務凡テ同シカラス豈其ノ性質ニ於テ異ナル所ナクシテ可ナランヤ要スルニ余ハ此ノ説ヲ是認スルコト能ハス然ラハ第三説即チ議會ハ國民ヲ代表スルモノナリトノ説ニ從フヘキカ此ノ説ハ之ヲ二箇ニ區別スルコトヲ得ヘシ(一)議會ハ國民ノ各箇人カ直接ニ政務ニ參與スルカ爲メ代理人ヲ撰テ之ヲ行ハシムルモノナリ(二)議會ハ國民全体ヲ代表スルモノニシテ個人ノ代理者ニアラス議會ハ國民ノ各個人カ直接ニ政務ニ參與スル爲ニ代理人ヲ撰テ之ヲ行ハシムルモノトナスコトヲ得ス何トナレハ議員ハ議院内ニ於テ各獨立ノ意見ヲ發表スルコトヲ得ヘク毫モ撰舉人ノ意思ニ制限セラルヘモノニアラサルカ故ニ代理ノ法理ヲ其ノ間ニ適用スルコト能ハサレハナリ然ラハ第二ノ説ニ從フヘキカ此ノ説ハ議會ハ國民全体ヲ代表スルモノ第一ノ説ノ如ク各個人ノ代理ニアラストスルカ

故ニ法律上代理ノ關係ヲ其ノ間ニ適用セントスルモノニアラス然ルニ穂積博士此ノ説ヲ駁シテ曰ク今國會ノ組織ヲ觀察スルニ其ノ撰舉權ヲ分配スル原則ハ必スシモ統御ノ客体タル各個人ニ及ハス他國ハ兎モ角モ我國ノ制法ニ就キテ考ルニ貴族院ハ既ニ極メテ狹隘ナル區域ニ限ラレ衆議員ノ撰舉區域モ亦國民ノ小部分ニ止マルモノナリ之レヲ指シテ直チニ國民ノ代表者ナリト云フハ非ナリ彼ノスウホスカントニ行ハルヘレフエレンタリアム議會ノ如キ一般人民カ無制限ニ集會シ得ルノ權アリテ其權利ヲ實行スルコト實際ニ於テ困難ナルカ爲メ一部分ヲシテ全部ヲ代表セシムルモノトハ全ク其法理ヲ異ニスト然レトモ余カ見ハ之ト反ス其ノ然ル所以ハ以下ニ述フルカ如シ

國民總体ヲ以テ議會ヲ組織シ國民總体ノ意見ヲ發表セシムルハ固ヨリ國家ノ望ム所ナルモ國民全体ヲ以テ議員トナスコト即チ所謂總民會議ハ國土狹隘人口寡少ナル地ニ於テノミ行フコトヲ得ヘク人口衆多版圖廣大ナル邦國ニ在テハ到底之ヲ實行スルコト能ハスコトヲ以テ撰舉ノ區域ヲ限リ或ル資格ヲ有スル者ヲシ

テ或ル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ撰舉セシメ以テ議會ヲ組織スルコト、ナセ
 ルモノナリ其ノ然ル所以ノ理ハ議會ヲ開設シタル精神ヨリ之ヲ證明スルコトヲ
 得ヘシ而シテ議會ヲ設ケタルハ公議輿論ノ實ヲ擧ケ衆ト共ニ天下ノ治ヲナサン
 カ爲ナルコトハ議會設立ニ關スル勅語ニ依テ明カナリ斯ノ如ク議會ハ萬機公論
 ニ決センカ爲ニ開設シタルモノナルニモ拘ハラズ議會ハ國民ヲ代表スルモノニ
 アラス議員各一箇人ノ集合シタルモノナリト云ハハ萬機公論ニ決スルノ實何ク
 ニカアル僅々數百人ノ議員ノ意見直ニ以テ公議輿論ナリト云フヘキカ僅々數百
 人ノ翼賛ハ以テ臣民全体ノ翼賛ト云フヘキカ余ハ信ス議會ハ國民ヲ代表スルモ
 ノニアラストスルハ天皇陛下カ帝國議會ヲ設ケサセ玉ヒタル大御心ニ反スルモ
 ノナルコト蓋シ國民全体ヲ擧ケテ議員トナシ以テ議會ヲ組織スルハ其ノ精神ナ
 レトモ事實爲シ能ハサルコトナルヲ以テ或ル一部ノ人ニミ撰被撰ノ權ヲ與ヘ
 タルナリ故ニ撰舉權ヲ有スル者ハ之ヲ有セサル數多ノ人民ヲ代表スルモノトナ
 サハルヘカラス最モ法律上ノ代理ノ關係ナキハ當然ナルモ然レトモ之ヲ代表ス

ルモノト認ムルコトヲ要ス然ラサレハ一部少數ノ人民ノミ參政權ヲ有シテ他ノ
 多數ノ人民ハ參政權ヲ有セスト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ天下之ヨリ不理
 ナルコトナカルヘシ法律命令ハ決シテ有撰權ノ人民ノミニ關係ヲ有スルモノニ
 アラスシテ人民全体ニ利害ノ關係ヲ有スルモノナリ而モ少數人ハ多少ノ財産ヲ
 有シ若干ノ國稅ヲ納ムルノ故ヲ以テ或ハ或ル年月間一定ノ土地ニ住居シタルノ
 故ヲ以テ政務ニ參與スルコトヲ得ヘク多數ノ人民ハ是等ノ要件ヲ具ヘサルカ故
 ニ政務ニ參與スルコトヲ得ストスルハ何ソヤ法律ハ均シク臣民ノ頭上ニ關係ヲ有
 スルモノナリ命令ハ均シク臣民ノ遵奉スヘキ所ノモノナリ臣民ノ利害ニ關スル
 カ故ニ政務ニ參與スルノ權アリトナサハ豈一部少數ノ人民ニ限ルノ理アラシヤ
 蓋シ參政ノ權ハ國民全体ノ有ニシテ決シテ一小部民ノ專有ニアラス然レトモ國
 民全体ヲシテ之ヲ行ハシムルハ國家ノ利益ヲ圖ラントシテ却テ之ヲ害スルニ
 至ルノ弊アリ即チ或ル資格ヲ有スル者ヲシテ多數人民ヲ代表セシムル所以ナリ
 又當撰者ハ選舉人全体ヲ代表スルモノトナサハルヘカラス選舉人投票ノ全部ヲ

ノナル所以ヲ解説シタリ然ラハ此ノ説ヲ以テ議會ノ法律上ノ性質如何ノ問ニ對
スル満足ナル答トナスヘキカ曰ク否余ハ之ヲ以テ議會ノ性質ノ全部ヲ覆フモノ
トナスコト能ハス而シテ余ノ信スル所ハ下ノ如シ議會ハ國民ヲ代表シ君主統御
ノ下ニ立テ政務ニ參與スル所ノ國家ノ機關ナリ

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

帝國議會ハ貴族院又ハ衆議院ノ一院ヲ以テ構成スルモノニアラス
兩院相合シテ始メテ議會ヲ構成スルモノナリ故ニ貴族院又ハ衆議院ノ一院ヲ
指シテ帝國議會ト稱スルコトヲ得ス

貴族院及衆議院ハ帝國議會ノ二局部ナリ議會ノ權限ハ各院各別ニ
之ヲ有スルモノニアラス兩院合同シテ職務ヲ行ハスシテ各別ニ之ヲ行フハ議
會ノ職務ヲ内部ニ分配シタルモノニ外ナラス貴族院ノ行フ職務モ衆議院ノ行
フ職務モ法律上共ニ帝國議會ノ職務ニシテ貴族院又ハ衆議院ト云フ一局部ノ
名ヲ以テ立法行政ニ參與スルコトヲ得ス

何故ニ帝國議會ハ兩院ヲ以テ組織シタルヤ伊藤侯之ヲ解シテ曰ク

二院ノ制ハ歐洲各國ノ既ニ久シク因襲スル所ニシテ其ノ効績ヲ史乘ニ徵驗
シ而シテ此ニ反スルノ一院制ヲ取レル者ハ皆其ノ流禍ヲ免レサルコトヲ證
明シタリ 佛國千七百九十一年及千八百四十八年西班牙千八百十二年憲法 近來二院制ノ祖國ニ於テ論者却テ其ノ
社會發達ノ淹滯障礙タルヲ説キ爲ス者アリ抑二院ノ利ヲ主持スル者既ニ熟
套ノ論アリテ今茲ニ引學スルヲ必要トセサルヘシ但シ貴族院ノ設ハ以テ王
室ノ屏翰ヲ爲シ保守ノ分子ヲ貯存スルニ止マルニ非ス蓋立國ノ機關ニ於テ
固ヨリ其ノ必要ヲ見ル者ナリ何トナレハ凡ソ高尚ナル有機物ノ組織ハ猶各
種ノ元素ヲ包含シテ成体ヲ爲スノミナラス又必各種ノ機器ニ倚テ以テ中心
ヲ輔翼セサルハアラス兩目各其ノ位ヲ殊ニセサレハ以テ視力ノ角點ヲ得ヘ
ガラス兩耳各其ノ方ヲ異ニセサレハ以テ聽官ノ偏弊ヲ免ルヘカラス故ニ元
首ハ一ナラサルヘカラス而シテ衆庶ノ意思ヲ集ムルノ機關ハ兩個ノ一ヲ缺
クヘカラサルコト宛モ兩輪ノ其ノ一ヲ失フヘカラサルカ如シ夫レ代議ノ制

ハ以テ公議ノ結果ヲ收メムトスルナリ而シテ勢力ヲ一院ニ集メ一時感情ノ
 反射ト一方ノ偏向トニ任テ互相牽制其ノ平衡ヲ持スル者ナカラシメハ孰レ
 カ其ノ傾流奔注ノ勢容易ニ範防ヲ踰越シ一變シテ多數壓制トナリ再變シテ
 橫議亂政トナラサルコトヲ保證スル者アラムヤ此レ其ノ弊ハ却テ代議ノ制
 ナキノ日ヨリ猶甚キモノアラムトス故ニ代議ノ制設ケサレハ己ム之ヲ設ケ
 テ二院ナラサレハ必偏重ヲ招クコトヲ免レス此レ乃物理ノ自然ニ原由スル
 者ニシテ一時ノ情況ヲ以テ之ヲ掩蔽スヘキニ非サルナリ要スルニ二院ノ制
 ノ代議法ニ於ケルハ之ヲ學理ニ照シ之ヲ事實ニ徵シテ其ノ不易ノ機關タル
 コトヲ結論スルコトヲ得ヘキナリ彼ノ或國ニ於ケル貴族院ノ懶庸ニシテ議
 事延滞ノ弊アルヲ論スルカ如キハ此レ一時ノ短ヲ摘發スルニ過キス而シテ
 國事ノ長計ニ對シテハ其ノ言ノ價直アルヲ見サルナリ
 一院制ヲ取ラスシテ二院制ヲ取リタルハ二院制ヲ以テ一院制ニ勝ルト認メタ
 ルカ故ナルコト明カナリ然レトモ余カ見テ以テスレハ一院制ヲ可トス其ノ然

○

ル所以ハ以下ニ述フルカ如シ
 一、二院制ナルトキハ少數者ノ議論ガ多數者ノ議論ヲ壓倒スルコトアリ例ヘハ
 兩院各三百名ノ議員ヲ以テ組織スルモノトシ或ル法案ニ對シ衆議院ハ全員一
 致ヲ以テ可決シ貴族院ハ百四十九人ニ對スル百五十一人即チ二人ノ多數ヲ以
 テ否決シ爲メニ法案ヲ消滅ニ歸セシメタリトセヨ此ノ場合ニ於テハ百五十一
 人ノ爲ニ四百四十九人ノ意見ガ壓倒セラレタルモノトナサザルヲ得ス又貴族
 院ハ國民中最少數ノ貴族ヲ代表シ衆議院ハ貴族ヲ除ク外ノ凡テノ國民ヲ代表
 スルカ故ニ此ノ場合ニ於テハ少數ノ貴族ノ意見ヲ以テ多數ノ國民ノ意見ヲ消
 滅ニ歸セシメタルモノト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ二院制ハ眞ニ所謂議
 會ヲ設クルノ精神ニ適セサルコト明カナリ
 二、二院制ナルトキハ國民ノ意思ヲシテ空無ニ屬セシムルノ弊アリ即チ或ル議
 案ニ對シ一院之ヲ可決シ他院之ヲ否決シタルトキハ帝國議會ハ其ノ議案ヲ可
 決シタルニモアラス又否決シタルニモアラスシテ何等ノ意見ヲ發表セサルコ

トナルナリ從テ其ノ議案ニ對シテハ國民亦何等ノ意思ヲ有セサルモノトス
 ル不法不理ノ結果ヲ生スルニ至ル
 然ルニ一院制ヲ批難スルモノアリ曰ク一院制ヲ取ルトキハ急激ノ改革ヲ企テ
 爲ニ國家ノ治安ヲ害スルノ憂アリ又一院制ヲ取ルトキハ其ノ權力強大ニシテ
 二院制ノ如ク並ヒ相制スルコト能ハス故ニ專斷ニ流ルハノ弊アリト之レ君主
 ハ主權者ニシテ議會ハ統御ノ主体ニアラサルコトヲ遺忘シタルノ言ナリ議會
 如何ニ急激ノ改革ヲ企ツルモ如何ニ專斷ニ流レントスルモ議會ハ統御ノ主体
 ニアラサルカ故ニ自ラ之ヲ實行スルコト能ハス急激ノ改革ヲ企ツルヲ不當ナ
 リトセンカ君主其ノ法案ニ裁可ヲ與ヘサレハ可ナリ議會急激ノ改革ヲ企テ君
 主之ニ同意シタリトセンカ國民ト君主ト合同シテ急激ノ改革ヲ企ツルモノナ
 リ焉シテ不可ナリト云フコトヲ得ンヤ論者又曰ク社會ニ貴族的及民主的ノ原
 素アルハ自然ノ數ナリ故ニ之ヲ分テ代表セシムルトキハ各自其ノ所ヲ得レト
 モ一院ナルトキハ之ト反スト余ヲ以テスレハ平民ト同シク貴族ニ選被選ノ權

ヲ與フレハ足レリ爲ニ二院ヲ設ルコトヲ要セス若シ社會ニ貴族ト平民トノ兩
 階級アルカ故ニ兩院ヲ設ケサルヘカラスト云ハハ上等民ト中等民トノ異ナル
 カ如クニ中等民ト下等民ト異ナルカ故ニ上中下ノ三院ヲ設クヘシト論定セサ
 ルヘカラスト加之貴族院ヲ構成スルノ一要素タル華族ニ就テ世間既ニ存廢ノ問
 題アルニアラスヤ而モ尙ホ之カ代表者ヲ要スト云ハハ貴族院ヲ衆議院ニ合ス
 レハ足レリ敢テ兩院ヲ設ケテ國民ノ意思ヲ空無ニ歸セシムルカ如キコトヲ要
 セス

要スルニ一院制二院制各其ノ得失アラン只法理ハ一院制ヲ以テ可トスヘキカ
 如シ若シ夫レ政治論ニ至テハ余ノ關スル所ニアラス

**第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及
 勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス**

附註 本條ハ貴族院組織ノ要件ヲ定メタルモノナリ而シテ其ノ詳細ハ貴

族院令ノ定ムル所ナレトモ貴族院令ハ此ノ條ニ明示シタル以外ノ議員ヲ以テ貴族院ヲ組織スルコトヲ定ムルコトヲ得サルモノトス

三三三 條文ニ貴族院令ノ定ムル所トアリ故ニ貴族院令ハ一ノ勅令ニシテ法律ヲ以テ之ヲ改正スルコト能ハサルモノトス貴族院令第十三條ニ將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシトアリ人或ハ貴族院ノ議決ヲ經ルノ一事ヲ以テ之レ勅令ニアラス法律ナリト云ハンモ法理ハ然ラス貴族院ノ議決ヲ經ルハ改正ヲ鄭重ニセンカ爲ニシテ法律トナサンカ爲ニアラス貴族院リ議決ヲ經ルモ勅令ハ依然勅令ニシテ其ノ性質ヲ變スルコトナシ且ツ貴族院ノ議決ヲ經ルモ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經タルモノトスルコト能ハス又勅令改正ノ發案權モ貴族院之ヲ有セス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

三三三 本條ハ衆議院組織ノ要件ヲ定メタルモノナリ而シテ其ノ組織ハ選舉法ノ定ムル所ナレトモ公選セラレタル議員ヲ以テスヘキハ本條ノ命スル所ナレハ選舉法ハ公選以外ノ手續ヲ以テ衆議院ヲ組織スルコト能ハス
選舉法ハ勅令ニアラスシテ一ノ法律ナリ故ニ議會ハ之カ改正ヲ議スルコトヲ得ヘシ

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

三三四 本條ハ一人ニシテ同時ニ貴族院議員トナリ又衆議院議員トナルコトヲ得サル旨ヲ定メタルモノニシテ二院制ヨリ生スル當然ノ結果ナリ

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

三三五 本條ハ凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要スル旨ヲ定メタルモノナリ故ニ議會ノ協賛ヲ經サル法律ハ憲法上存在スルコトナキモノトス但シ議會ノ協賛ヲ經タルモノノ尽ク法律トナルニアラス彼ノ豫算案ノ如キ即チ然リ

四三六 條文ニ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ストアリ故ニ一院之ヲ可決スルモ他院之ヲ否決シタルトキハ法律トナスコト能ハス何トナレハ一院之ヲ可決シ他院之ヲ否決スルトキハ帝國議會ハ其ノ法案ニ就テハ何等ノ意思ヲ發表セサルモノニシテ從テ議會ノ協賛ヲ經タルモノトスルコト能ハサレハナリ兩院可決シテ始メテ議會ノ意思明カナリ故ニ議會ノ協賛ト云ハソニハ必ス兩院一致ノ決議アルコトヲ要ス

四三七 法律ノ定義ニ關シテハ學者間ニ種々ノ異論アルモ余ノ信スル所ハ左ノ如シ

法律トハ君主ノ單意ヲ以テ制定スルコト能ハサル最強ノ効力ヲ有スル國家ノ命令ヲ云フ

然レモ本條凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ストハ既ニ法律トナリタル者ニ對シテ協賛ヲ經ルヲ要スルノ謂ニアラサルカ故ニ本條ハ帝國議會ノ協賛ヲ經タル法律案ニアラサレハ法律トナスコト能ハサル旨ヲ明示シタルモノト解

スルヲ以テ充分ナリトス

四三八 如何ナル事項ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘキヤ憲法ニ於テ法律ヲ以テ規定スヘキコトヲ明示シタル事項ハ必ス法律ヲ以テ規定スヘク其ノ他ハ命令ヲ以テスルモ法律ヲ以テスルモ憲法上之ヲ違憲トスルコトヲ得サル旨ハ既ニ解説シタリ故ニ今之ヲ再述スルコトヲ止メ余ハ憲法ヲ離レテ單ニ法理ノ上ヨリ法律ト行政命令トノ分界ヲ論定セント欲ス

法律モ命令モ均シク國家カ臣民ニ對スルノ命令ナリ臣民カ服從ノ義務ヲ有スル点ニ就テハ法律モ命令モ其ノ間何ノ異ナル所ナシ而モ之ヲ法律ト命令トニ區別スル所以如何即チ一ハ國民ヲ代表スル議會ノ協賛ヲ要スルモノトシ一ハ之ヲ要セサルモノトナシタル所以如何余ハ此ノ問ニ對スルノ答ハ即チ法律ト命令トノ分界ヲ定ムルモノナルコトヲ確信ス

法律ハ何故ニ議會ノ協賛ヲ經ルコトヲ要スルカ曰ク君主單意ノ認斷ヲ以テ國民全体ノ利害ニ關スル事項ヲ規定スルトキハ爲ニ國民ノ自由權利ヲ侵害スル

ノ恐レアルカ故ナリ故ニ斯ノ如キノ事項ハ君主ト國民トノ合同一致ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ要ス若シ此ノ決定ニシテ誤ラズンハ國民全体ノ利害ニ關スル事項ハ凡テ法律ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラス
君主ハ何故ニ議會ノ協賛ヲ經スシテ或ル事項ヲ命令スルコトヲ得ルカ曰ク或ル事項ハ議會ノ協賛ヲ經サルモ爲ニ國民ノ自由權利ヲ侵害スルノ恐レナキカ故ナリ其ノ所謂或ル事項トハ何ソ曰ク法律ニ於テ其ノ根基根本ヲ示シタル事項之レナリ若シ此ノ決定ニシテ誤ラスンハ法律ニ於テ定メタル法則ヲ基本トシ其ノ基本ニ違ハサル限リニ於テ或ル事項ヲ規定スルニハ凡テ命令ヲ以テスヘキモノトス

右ハ即チ余カ信スル所ノ法律ト命令トノ分界ノ大要ナリ若シ夫レ如何ナル事項ハ國民ノ自由權利ヲ侵害スルノ恐レアルヤ將タ法律ニ於テ根基根本ヲ示シタル事項ナルヤ等ハ事實ノ問題ナリ

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各法

律案ヲ提出スルコトヲ得

本條ハ兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決スルノミナラス各法律案ヲ提出スルコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ

貴衆兩院共ニ法律案ヲ議決スルノ權アリ而シテ之ヲ可決セント欲セハ可決スルコトヲ得ヘク其ノ間何者ノ干涉ヲ受クルコトナシ換言スレハ法律上必スシモ可決セサルヘカラス法律案ナク又必スシモ否決セサルヘカラス法律案ナシ其ノ可否ヲ決スルハ全ク議會ノ自由ナリ何者ノ抑制ヲモ受クルコトナシ然ルニ此ノ原則ニ一例外アリト説ク者アリ曰ク條約ハ立法ヲ檢束スル然レトモ余カ見ハ之ト反ス先ツ憲法上ヨリスレハ條約ハ立法ヲ檢束スルノ明文ナシ前條ニ於テ協賛ト云ヒ本條ニ於テ議決ト云フ共ニ條約カ立法ヲ檢束スルノ意ヲ含ムモノニアラス又第十三條ニ天皇ハ諸般ノ條約ヲ締結ストアルモ該條ハ條約締結權ハ天皇ノ有ナルコトヲ示スモノニシテ如何ナル事項ト雖モ天皇ノ單意ヲ以テ締結スルコト

ヲ得ル旨ヲ示シタルモノニアラス從テ條約ハ立法ヲ檢束スルノ意ヲ包含セス
 斯ノ如ク憲法ニ條約ハ立法ヲ檢束ストノ明文ナシトセンカ本條ニ兩議院ハ政
 府ノ提出スル法律案ヲ議決シ云々トアル明文ニ一モ例外ナキモノト論定セサ
 ルヘカラス而シテ條文ニ所謂議決トハ自由議決ヲ指スコト寸毫ノ疑ナキヲ以
 テ條約ヲ執行スルニ必要ナル法律案ト雖モ帝國議會之ヲ否決スルコトヲ得ル
 モノトス又法理上ヨリスルモ議會カ其ノ可否ヲ決スルノ自由ヲ失フコトナシ條
 約ノ事項ニシテ立法ノ手續ヲ經法律ヲ以テスルニアラサレハ之ヲ實行スル事
 能ハサルモノナルトキハ君主ノ單意ヲ以テ其ノ條約ヲ締結スルコトヲ得ス故
 ニ此場合ニ於テハ條約ヲ執行スルニ必要ナル法律案ハ帝國議會之ヲ否決スル
 ヲ得ルヤ否ノ問題ヲ生スルコトナシ又君主カ若シ右ノ條約ヲ締結シタルトキ
 ハ契約ハ成ルヘク之ヲ有効ニ解スヘシトノ普通ノ原則ニ從ヒ未必條件附ノ條
 約ナリト認メサルヘカラス即チ議會ニ於テ條約ヲ履行スルニ必要ナル法律案
 ヲ可決シタルトキハ其ノ條約ハ効力ヲ生シ否決シタルトキハ効力ヲ生セサル

モノトノ停止條件附ノ條約ナリト見做サトルヘカラス果シテ然ラハ議會ノ決
 議如何ニ依テ或ハ條約履行ノ責務ヲ負ヒ或ハ負ハサルモノニシテ議會ハ此ノ
 條約ノ爲ニ何等ノ拘束ヲ受クルコトナキモノト云ハサルヘカラス故ニ此ノ場
 合ニ於テモ事理明白散テ條約ハ立法ヲ檢束スルヤ否ノ問題ヲ生スルコトナシ
 又條約ノ事項ニシテ君主ノ單意ヲ以テ締結スルコトヲ得ヘク之ヲ國內ニ實行
 スルカ爲ニ憲法上法律ヲ必要トセサルモノナルトキハ君主ハ有効ニ之ヲ締結
 スルコトヲ得ヘク其ノ公布セラレタル條約ノ命令ハ臣民ハ固ヨリ議會モ之ヲ
 遵奉セサルヘカラス然レトモ此ノ場合ニ於テハ法律ヲ制定スルノ必要ナキカ
 故ニ條約ハ立法ヲ檢束スルヤ否ノ問題ヲ生スルコトナシ上陳ノ如クナルカ故
 ニ或ル論者ノ如ク臣民若シクハ議會カ條約ニ對シテ當事者ナルヤ將々第三者
 ナルヤ等ヲ論争スルマテモナク立法ヲ檢束スルモノニアラサルコト明カナリ
 以上條約ハ立法ヲ檢束セサル旨ヲ述タリ然レトモ帝國議會ノ協贊ヲ經テ條約
 ヲ執行スルニ必要ナル法律ヲ制定シ爲ニ條約モ完全ニ成立シタルトキハ格段

ノ事情アル場合ノ外此ノ法律ヲ改廢スルコトヲ得ス何トナレハ條約ハ双方間ニ有効ニシテ一國ノ意思ノミヲ以テ之ヲ破棄スルコトヲ得サレハナリ若シ強テ條約ハ立法ヲ檢束スト云ハント欲セハ右ノ如キ場合ヲ指シテ云フヘキモノトス

四三〇 本條ニ依レハ法案提出權ハ政府及貴衆兩院ニ存ス故ニ政府モ法律案ヲ提出スルコトヲ得ヘク貴族院モ之ヲ提出スルコトヲ得ヘク衆議院モ亦之ヲ提出スルコトヲ得ヘシテ憲法改正案政府命令ニ牴觸スル法律案及現行條約ニ牴觸スル法律案等ヲ除クノ外ハ何等ノ法律案ト雖モ兩院ニ於テ提出スルコト能ハサルモノナシ但シ提出ノ時機ニ關シテ制限ヲ受クルコトアルハ次條ノ下ニ述フルカ如シ

四三一 法律案ノ提出トハ何ソヤ此ノ問題ニ就テハ三說アリ第一說ハ政府又ハ兩院議員カ法律ノ草案ヲ議院ニ提出スルト同時ニ草案變シテ本條ノ所謂法律案トナルモノナリト云フ然レモ此ノ說ノ誤謬ナルコト條文ニ照シテ明カ

ナリ條文ニ議院トアリテ議院ノ議員トナシ故ニ法律案提出ノ權ハ政府及兩院ニ屬スルモノニ兩院議員ニ屬スルモノニアラス議員一己人ニ發議ノ權アルヲ見テ直ニ議員一己人ニ法律案提出ノ權アリトスルハ誤見ニシテ憲法ニ違背スルノ解釋ナリ
第二說ハ政府又ハ議員カ法律ノ草案ヲ議院ニ提出シ議題トナリタルトキ始メテ法律案トナルモノナリト云フニアリ而シテ此ノ說ハ穂積博士ノ主唱スル所ナリ博士曰ク

立法ノ手續ニ於テ法律案ノ提出ヲ以テ第一ノ順序ト爲ス法律案ノ提出ノ以前ニハ公法上立法ノ手續ト云フヘキモノハ無シ法律案ヲ提出スルト云フハ法律案ナルモノアリテ其モノヲ提出スルカ如ク見ユレモ法理ハ然ラス法律案ノ法律案タルハ提出セラレタルカ爲メニテ法律案トナルヘキモノヲ起草スルハ立法ノ手續ニ非ラス故ニ政府ノ官吏ニシテモ議員一己人ニシテモ又ハ臣民一己人ニシテモ外國人ニシテモ之ヲ起草スルコトヲ得ヘキニテ此ノ

法律ノ草案ノ箇條ヲ起草スルハ無論法律案ナルモノニ非ス法律案ト云フキ
 ハ政府又ハ議員一己人カ法律案ト爲シタシトテ發議シタルモノハ一ノ議院
 ニ於テ之ヲ法律トシテ議セントノ議決ヲ經テ始メテ法律案トナルモノナリ
 博士カ立法ノ手續ニ於テ法律案ノ提出ヲ以テ第一ノ順序トスト云ヘルヨリ法
 律ノ草案ノ箇條ヲ起草スルハ無論法律案ナルモノニ非スト云フニ至ルマテハ
 余モ亦同感ニシテ何等ノ異論ナシト雖モ政府又ハ議員一己人カ法律案ト爲シ
 タシトテ發議シタルモノハ一ノ議院ニ於テ之ヲ法律案トシテ議セントノ議決
 ナ經テ始メテ法律案トナルモノナリト云フニ至テハ其ノ一半ニ付テ余ハ反對
 ノ意見ヲ有ス若シ博士ノ説ノ如ク議院ニ於テ之ヲ法律案トシ議セントノ議決
 ナ經テ始メテ法律案トナルモノトナストキハ法律案提出ノ權ハ政府之ヲ有セ
 スシテ議院獨リ之ヲ有スルモノト解セサルヘカラスシテ本條ノ明文ニ違背ス
 ルコト明カナリ政府カ議案ヲ議院ニ提出スルハ其ノ議案ガ未タ法律案トナラ
 サルカ故ニ之ヲ法律案ト爲シタシトテ提出スルモノニアラスシテ法律案ノ議

決ヲ求メンカ爲ニ議院ニ提出スルモノナリ政府ノ議案ハ議院ノ法律案トシテ
 議セントノ議決ヲ經テ始メテ法律案トナルモノニアラサルナリ若シ然ラスト
 云ハハ法律案提出ノ權ハ議院獨リ之ヲ專有スルコトハナルヘシ故ニ余ハ博士
 ノ説ニ同意スルコト能ハス

第三説ハ一院ニ於テ可決シタル議案ヲ他院ニ送付スルノ時ヲ以テ法律案ノ提
 出トナスモノニシテ一木學士ノ主唱スル所ナリ學士曰ク

抑モ法律案ヲ提出スルノ權ハ憲法第三十八條ニ依リ專ラ政府及ヒ兩院ニ屬
 ス各院ノ議員カ其ノ所屬ノ議院ニ於テ法律案ヲ發議スルハ議院ヨリ法律案
 ナ提出スヘキコトヲ發議スルモノニシテ若シ此ノ發議カ該院ノ可決ヲ得サ
 ルトキハ是レ即チ法律案ハ未タ提出セラルヘニ及ハスシテ消滅シタルナリ
 蓋シ一ノ法律案ハ其ノ未タ消滅セサルニ先チテ再ヒ之ヲ提出スルコトヲ得
 ス何トナレハ一ノ事實ハ二箇ノ原始ヲ有スルコト能ハサレハナリ是レ余輩
 ノ既ニ論シタル所ナリ故ニ憲法カ議員ノ發議ヲ以テ法律案ノ提出ト認ムル

コトヲ仮定セハ此ノ發議ニ基キ一院ヨリ他院ニ法律案ヲ移スハ法律案ヲ提出スルモノト認ムルコト能ハス之ニ反シテ一院ヨリ他院ニ法律案ヲ提出スルヲ以テ眞ノ法案提出トナストキハ其ノ提出ノ基礎タル議員ノ發議ハ眞ノ法案提出ニ非サルナリ故ニ議員カ法案提出權ヲ有スルトキハ議院ハ此ノ權利ヲ有スルコトヲ得ヘカラス議院モ議員モ共ニ此ノ權利ヲ有スト謂フハ彼是相容レサルノ想念ナリ議員カ其ノ所屬ノ院ニ於テ法律案ヲ發議スルハ一タヒ法案ヲ提出スルモノニシテ議院カ之ヲ可決シテ他院ニ提出スルハ再ヒ法案ヲ提出スルモノナリト言ハハ何人モ其ノ法案提出權ノ性質ニ反スルコトヲ疑ハサルヘシ憲法第三十八條ハ政府及ヒ各院ノ法案提出權ヲ認メタリ是ニ由テ見レハ憲法ハ議員ノ法案提出權ヲ認メサルナリ

前項論スルカ如ク法案提出權ハ議員ニ屬セスシテ獨政府及ヒ各院ニ屬ス而シテ議員カ其ノ所屬ノ院ニ於テ發議スル所ハ單ニ法律案ヲ該院ヨリ提出スルコトヲ發議スルモノニ過キササルナリ故ニ一院ニ於テ其ノ議員ノ發議シタル

ル法律案ヲ否決スルモ政府又ハ他院ハ同會期內ニ同一ノ法律案ヲ提出スルヲ妨ケラルヘコトナシ何トナレハ此ノ場合ニ於テハ法律案ハ未ダ一タヒモ提出セラレタルコトナキカ故ニ憲法第三十九條ニ所謂再ヒ提出スルモノニアラサレハナリ蓋シ一院ニ於テ其ノ議員ノ發議シタル法律案ヲ否決スルハ政府若クハ他院ヨリ提出シタル法律案ヲ廢棄スルト大ニ趣意ヲ異ニスル所アリ議員ノ發議ハ管ニ法律ヲ以テ或ル事件ヲ規定セントスルノ目的ヲ有スルノミナラス亦其ノ所屬ノ議院ヲシテ其發案權ヲ行用シ立法ノ首唱者ヲラントスルノ目的ヲ有スルモノナリ故ニ議院カ此ノ發議ヲ廢棄スルハ必スシモ其ノ法律案ヲ非ナリトスルカ爲ニ非スシテ單ニ自カラ之ヲ首唱スルノ要ヲ有セストノ趣意ニ出ツルコトナシト謂フヘカラス此ノ場合ニ於テハ政府及ヒ他ノ議院ハ何カ故ニ同一ノ法律案ヲ提出スルコトヲ得サルカ是レ余輩ノ解セサル所ナリ設シ一院ニ於テ議員ノ發議ヲ否決シタル場合ニハ政府モ他院モ同會期中同一ノ法律案ヲ提出スルコトヲ得ストセハ是レ即チ一院ノ

議員ハ其ノ發議ノ時機宜シキヲ得サリシ爲又ハ法律案ノ説明當ヲ得サリシ
爲政府及ヒ他院ヲシテ同會期中同一ノ法案ヲ提出スルノ權ヲ失ハシムルコ
トヲ得ルモノナリ

余ガ見テ以テスレハ學士ノ説誤レリ一院ニ於テ可決シタル法律案ヲ他院ニ移
スハ法律案ノ送付ニシテ法律案ノ提出ニアラス議案ヲ他院ニ移シテ始メテ法
律案トナルモノニアラス法律案トナルハ其ノ以前ニアリ可決シタルモノヲ他
院ニ移スハ他院ノ同意ヲ得ンカ爲ニ之ヲ送付スルモノニ外ナラス又一院ニ於
テ法律案ヲ可決スルハ法律案自身ヲ可決スルモノニ他院ニ送付スルコトヲ
可決スルモノニアラス他院ヘソ送付ハ法律案ノ可決ヨリ生スル當然ノ結果ナ
リ
學士ハ一院ヨリ他院ニ送付スルハ即チ法律案ノ提出ニシテ議員ガ議案ヲ發議
スルハ其ノ所屬ノ議院ヨリ他ノ一院ニ法律案ヲ提出セラレシムルヲ求ムルモノ
ナリト云ヘリ而シテ同一ノ法案ヲ同時ニ兩院ニ提出スルコトヲ得ルヤ否ヤソ

問題ニ對シテ學士ハ同時ニ兩院ニ提出スルモ憲法上差支ナシト論定シタリ之
レ前後矛盾スルモノナリ其ノ然ル所以ハ一院ヨリ他院ニ送附スルノ時ヲ以テ
法律案ノ提出トナストキハ既ニ議決シタル同一ノ議案ヲ日ト時トテ同フ甲
院ヨリ乙院ニ又乙院ヨリ甲院ニ提出スル輕業的ノ場合ノ外同一ノ法案ヲ同時
ニ兩院ニ提出スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ヲ生スルコトナケレハナリ又學士ノ説
ニ從フレハ甲院ヨリ送付ヲ受ケタル乙院ニ於テノ議決ハ即チ法律案ニ對スル
ノ議決ナレトモ之ヲ送付シタル甲院ノ議決ハ憲法上所謂法律案ニ對スルノ議
決ニアラスト云ハサルヘカラス何トナレハ法律案提出以前ニ憲法上所謂法律
案ノ存在スル理ナケレハナリ從テ兩院ノ議決アルモノ一院ハ法律案ニ對シ一院
ハ未タ法律案トナラサル議案ニ對シ議決シタルモノニ法律案ハ兩院ノ議決
ヲ經ルニアラサレハ確定セサルモノトスル原則ニ從ハント欲セハ乙議院ニ於
テ之ヲ可決シタル上甲議院ニ返付シ甲議院再ヒ議決スヘキモノトナサザルヘ
カラス之レ實ニ奇怪ノ結果ニアラスヤ余カク云ハハ學士或ハ云ハソ一院ヨリ

他院ニ送付スル以前既ニ法律案タリ只一院ヨリ他院ニ送附スル時ヲ以テ提出トナスヘキノミト然ラハ問ハノ一院ヨリ他院ニ送附スルガ即チ法律案ノ提出ナリト云ハハ第六十五條ハ如何ニ解セントスルカト第六十五條ニ曰ク豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシト豫算案モ亦法律案ナルヤ否ヤハ暫ク措キ此ノ條ノ提出ノ文字ト本條ノ提出ノ文字トハ同一ナルカ故ニ格段ノ理由ナキ以上ハ本條ノ提出ノ解ハ第六十五條ノ提出ニモ應用セサルヘカラス而シテ一院ヨリ他院ニ送付スルカ即チ提出ナリトスルトキハ政府ヨリスルモノハ一院ニ送付スルト同時ニ法案提出ニシテ議院ヨリスルモノハ他院ニ送付スル時ガ即チ法案提出ナリトノ不當ノ論決其不當ナル所以ハ政府ヨリ提出シタル場合ニ於テ一院之ヲ否決シタルトキハ他院之ト同一ナル法案ヲ提出スルコトヲ得ザルモ議院ヨリスル場合ニ於テ一院之ヲ否決シタルトキハ他院ハ固ヨリ其議案ヲ否決シタル議院ニ於テモ再ヒ同一ノ法案ヲ討議スルコトヲ得ルモノトスル奇怪ナル結果ヲ生スルカ故ナリ與ヘサル以上ハ到底第六十五條ヲ解スルコト能ハサルヘシ蓋シ法律ノ草案ハ議會ニ提出スルニヨリテ始メテ法律案トナルモノニシテ提出前ニ法律案ノ存在スル理ナキモノトス又學士ハ議員ノ發議ハ實ニ法律ヲ以テ或ル事件ヲ規定

セントスルノ目的ヲ有スルノミナラス亦其ノ所屬ノ議院ヲシテ其ノ發案權ヲ行用シ立法ノ首唱者ヲラントスルノ目的ヲ有スルモノナリ故ニ議院カ此ノ發議ヲ廢棄スルハ必スシモ其ノ法律案ヲ非ナリトスルカ爲ニ非スシテ單ニ自ラ之ヲ首唱スルノ要ヲ有セストノ趣意ニ出ツルコトナシト謂フヘカラスト云フモ斯ノ如キハ法理以外ノ議論ナリ法理ハ只法律ヲ以テ或ル事項ヲ規定セントスルノ目的ヲ認ムルノミ首唱者タルノ榮譽ヲ求メントスルカ如キ目的ヲ認メス

以上要スルニ法律案提出ノ解ニ就キ三説アレントモ皆正鵠ヲ得タルモノニアラス而シテ余ノ信スル所ハ左ノ如シ

法律案ハ之ヲ二个ニ區別スヘシ政府ノ提出スルモノト議院ノ提出スルモノト是ナリ

政府ヨリ提出スルモノハ其ノ議案ヲ議院ニ送付スルト同時ニ法律案タリ故ニ此場合ニ於テハ政府ガ議案ヲ議院ニ送付シタル時ヲ以テ法律案提出セラ

レタルモノトス
議員ノ發議ニ係ルモノハ議院ニ於テ之ヲ法律案トシテ議セントノ議決ヲナシタルトキ即チ議題トナルトキニ始メテ法律案ノ性質ヲ有スルモノトス故
ニ此ノ場合ニ於テハ議題トナリタルトキヲ以テ法律案提出セラレタルモノトス

右ノ如ク解スルトキハ第一説ノ議員一己人ニ法律案提出權アリトスル不都合ヲ避クルコトヲ得ヘク又第二説ノ法律案提出權ハ議院ノミ之ヲ有スルモノトスル不都合ヲ避クルコトヲ得ヘク又第三説ノ他院ニ送付スル時ヲ以テ法律案提出ナリトスル不都合ヲ避クルコトヲ得ヘシ

三三三 政府ハ同一ノ法案ヲ同時ニ兩院ニ提出スルコトヲ得ルカ曰ク提出スルコトヲ得ヘシ何トナレハ同時ニ兩院ニ提出スルモ憲法ニ牴觸スル所ナクレハナリ或ハ第三十九條ヲ以テ之ヲ排斥モシトスル者アルヘキモ該條ハ法律案ノ再提出ヲ禁シタルモノニシテ本問ノ如キ場合ニ適用スルコトヲ得ス本問

ス場合ハ否決セラレタル法律案ヲ再ヒ提出スルニアラスシ
兩院ヲシテ同一ノ議案ヲ討議セシムル場合ナリ但シ一院ニ於テ其ノ法律案ヲ否決シタルトキハ他院ハ其ノ討議ヲ廢棄スヘキハ當然ナリ何トナレハ之ヲ討議スルモ無効ナレバナリ

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中

ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

三三四 本條ハ兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得サル旨ヲ定メタルモノナリ何故ニ此ノ規定アルヤト云フニ同會期中ニ於ケル議案ノ再提出ハ議院ノ威嚴ヲ損スルノミナラス徒ラニ無用ノ繁雜ヲ來スニ過キサレハナリ
否決シタル法律案トハ法律トナスヘキモノニアラストテ廢棄シタル法律案ヲ云フ

再ヒ提出シタル法律案ノ前ニ否決シタル法律案ト實體上同一ナルヤ否ヤハ提出セラレタル議案ニ於テ決スヘキモノトス

三三 本條ハ法律案ノ再提出ヲ禁シタルモノニシテ議員一己人ノ發議ヲ禁シタルモノニアラス議員ノ發議ハ議員一己人ノ意見ノ表示ニ止マルモノニシテ未ダ法律案トナレルニアラス故ニ議題トナラサル以上ハ同會期中ト雖モ再ヒ發議スルコトヲ得ヘク三タヒ四タヒスルコトヲ得ヘシ決シテ本條ノ禁スル所ニアラス只議事規則ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得ルノミ

三六 裁可ヲ得サル法律案ハ同會期中ニ再ヒ提出スルコトヲ得ルヤ否本條ハ此ノ問題ニ對シテ何等ノ決定ヲ與ヘス其ノ然ル所以ハ之ヲ明示スルノ要ナケレハナリ裁可ハ何レノ時機ニ之ヲ行フモノナルヤヲ知リタテニハ此ノ問題ハ決シテ起ラサルナリ

議院法第三十二條ニヨレハ兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラルモノハ次ノ會期マテニ公布セラルモノナリ故ニ裁可セラルヤ否ヤ

ハ次ノ會期マテ待タサレハ知ルコトヲ得サルモノニシテ夫レマテハ議決ヲ經タル法律案ハ依然トシテ法律案タリ故ニ本問ノ如キ問題ハ起ラサルモノトス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

三七 法律ニ付建議スル場合トハ例令ハ新タニ法律ヲ制定シ又ハ改正セントスルニ當リ議院ニ於テ其ノ法律ノ草案ヲ起草スルノ不便ナル場合ニ於テ起草ノ主意ヲ政府ニ通知シ政府ヲシテ起草ノ任ニ當ラシムルカ如キ場合ヲ云ヒ其ノ他ノ事件ニ付建議スル場合トハ例ヘハ外交ニ關スルコト又ハ軍事ニ關スルコトニ付テ意見ヲ述フルカ如キ場合ヲ云フ

法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付テトアリ故ニ建議ノ區域ハ無限ニシテ何事ニテモ建議シ得サルモノナシ

其ノ採納ヲ得サルモノヲ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ禁スル所以ハ紛議強迫ニ涉ルノ恐レアルカ故ナリ
建議ハ只議院ノ意見ヲ政府ニ告知スルモノニ外ナラサレハ爲ニ權義ノ關係ヲ生スルコトナシ故ニ政府ニ於テ之ヲ採納セサルコトヲ得ルハ勿論議院ハ其ノ採納如何ノ決答ヲ求ムルノ權ナキモノトス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

三六 帝國議會召集ノ權ハ天皇ニ屬スルコト第七條ノ明定スル所ナリ然レトモ該條ノミニテハ毎年之ヲ召集スヘキカ將々二年又ハ三年毎ニ之ヲ召集スヘキカ明カナラス之レ本條ノ定メアル所以ナリ

三七 帝國議會ハ毎年之ヲ召集スト定メタル本條ニ一ノ例外アリト説クモノアリ伊藤侯ノ如キ即チ然リ侯曰ク議會ヲ召集スルハ專ラ天皇ノ大權タリ然ルニ本條ニ毎年召集スルコトヲ定ムルハ憲法ニ於テ議會ノ存立ヲ保障スル所以ナリ但シ第七十條ニ掲ケタル場合ノ如キハ非常ノ例外タリト侯ハ第七十

條ヲ以テ本條ノ例外ナリトスルモ余カ見ハ之ト反ス何トナレハ第七十條ハ臨時會ヲ召集スル能ハサル場合ヲ指スモノニシテ通常會ヲ召集スル能ハサル場合ヲ指スモノニアラサレハナリ但シ侯モ第七十條ハ臨時會ヲ召集スル能ハサル場合ナルコトヲ明言ス曰ク第八條ト異ナル所ノ者ハ第八條ハ憲法ニ於テ議會開會セサルトキハ臨時會ノ召集ヲ要セス本條ハ議會開會セサルトキハ臨時會ヲ召集ヲ要ス而シテ内外ノ情形ニ由リ議會ヲ召集シ能ハサルトキニ限り始メテ議會ノ叶同ヲ待タスシテ必要ノ處分ヲ施スコトヲ得下依是觀之侯カ本條ヲ解スルニ當リ但シ第七十條ニ掲ケタル場合ノ如キハ非常ノ例外タリト云ヘルハ全ク過失ニ出テタルモノナルヘシ

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合

ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

四〇 本條ハ帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トスル旨及必要アル場合ニ於

テハ勅令ヲ以テ之ヲ延長スルコトアル旨ヲ定メタルモノナリ勅命ヲ以テトアリ故ニ議會自カラ其ノ會期ヲ延長スルコト能ハス又君主ハ會期ヲ延長スルコトヲ得ルモ之ヲ短縮スルコトヲ得ス

四四 會期トハ議會ノ開會ヨリ閉會ニ至ルマテノ期間即チ議會ノ存スル間ヲ云フモノニシテ會期終リタルトキハ次ノ會期マテハ議員アルモ議會ナキノ姿ニテ次ノ會期トハ全ク何等ノ關係ヲ有セサルモノトス即チ前ノ會期ト次ノ會期ト議事繼續スルモノニアラス

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅令ニ依ル

四四 本條ハ臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スル旨及臨時會ノ會期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムル旨ヲ定メタルモノナリ常會トハ毎

年召集スル所ノ三箇月ノ會期ヲ有スル議會ヲ云ヒ臨時會トハ常會ノ外ニ於テ召集スル所ノ議會ヲ云フ

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラレヘシ

四四三 議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フモノトス蓋シ是等ノ事柄ハ議會全体ニ關スルモノニシテ一院ニ對スル處分ニアラサレハナリ然レトモ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院モ解散スルニアラスシテ同時ニ停會セラレ、モノトス

停會トハ議會ノ會議ヲ一時中止スルヲ云フ中止ニシテ斷絶ニアラサルカ故ニ停會ノ期限經過後ハ議事ヲ繼續スルハ勿論議長委員部局ノ如キ議院ノ組織ハ

少シモ變更セサルモノトス但シ衆議院ヲ解散シタルカ爲ニ貴族院ノ停會セラレタルトキハ議事ハ全ク中絶スルモノトス
停會中ノ日數ハ會期ニ算入スヘキヤ曰ク算入スヘシ何トナレハ停會中ト雖モ議會ハ依然存在スルモノナレハナリ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十四條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スルモノトス解散トハ衆議院議員ヲシテ議員タルノ資格ヲ消滅セシメ議會ヲ閉スルノ云ヒニシテ停止ト異ナリ故ニ新タニ召集セラレタル議會ハ縱令前議員再選セラルモ前ノ議會ト何等ノ關係ヲ有セサルモノトス

第四十六條 兩議院ハ各其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十五條 兩議院ハ各其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得サルモノトス而シテコノニ所謂總議員トハ召集ニ應ジタル議員ノ總數ヲ云フニアラスシテ選舉法ノ定ムル所ニ依ル議員ノ總數ヲ云フモノナリ

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議トキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十六條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決スヘク若シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ルモノトス而シテ過半数トハ出席議員全体ノ半数以上ト云フ意ニテ議長モ其ノ中ニ包含ス故ニ議長ハ可否數ニ加ハリ一度ヒ其竟見ヲ表示シ尙ホ可否同數ナル場合ニ於テ再ヒ其ノ竟見ヲ表示スルモノトス

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

四四七 兩議院ノ議事ハ之ヲ公開スルヲ原則トス然レトモ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニヨリ秘密會ト爲スコトヲ得ルナリ

條文ニ秘密會ト爲スコトヲ得トアリ即チ或ル場合ニ於テハ秘密會トナスコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノニシテ必スシモ秘密會トナサザルヘカヲサル旨ヲ定メタルモノニアラス秘密會トナスト否トハ議院ノ自由ナリ故ニ政府ノ要求アル場合ト雖モ議院ハ其ノ要求ニ應シテ秘密會トナスヘキノ義務ヲ負フモノニアラス

第四十九條 兩議院ハ各天皇ニ上奏スルコトヲ得

四四八 上奏トハ文書ヲ上呈シテ天皇ニ奏聞スルヲ云フ或ハ勅語ニ奉答シ或ハ慶賀吊傷ノ表辭ヲ上リ或ハ意見ヲ建白シ請願ヲ陳疏スルノ類皆其ノ中ニ

御答

アリ

上奏モ亦建議ト同シク議院ト天皇トノ間ニ權義ノ關係ヲ生スルモノニアラス

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

四四九 請願モ亦之ヲ爲スモノト受クルモノトノ間ニ法律上ノ關係ヲ生スルモノニアラス

如何ナル請願ハ之ヲ受ケ將タ受ケサルヘキヤ其ノ受ケタル請願ハ如何ニ之ヲ處置スヘキヤ等ノコトハ議院法及ヒ議院ノ内規ニ於テ定ムヘキモノトス

四五〇 兩議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ヘキヤ議院法第六十七條ニ曰ク各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得スト故ニ議院法ニヨレハ斯ノ如キ請願ヲ受クルコトヲ得サルコト明カナリ然レトモ此ノ規定ハ本條ニ牴觸スル所ナキヤ否余カ見テ以テスレハ議院法第六十七條ハ違